

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第五百七十七號專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則明治三十八年五月九日官報抄録
第十九條 鹽專賣法第十八條又ハ本令第一條ノニ依リ賣渡シタル鹽ヲ左ノ目的ニ供シタル者ハ左ノ割合ヲ以テ交付金ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

三 其ノ鹽ヲ以テ鹽藏シタル鹽又ハ鹽ヲ輸出シタルトキ
百斤ニ付金一圓三十五錢

鹽藏魚類ニ對スル使用鹽ノ數量ハ鹽藏魚類ノ重量百ニ對シ左ノ割合ヲ以テ計算ス此ノ場合ニ於テハ第十三條第三項但書及第二十六條第三項但書ノ規定ヲ準用ス
四十六

鹽水漬鹽及鹽

五十二

第二十一條 第十九條第一號又ハ第三號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ其ノ輸出申告書ニ少クモ鹽又ハ鹽藏魚類ノ種類、數量、輸出先、積載船名及其ノ内國寄港地名ヲ記載スヘシ

前項ノ申告アリタルトキハ稅關ハ鹽又ハ鹽藏魚類ノ數量ヲ檢定スヘシ

第二十一條ノ二 第十九條第三號ニ依リ交付金ノ下付ヲ受ケタル鹽藏魚類ヲ輸入シタルトキハ輸入港所轄鹽專賣官署ニ於テ其ノ輸入者ヨリ交付金ニ相當スル金額ヲ追徴ス

前項ニ依リ追徴金ヲ納入シタル後ニ非ザレハ輸入者ハ其ノ鹽藏魚類ヲ稅關ヨリ引取ルコトヲ得ス

第二十二條 第十九條第二號ニ依リ第一號、第二號、第四號及第五號ノ用途ニ使用シタル鹽ニ對シ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ交付金下付申請書ニ鹽使用證明書ヲ添附シ使用地所轄鹽專賣官署ニ之ヲ提出スヘシ但シ鹽藏魚類證明書ヲ以テ鹽使用證明書ニ代フルコトヲ得

第二十三條第一項及第二項

前條ノ鹽使用證明書ヲ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用ノ際申請書ヲ使用地所轄鹽專賣官署ニ提出スヘシ
前條ノ鹽藏魚類證明書ヲ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用前申請書ヲ所轄鹽專賣官署ニ提出スヘシ

第二十六條第一項

前二條ニ依リ鹽ノ檢定ヲ受ケタル者鹽藏魚類ノ種類、數量、鹽藏及鹽藏ノ場所及時期、鹽藏物ノ仕

向先ヲ記載シタル鹽使用證明申請書ヲ鹽ノ檢定地所轄鹽專賣官署ニ提出シ鹽藏物及殘存鹽ノ檢査ヲ經テ鹽藏用ニ供シタル鹽ノ使用證明書ヲ交付ヲ受ケルヘシ

第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ交付金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得ス

一 外國ニ輸出シタル鹽又ハ鹽藏魚類ニ付テハ輸出後六箇月第一號第一號、第二號、第四號乃至第六號ノ用途ニ使用シタル鹽ニ付テハ使用後六箇月ヲ經過シタルトキ

外國ニ輸出シタル鹽又ハ鹽藏魚類ニ對スル陸揚證明書ノ數量ヲ輸出免狀ニ記載シタル鹽又ハ鹽藏魚類ノ數量ニ對シ不足シタル場合ニ於テ正當ノ事由ナシト認メタルトキハ其ノ不足額ニ對シ交付金ヲ下付セス

朕朝鮮駐劄憲兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月十日

內閣總理大臣 侯爵桂 太郎
陸軍大臣 子爵寺內正毅
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第三百四十二號 (官報 九月十二日)

朝鮮駐劄憲兵條例

第一條 朝鮮駐劄憲兵ハ治安維持ニ關スル警察及軍事警察ヲ掌ル

第二條 朝鮮駐劄憲兵ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其ノ職務ノ執行ニ付テハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ク軍事警察ニ付テハ陸軍大臣及海軍大臣ノ指揮ヲ承ク

第三條 憲兵將校准士官下士上等兵ニハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ在職ノ儘警察官ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

第四條 前條ノ規定ニ依リ警察官ノ職務ヲ執行スル者其ノ警察事務ニ關シ職權ヲ有スル上長ヨリ命令ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ服行スヘシ

第五條 憲兵ハ其ノ職務ニ關シ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第六條 憲兵ハ左ニ記載スル場合ニ非サレハ兵器ヲ用ウルコトヲ得ス

一 暴行ヲ受クルトキ又ハ兵器ヲ用ウルニ非サレハ其ノ職務ヲ執行シ得サルトキ

二 人又ハ土地其ノ他ノ物件ヲ防衛スルニ兵器ヲ用ウルニ非サレハ他ニ手段ナキトキ

第七條 京城ニ憲兵隊司令部ヲ置キ各憲兵隊管區ニ一憲兵隊ヲ配置ス

前項ノ憲兵隊ハ之ヲ本部及分隊ニ分ツ

第八條 憲兵隊ノ管區並本部及分隊ノ配置ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第九條 憲兵隊司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵隊司令官

憲兵隊司令部副官

憲兵隊司令部附佐尉官

憲兵下士

憲兵隊ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵隊長

憲兵隊副官

憲兵分隊長

憲兵准士官下士上等兵

憲兵隊司令部及憲兵隊ニハ經理部、衛生部及獸醫部將校相當准士官下士、蹄鐵工長並高等文官及判任文官ヲ附スルコトヲ得

憲兵將校准士官下士上等兵ハ豫備役後備役ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十條 憲兵隊司令官ハ各憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス

第十一條 憲兵隊司令官ハ憲兵隊ノ軍紀、風紀、訓練、教育及職務服行ヲ檢閲スヘシ

第十二條 憲兵隊司令官ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ一時憲兵隊ノ一部ヲ其ノ管區外ニ派遣スルコトヲ得但シ急ヲ要スルトキハ認可ヲ受ケシテ之ヲ派遣スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ

旨ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第十三條 憲兵隊長ハ各分隊ヲ統轄シ其ノ勤務ノ方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ掌理ス

第十四條 憲兵隊司令部附佐尉官ハ司令官ノ命ヲ承ケ勤務ニ服ス

第十五條 憲兵隊司令部副官ハ司令官、憲兵隊副官ハ隊長ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十六條 憲兵分隊長ハ部下ヲ指揮監督シ其ノ勤務ノ方法ヲ指定シ分隊ノ事務ヲ處理ス

第十七條 憲兵隊ニ憲兵補助員ヲ附屬ス憲兵補助員ノ取扱ハ其ノ職務ニ應シ憲兵上等兵又ハ陸軍

一、二等卒ニ準ス

第十八條 憲兵ノ服務及憲兵補助員ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年勅令第三百二十三號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治四十年十月勅令第三百二十三號ハ韓國ニ駐劄スル憲兵ニ關スル件ナリ

朕海軍病院條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月十四日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第三百四十四號 (官報 九月十五日)

海軍病院條例

- 第一條 各軍港ニ海軍病院ヲ置ク
- 海軍病院ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス
- 第二條 海軍病院ハ鎮守府ニ屬シ患者ノ診療、看護手看護ノ教育、治療品ノ準備供給、諸般ノ衛生的検査及傳染病消毒ニ關スルコトヲ掌ル
- 第三條 海軍病院ニ第一部、第二部、藥劑科及看護術練習所ヲ置ク
- 前項ノ外佐世保海軍病院及舞鶴海軍病院ニ消毒所ヲ置ク
- 第四條 第一部ニ於テハ外科部門ニ屬スル患者ノ診療ヲ掌ル
- 第五條 第二部ニ於テハ内科部門ニ屬スル患者ノ診療及藥劑科ニ屬セサル衛生的検査ヲ掌ル
- 第六條 藥劑科ニ於テハ治療品ノ準備供給、被服糧食藥品等ノ理化學的検査及調劑製煉ニ關スルコトヲ掌ル
- 第七條 看護術練習所ニ於テハ高等看護術ノ教授ヲ掌ル

第八條 消毒所ニ於テハ傳染病ノ發生セシ艦船其ノ他ノ大消毒ニ關スルコトヲ掌ル

第九條 海軍病院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長

副長

第一部長

第二部長

藥劑科長

看護術練習所長

看護術練習所教官

消毒所長 但シ佐世保海軍病院及舞鶴海軍病院ニ限ル

前項ノ外必要ニ應シ軍醫官藥劑官ヲ置ク

第十條 院長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ院務ヲ總理ス

第十一條 副長ハ院長ノ命ヲ承ケ院長ヲ補佐シ院務ヲ整理シ院長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十二條 部長、科長及所長ハ院長ノ命ヲ承ケ其ノ主務ニ關スル事項ヲ掌理ス

第十三條 看護術練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任ス

第十四條 第九條第二項ニ掲グル軍醫官藥劑官ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條 海軍病院ニハ第九條ニ掲グル職員ノ外海軍看護長並准士官下士卒及書記ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十六條 看護術練習生ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕出版法及新聞紙法中内務大臣ノ職權ヲ樺太廳長官ヲシテ行ハシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月十六日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百四十五號 (官報 九月十七日)

樺太ニ於テハ出版法及新聞紙法中内務大臣ノ職權ハ樺太廳長官之ヲ行ヒ内務省ノ事務ハ樺太廳之ヲ取扱フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕療養所職員ノ名稱待遇及任免ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十一日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
内務大臣 法學博士 平田東助

勅令第三百四十六號 (官報 九月二十二日)

第一條 本令ニ於テ療養所ト稱スルハ明治四十年法律第十一號第四條第一項ノ規定ニ依リ設置スルモノヲ謂フ

第二條 療養所ノ職員左ノ如シ

所長

醫長

醫員

調劑員

書記

第三條 療養所ノ所長及醫長ハ奏任官ノ待遇、醫員調劑員及書記ハ判任官ノ待遇トス

第四條 療養所ノ職員ニシテ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ノ任免、奏薦及宣行ハ奏任官ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ療養所ヲ管理スル地方長官之ヲ行フ

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕療養所職員ノ官等級配當ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十一日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
内務大臣 法學博士 平田東助

勅令第三百四十七號 (官報 九月二十二日)
委任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル癩療養所職員ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス但シ同官等内又ハ同等級内ニ於テハ文武官或ノ次席トス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル癩療養所職員官等配當表			
委任			
五等	六等	七等	八等
年俸千四百圓以上	年俸千二百圓以上	年俸八百圓以上	年俸八百圓未滿
判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル癩療養所職員等級配當表			
判任			
一等	二等	三等	四等
月俸六十圓以上	月俸四十五圓以上	月俸三十五圓以上	月俸三十五圓未滿

朕道廳府縣警察醫及警視廳警察醫員並癩療養所職員ノ休職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

御名 御璽

明治四十三年九月二十一日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
内務大臣 法學博士 平田東助

勅令第三百四十八號 (官報 九月二十二日)
道廳府縣警察醫及警視廳警察醫員並癩療養所職員ノ休職ニ關シテハ明治三十七年勅令第百一十一號ヲ準用ス

朕明治三十七年勅令第二十二號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十六日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
内務大臣 法學博士 平田東助

勅令第三百四十九號 (官報 九月二十七日)
明治三十七年勅令第二十二號中左ノ通改正ス
第一條 第二條及第六條第二項中「臺灣總督」ノ下ニ「樺太廳長官」ヲ第六條第二項及第八條中「臺灣總

督以下ニ樺木ニ在リテハ樺木廳長官ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

明治二十七年八月二十日勅令第二十二號ハ府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件ナリ

朕關東州裁判事務取扱令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十七日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百五十號 (官報 九月二十八日)

關東州裁判事務取扱令中左ノ通改正ス

第一條中「明治三十二年勅令第二百七十一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一工場抵當法

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

勅令第二百十三號關東州裁判事務取扱令(明治四十一年九月二十四日官報)抄録

第一條 民事刑事及非訟事件ニ關スル事項ハ左ノ法令ニ依ル

朕水産講習所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十七日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

農商務大臣 男爵大浦兼武

勅令第三百五十一號 (官報 九月二十八日)

水産講習所官制中左ノ通改正ス

第二條中「七人」ヲ「十一人」ニ書記ノ下「四人」ヲ「六人」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

明治三十年五月二十日勅令第四十七號第二條中七人ハ專任技師、四人ハ專任書記ノ定員ナリ

朕農會令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十七日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

農商務大臣 男爵大浦兼武

勅令第三百五十二號 (官報 九月二十八日)

農會令中左ノ通改正ス

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

農會ニハ帝國農會、北海道農會、府縣農會、郡農會又ハ市町村農會ノ名稱ヲ附スヘシ但シ島司ヲ置キタル島嶼ニ在リテハ島農會、北海道又ハ沖繩縣ノ區ニ在リテハ區農會、町村組合ニ在リテハ町村組合農會ト稱スルコトヲ得

第三條中「依ル」ヲ「依リ帝國農會ノ區域ハ全國ヲ以テ其ノ區域トス」ニ改ム

第四條中「組織ス」ヲ「組織シ帝國農會ハ北海道農會及府縣農會ヲ以テ之ヲ組織ス」ニ改ム

第六條ニ左ノ一項ヲ加フ

帝國農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數道府縣總數ノ三分ノ二以上タルコトヲ要ス

第八條中「農會ノ設立者ハ」ヲ「帝國農會以外ノ農會ノ設立者ハ」ニ改ム

第八條ノ二 帝國農會ノ設立ヲ發起スル農會ハ會則案ヲ定メ第四條ニ依リ之ヲ組織スヘキ他ノ農會ニ對シ同意ヲ求ムヘシ

第八條ノ三 帝國農會ノ設立ヲ發起シ及其ノ設立ニ同意シタル農會ハ各一名ノ創立委員ヲ選舉スヘシ其ノ選舉ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第八條ノ四 帝國農會ノ設立ヲ發起シ及其ノ設立ニ同意シタル農會ノ數第六條第四項ニ定メタル條件ヲ具備スルニ至リタルトキハ發起者ハ創立委員會ヲ招集シ委員長一名ヲ互選セシムヘシ

創立委員長就任シタルトキハ發起者ハ其ノ事務ヲ之ニ引繼グヘシ

第八條ノ五 創立委員會ニ於テハ會則ヲ議定スヘシ

會則ノ議定ハ道府縣總數ノ三分ノ二以上ニ相當スル創立委員ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第八條ノ六 創立委員會ヲ終リタルトキハ創立委員長ハ會則ヲ農商務大臣ニ差出シ農會設立ノ許可ヲ受クヘシ

第九條第一項第一號中「並北海道農會、府縣農會及郡農會」ヲ「及市町村農會以外ノ農會」ニ改メ同項ニ左ノ一號ヲ加フ

十一 第三條第一項ノ區域ニ依ラサル農會ニ在リテハ其ノ區域

第十條第一項中「北海道農會、府縣農會及郡農會」ヲ「其他ノ農會」ニ「代表者」ヲ「選舉シタル議員及特別議員」ニ改ム

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

農會ハ議員及議員事故アルトキ之ヲ代理スヘキ豫備議員各一名ヲ選舉スヘシ

同條第三項ヲ削ル

第十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

郡農會ノ議員及豫備議員ハ町村農會ノ總會ニ於テ役員タル會員中ヨリ、北海道農會及府縣農會ノ議員及豫備議員ハ郡市農會ノ總會ニ於テ役員タル會員又ハ議員中ヨリ之ヲ選舉ス但シ役員タル會員又ハ議員中ヨリ選舉スルコト能ハサル場合ニ於テハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員中郡農會ニ在リテハ其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

帝國農會ノ議員及豫備議員ハ北海道農會及府縣農會ノ總會ニ於テ其ノ區域内ニ於ケル市町村農會ノ會員及北海道農會、府縣農會ノ名譽會員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

帝國農會ノ議員及豫備議員ハ北海道農會及府縣農會ノ總會ニ於テ其ノ區域内ニ於ケル市町村農會ノ會員及北海道農會、府縣農會ノ名譽會員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

帝國農會ノ創立委員ハ第一回ノ議員トシテ選舉セラレタルモノト看做ス
 同條第三項中「代表者及副代表者」ヲ「議員及豫備議員」ニ改メ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 議員又ハ豫備議員ノ改選期ヲ同一ナラシムル爲必要アル場合ニ於テハ農會ハ會則ヲ以テ其ノ任
 期ヲ伸縮スルコトヲ得
 第十二條中「代表者及副代表者」ヲ「議員及豫備議員」ニ改ム
 第十二條ノ二 農商務大臣ハ帝國農會ノ特別議員、地方長官ハ北海道農會又ハ府縣農會ノ特別議
 員ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ員數ハ其ノ農會ヲ組織スル農會ノ數ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得
 ス
 特別議員ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ二箇年トス但シ農商務大臣又ハ地方長官ハ任命ノ際特ニ之ヲ
 短縮スルコトヲ得
 第十五條中「會員又ハ代表者」ヲ「其ノ總會ヲ組織スル者」ニ改ム
 第十七條中「五名」ノ下ニ「帝國農會ニ在リテハ十五名」ヲ加フ
 第十八條第一項中「代表者」ヲ「其ノ總會ヲ組織スル者」ニ改ム
 同條第二項ヲ左ノ如ク改ム
 帝國農會ノ評議員ハ議員中ヨリ其ノ三分ノ二、特別議員中ヨリ其ノ三分ノ一ヲ選舉スヘシ
 幹事ハ會長之ヲ命ス
 第二十七條中「認ムルトキハ」ノ下ニ「帝國農會」ヲ加フ
 第三十條中「代表者」ヲ「議員」ニ改ム
 第三十七條中「地方長官」ノ下ニ「帝國農會」ヲ加フ

第三十七條ノ二 本令中郡農會ニ關スル規定ハ島農會ニ、市農會ニ關スル規定ハ北海道又ハ沖繩
 縣ノ區農會ニ、町村農會ニ關スル規定ハ町村組合又ハ町村ニ準スヘキ地ノ農會ニ之ヲ準用ス
 本令ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島中島司ヲ置カサル島嶼ニ在リテハ東京府知事、北海
 道ニ在リテハ支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ在リテハ島司之ヲ行フ

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

既設農會ニシテ其ノ會則本令ニ適合セザルモノハ本令施行後一年內ニ會則ノ變更ヲ爲スヘシ

現ニ市町村農會及郡農會ノ代表者又ハ副代表者タル者ハ其ノ代表スル農會ヨリ選舉セラレタル議
 員又ハ豫備議員ト看做ス但シ其ノ任期ハ代表者又ハ副代表者トシテノ殘任期間トス

〔參照〕

勅令第二百二十五號農會令(明治三十八年十月二十八日官報抄録)

第一條第一項

農會ハ市町村農會、郡農會、北海道農會及府縣農會トス

第三條第一項

市町村農會ノ區域ハ市町村ノ區域ニ依リ郡農會ノ區域ハ郡ノ區域ニ依リ北海道農會又ハ府縣農會ノ區域ハ北海道又ハ府
 縣ノ區域ニ依ル但シ東京府農會ニ在リテハ小笠原島及伊豆七島ヲ除ク

第四條 市町村農會ハ其ノ區域內ニ於テ團體ヲ除クノ外耕地、牧場又ハ原野ヲ所有スル者及農業ヲ營ム者ヲ以テ之
 ヲ組織シ郡農會ハ其ノ區域內ノ町村農會ヲ以テ之ヲ組織シ北海道農會又ハ府縣農會ハ其ノ區域內ノ郡農會及市農會ヲ以
 テ之ヲ組織ス

第八條 農會ノ設立者ハ會則ヲ定メ市町村農會ニ在リテハ五名以上ノ委員、其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ會
 長ヨリ之ヲ行政廳ニ差出シ農會設立ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 會則ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 名稱、北海道農會、府縣農會及郡農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ名稱

第十條 總會ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員、北海道農會、府縣農會及郡農會ニ在リテハ其ノ農會ヲ組織スル農會ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス

農會ノ代表者ハ一農會ニ付一名トス

農會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ副代表者一名ヲ附シコトヲ得副代表者ハ代表者事故アルトキ之ヲ代理ス

第十一條 代表者及副代表者ハ總會ニ於テ役員中ヨリ之ヲ選舉ス但シ役員中ヨリ選舉スルコト能ハサル場合ニ於テハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員中其ノ他ノ農會ニ在リテハ其ノ總會ヲ組織スル代表者中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

名譽會員中ヨリ選舉セラレタル役員ハ前項ノ代表者及副代表者タルコトヲ得ス

代表者及副代表者ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ三箇年トス但シ補闕ノ爲選舉セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十二條 代表者及副代表者ハ其ノ任期満了ノ場合ト雖後任者ノ就任スル迄其ノ職務ヲ行フモノトス

第十五條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニシテ重要ノ事項ニ非サルモノハ會則ノ定ムル所ニ從ヒ會長ニ於テ書面ニ依リ會員又ハ代表者ノ意見ヲ徵シ總會ノ招集ニ代フルコトヲ得

第十七條第三項

評議員及幹事ノ員數ハ會則ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ評議員ハ市町村農會ニ在リテハ七名、北海道農會、府縣農會及郡農會ニ在リテハ五名、幹事ハ二名ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 會長、副會長及評議員ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員中、其ノ他ノ農會ニ在リテハ代表者中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉スヘシ但シ會長及副會長ハ名譽會員中ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ妨ケス

幹事ハ市町村農會ニ在リテハ會員中、其ノ他ノ農會ニ在リテハ代表者中ヨリ會長之ヲ選任ス但シ名譽會員中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ケス

第二十七條第一項

農會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違背スルトキ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ農會ニ在リテハ地方長官ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消

二 役員ノ解職

三 事業ノ停止

四 解散

第三十條第一項及第二項

前條ノ場合ニ於テ新地方區域内ニ既設ノ農會存立セザルトキ舊農會ノ會員タリシ者並其ノ占有者ハ所有スル耕地及牧場ノ面積又ハ舊農會ヲ組織セシ農會ノ數第五條若ハ第六條ノ條件ニ該當スルトキハ直ニ新地方區域ニ依リ農會ヲ設立シタ

ルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ行政廳ニ於テ假ニ會則ヲ定メ假役員及假代表者ヲ選任シテ役員及代表者ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムヘシ

第三十七條 第八條第九條第二項第二十二條第二十三條第二十八條第三十條第二項及第三項、第三十三條第二項、第三十四條第一項、第三十五條及第三十六條ノ行政廳ハ、町村農會ニ在リテハ郡長、市農會及郡農會ニ在リテハ地方長官、北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣トス

朕明治四十二年勅令第三百三十七號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百五十三號(官報 九月三十日)

明治四十二年勅令第三百三十七號中「一人」ニ「六十二人」ヲ「五十六人」ニ、「六十八人」ヲ「六十四人」ニ、「五十一人」ヲ「四十二人」ニ、「三百六十三人」ヲ「三百二十五人」ニ、「三人」ヲ「一人」ニ、「五千五十八人」ヲ「四千八百十九人」ニ、「二千三百三十七人」ヲ「二千六百六十七人」ニ、「十六人」ヲ「十四人」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百三十七號(明治四十二年十二月十六日官報)抄録

鐵道院職員ノ定員ハ左ノ通トス

技監

專任

二人

副參事	專任	六十八人
參事	專任	五十一人
技師	專任	三百六十三人
通譯	專任	三人
書記	專任	五千五十八人
技手	專任	二千三百三十七人
前項技師ノ内十六人ハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得		

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
 陸軍大臣 子爵寺內正毅
 海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第三百五十四號(官報 九月三十日)

朝鮮總督府官制

第一條 朝鮮總督府ニ朝鮮總督ヲ置ク

總督ハ朝鮮ヲ管轄ス

第二條 總督ハ親任トシ陸海軍大將ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 總督ハ天皇ニ直隸シ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ及朝鮮防備ノ事ヲ掌ル

總督ハ諸般ノ政務ヲ統轄シ内閣總理大臣ヲ經テ上奏ヲ爲シ及裁可ヲ受ク

第四條 總督ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ朝鮮總督府令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役若ハ禁錮

錮、拘留二百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第五條 總督ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ制規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト

認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第六條 總督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ委任又ハ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任又官以

下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第七條 總督ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部文官ノ銜位敘勳ヲ上奏ス

第八條 總督府ニ政務總監ヲ置ク

政務總監ハ親任トス

政務總監ハ總督ヲ輔佐シ府務ヲ統理シ各部局ノ事務ヲ監督ス

第九條 總督府ニ官房及左ノ五部ヲ置ク

總務部

內務部

度支部

農商工部

司法部

第十條 總務部ニ人事局、外事局、會計局、內務部ニ地方局、學務局、度支部ニ司稅局、司計局、農商工部

ニ殖産局、商工局ヲ置ク

官房、各部及各局ノ事務ノ分掌ハ總督之ヲ定ム

第十一條 總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 五人

勅任

局長 九人

勅任又ハ奏任

參事官 專任二人

奏任 内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

祕書官 專任二人

奏任

書記官 專任十九人

奏任

事務官 專任十九人

奏任 内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

技師 專任三十人

奏任

通譯官 專任六人

奏任

屬 技手

專任三百三十七人

通譯生

判任

第十二條 長官ハ各部ノ長ト爲リ總督及政務總監ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十三條 局長ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十四條 參事官ハ上官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌リ又ハ各部局ノ事務ヲ助ク

第十五條 祕書官ハ總督ノ命ヲ承ケ機密ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條 書記官ハ上官ノ命ヲ承ケ府務ヲ掌ル

第十七條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ府務ヲ助ク

第十八條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十九條 通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第二十條 屬技手及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務技術及通譯ニ從事ス

第二十一條 總督府ニ總督附武官二人及專屬副官一人ヲ置ク

總督附武官ハ陸海軍少將又ハ佐官ヲ以テ之ニ補ス

總督附武官ハ參謀トス

副官ハ陸海軍佐尉官ヲ以テ之ニ補ス

總督附武官及副官ハ總督ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第三百十九號ハ其ノ官立學校ニ關スルモノヲ除クノ外之ヲ廢止ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府中樞院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百五十五號 (官報 九月三十日)

朝鮮總督府中樞院官制

第一條 朝鮮總督府中樞院ハ朝鮮總督ニ隸シ朝鮮總督ノ諮詢ニ應スル所トス

第二條 中樞院ニ左ノ職員ヲ置ク

議長

副議長

顧問

贊議

副贊議

書記官長

書記官

通譯官

屬

一人 親任待遇

十五人 勅任待遇

二十人 勅任待遇

三十五人 奏任待遇

勅任

二人 奏任

三人 奏任

專任三人 判任

第三條 中樞院議長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ以テ之ニ充ツ

議長ハ院務ヲ總管シ中樞院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス

中樞院副議長ハ議長ヲ輔佐シ議長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第四條 顧問ハ院議ヲ審定ス

第五條 贊議及副贊議ハ院議ニ參與ス但シ決議ニ加ハルコトヲ得ス

第六條 副議長、顧問、贊議及副贊議ハ朝鮮總督府ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條 副議長及顧問ニハ年額二千五百圓以内、贊議ニハ千二百圓以内、副贊議ニハ八百圓以内ヲ

朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ手當トシテ支給ス但シ官吏ニシテ副議長、顧問、贊議又ハ副贊議タル者ニハ手當ヲ支給セス

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府取調局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百五十六號(省報九月三十日)

朝鮮總督府取調局官制

第一條 朝鮮總督府取調局ハ朝鮮總督ニ隸シ左ノ事務ヲ掌ル

一 朝鮮ニ於ケル各般ノ制度及一切ノ舊慣ヲ調査スルコト

二 總督ノ指定シタル法令ノ立案及審議ヲ爲スコト

三 法令ノ廢止改正ニ付意見ヲ具申スルコト

第二條 取調局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

勅任

書記官 專任二人 奏任

事務官 專任四人 奏任

屬 專任十二人 判任

通譯生 專任十二人 判任

第三條 長官ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四條 書記官ハ長官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第五條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ助ク

第六條 屬及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及通譯ニ從事ス

第七條 取調局ニ委員三十人以内ヲ置ク

委員ハ朝鮮ニ於ケル制度及舊慣ニ關スル調査ニ從事ス

第八條 委員ハ學識名望アル朝鮮人ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

第九條 委員ニハ一年六百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府地方官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百五十七號(官報 九月三十日)

朝鮮總督府地方官制

第一條 朝鮮ニ左ノ道ヲ置ク

京畿道

忠清北道

忠清南道

全羅北道

全羅南道

慶尙北道

慶尙南道

黃海道

平安南道

平安北道

江原道

咸鏡南道

咸鏡北道

道ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二條 各道ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

勅任

參典官 一人 勅任又ハ奏任

事務官 奏任

通譯官 奏任

技師 奏任

書記 奏任

技手 判任

通譯生

長官ハ當分ノ内奏任ト爲スコトヲ得

第三條 各道ヲ通シテ事務官ハ專任二十六人、技師ハ專任六人、書記技手及通譯生ハ專任四百二十三人トス

通譯官ハ道ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ置ク

第四條 各道ニ於ケル事務官、通譯官、技師、書記、技手及通譯生ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第五條 道長官ハ朝鮮總督ニ隸シ法令ヲ執行シ管内ノ行政事務ヲ管理シ所屬官吏ヲ指揮監督ス

道長官ハ道行政ノ執行ニ關シ管内ノ警察官ヲ使用スルコトヲ得

道長官ハ地方警察事務ニ關シ道警務部長ヲシテ必要ナル命令ヲ發セシメ又ハ之ニ對シ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第六條 道長官ハ管内ノ行政事務ニ關シ職權又ハ委任ノ範圍内ニ於テ道令ヲ發スルコトヲ得

第七條 道長官ハ府尹又ハ郡守ノ命令又ハ處分ニシテ制規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第八條 道長官ハ安寧秩序ヲ保持スル爲兵カヲ要スルトキハ之ヲ朝鮮總督ニ具狀スヘシ但シ非常

急變ノ場合ニ際シテハ直ニ當該地方駐在軍隊ノ司令官ニ出兵ヲ要求スルコトヲ得

第九條 道長官事故アルトキハ内務部長タル事務官其ノ職務ヲ代理ス

第十條 道長官ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府尹又ハ郡守ニ委任スルコトヲ得

第十一條 參典官ハ道長官ノ諮問ニ應シ又ハ臨時命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十二條 各道ニ長官官房、内務部及財務部ヲ置ク

官房及各部ノ事務分掌ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十三條 内務部長及財務部長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ

第十四條 内務部長及財務部長ハ道長官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十五條 部長ニ非サル事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ道務ヲ掌ル

第十六條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十七條 書記、技手及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、技術及通譯ニ從事ス

第十八條 各道ニ府及郡ヲ置ク

府及郡ノ名稱、位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十九條 各府郡ニ左ノ職員ヲ置ク

府尹又ハ郡守 奏任

書記 判任

通譯生

府ニ事務官及通譯官ヲ置クコトヲ得
府事務官及府通譯官ハ奏任トス

第十九條 各府ヲ通シテ事務官及通譯官ハ專任四人、各府郡ヲ通シテ書記及通譯生ハ專任二千二百二十八トス

第二十條 各府郡ニ於ケル事務官、通譯官、書記及通譯生ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十一條 府尹又ハ郡守ハ道長官ノ指揮監督ヲ承ケ法令ヲ執行シ管内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

府事務官ハ府尹ノ命ヲ承ケ府務ヲ掌ル
府通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第二十二條 書記、技手及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、技術及通譯ニ從事ス

第二十三條 各道及各府郡ニ參事ヲ置クコトヲ得
參事ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

參事ハ道、府郡管轄内ニ居住シ學識名望アル者ニ就キ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ道長官之ヲ命ス

第二十四條 參事ハ名譽職トス道長官又ハ府尹、郡守ノ諮問ニ應スルモノトス
參事ニハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ給スルコトヲ得

第二十五條 各府郡ニ面ヲ置ク
面ニ面長ヲ置ク判任官ノ待遇トス府尹又ハ郡守ノ指揮監督ヲ承ケ面内ノ行政事務ヲ補助執行ス
面及面長ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十六條 各道ニ慈惠醫院ヲ附置ス
慈惠醫院ハ疾病ノ診療ニ關スル事ヲ掌リ兼ネテ總督ノ指定ニ依リ醫師ノ養成ニ關スル事ヲ掌ル
各醫院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長 奏任又ハ判任
醫員 奏任又ハ判任
書記 判任
助手 判任
通譯生 判任

各醫院ヲ通シテ醫員ハ專任二十八人、書記助手及通譯生ハ專任四十一人トス

各醫院ニ於ケル醫員書記助手及通譯生ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十七條 院長ハ醫員ヲ以テ之ニ充ツ道長官ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第二十八條 醫員ハ院長ノ指揮ヲ承ケ醫務及醫育ヲ掌ル
書記助手及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、醫務及通譯ニ從事ス

附則
本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百五十八號(官報九月三十日)
統監府警察官署官制中左ノ通改正ス

「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ「韓國」ヲ「朝鮮」ニ改ム

第三條中「皇宮及」ヲ削ル

第五條中「二人」ヲ「三人」ニ「五十二人」ヲ「四十四人」ニ「三人」ヲ「八人」ニ改ム

第八條ニ左ノ一項ヲ加フ

警務部長ハ道長官ノ命ニ依リ道行政ノ執行ヲ助ケ又ハ地方警察事務ニ關シ道長官ノ命ヲ承ケ必

要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スヘシ

第九條 警務總長及警務部長ハ各其ノ職權又ハ委任ノ範圍内ニ於テ命令ヲ發スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ統監府警務總長、警務官、警務部長、警視通譯官、技師、警察醫、警部、屬、技手及通譯

生ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用井ス、朝鮮總督府警務總長、警務官、警務部長、警視、通譯官、技師、警察

醫、警部、屬、技手及通譯生ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

〔參照〕

勅令第二百九十六號統監府警察官署官制(明治四十三年六月三十日抄録)

第三條 警務總監部ハ之ヲ京城ニ置ク韓國ニ於ケル警察事務ヲ總理シ兼テ皇宮及京城ノ警察事務ヲ掌ル

第五條 統監府警察官署ニ左ノ職員ヲ置ク

警務官 專任 二人 奏任 一人ヲ助任ト

警視 專任 五十二人 奏任 三人

通譯官 專任 三人 奏任 一人

第九條 警務總長ハ京城ニ、警務部長ハ其ノ管内ニ置カラルル命令ヲ各其ノ職權又ハ委任ニ依リ發スルコトヲ得

朕朝鮮總督府鐵道局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百五十九號(官報九月三十日)

朝鮮總督府鐵道局官制

第一條 朝鮮總督府鐵道局ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ朝鮮ニ於ケル鐵道ノ建設、改良、保存、運輸及

附帶ノ業務並輕便鐵道及軌道ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 鐵道局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

一 人 勅任

技監 一 人 勅任

參事 專任 六人 奏任

副參事 專任 四人 奏任

參事補 專任 九人 奏任

技師 專任 三十八人 奏任 內二人ヲ助任ト

通譯官 專任 一人 奏任

書記 專任 四百九人 判任

技手

第三條 長官ハ技監ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條 技監ハ技術ニ關スル事務ヲ掌理ス

第五條 參事ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第六條 副參事及參事補ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ助ク

第七條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第八條 通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第九條 書記及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ従事ス

第十條 朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ出張所ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ朝鮮鐵道管理局ニ在勤スル鐵道院技監、參事、副參事、參事補、技師、通譯、書記及技手ハ別ニ辭令ヲ用井ス朝鮮總督府鐵道局技監、參事、副參事、參事補、技師、通譯官、書記及技手ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

朕朝鮮總督府通信官署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百六十號 (宣稱 九月三十日)

朝鮮總督府通信官署官制

第一條 朝鮮總督府通信官署ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話、航路標識及氣象ニ關スル事務並電氣事業ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

朝鮮總督ノ指定シタル通信官署ハ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ取扱フ歲入金歳出金及歳入歳出外現金ノ出納ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 通信官署ハ通信局、航路標識管理所、觀測所、郵便爲替貯金管理所、郵便局及郵便所トス

第三條 通信局ハ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話、航路標識及氣象ニ關スル事務ヲ管理シ並電氣事業ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 航路標識管理所ハ航路標識ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 觀測所ハ氣象ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 郵便爲替貯金管理所ハ郵便爲替貯金ノ検査計算ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 郵便局及郵便所ハ郵便、郵便爲替及郵便貯金ノ事務ヲ掌ル

電信又ハ電話事務ハ郵便局又ハ郵便所ヲシテ之ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第八條 朝鮮總督ハ郵便局ヲ指定シ區域ヲ定メテ通信局ノ管掌事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第九條 朝鮮總督ハ必要ナル地ニ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信又ハ電話ノ取扱所ヲ設ケ觀測所ニ

附屬測候所ヲ置クコトヲ得

第十條 觀測所、測候所、郵便局及郵便所ノ名稱及位置ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十一條 通信官署ニ左ノ職員ヲ置ク

通信局長官	勅任
通信局書記官	專任二人 奏任
通信事務官	專任八人 奏任
通信事務官補	專任十八人 奏任
通信技師	專任十五人 奏任
通信書記	
通信技手	
通信書記補	專任七百四十五人 判任
航路標識看守	
郵便所長	

- 第十二條 通信局長官ハ朝鮮總督ノ監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス
- 第十三條 通信局書記官ハ長官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル
- 第十四條 通信事務官及通信事務官補ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
- 第十五條 通信技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
- 第十六條 通信書記、通信技手、通信書記補及航路標識看守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、技術及航路標識ノ看守ニ從事ス
- 第十七條 航路標識管理所長及觀測所長ハ通信技師ヲ以テ之ニ充ツ通信局長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス
- 第十八條 郵便爲替貯金管理所長ハ通信事務官ヲ以テ之ニ充ツ通信局長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

- 第十九條 郵便局長ハ通信事務官、通信事務官補又ハ通信書記ヲ以テ之ニ充ツ通信局長官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス
- 第二十條 測候所長ハ通信技手ヲ以テ之ニ充ツ觀測所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル
- 第二十一條 郵便所長ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ統監府通信事務官、通信事務官補、通信技師、通信屬、通信技手、通信手及郵便所長ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用非ス 朝鮮總督府通信事務官、通信事務官補、通信技師、通信書記、通信技手、通信書記補及郵便所長ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

朕朝鮮總督府臨時土地調查局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百六十一號(官報九月三十日)

朝鮮總督府臨時土地調查局官制

- 第一條 朝鮮總督府臨時土地調查局ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ土地ノ調査及測量ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二條 臨時土地調查局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 總裁 一人 勅任
- 副總裁 一人 奏任
- 書記官 專任三人 奏任
- 事務官 專任二人 奏任
- 監査官 專任一人 奏任
- 技師 專任四人 奏任
- 書記 專任五十人 判任
- 技手
- 第三條 總裁ハ政務總監ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指批監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
- 第四條 副總裁ハ總裁ヲ佐ケ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
- 第五條 書記官及事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル
- 第六條 監査官ハ上官ノ命ヲ承ケ實地業務ノ監査ヲ掌ル
- 第七條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
- 第八條 書記及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ従事ス
- 第九條 朝鮮總督ハ必要ト認ムルトキハ臨時土地調查局事業費豫算ノ範圍内ニ於テ監査官、書記及技手ヲ増置スルコトヲ得
- 第十條 朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ支局又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得
- 支局及出張所ノ名稱、位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府稅關官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百六十二號 (官報 九月三十日)

朝鮮總督府稅關官制

- 第一條 朝鮮總督府稅關ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル
- 一 關稅噸稅、移出入稅、船稅及稅關諸收入ニ關スル事項
- 二 保稅倉庫其ノ他ノ倉庫ニ關スル事項
- 三 船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項
- 四 關稅噸稅、移出入稅、船稅等ニ關スル犯則處分ニ關スル事項
- 五 關稅通路ノ取締ニ關スル事項
- 六 密漁船ノ取締ニ關スル事項
- 七 開港檢疫ニ關スル事項
- 八 開港ノ港則ニ關スル事項
- 九 船舶檢査ニ關スル事項

第二條 左ノ四港ニ稅關ヲ置ク

京畿道 仁川

慶尙南道 釜山

咸鏡南道 元山

平安南道 鎮南浦

第三條 稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

稅關長 四人 奏任

事務官 專任三人 奏任

監視官 專任一人 奏任

鑑定官 專任二人 奏任

港務官 專任一人 奏任

技師 專任四人 奏任

港務醫官 專任一人 奏任

書記 奏任

監視 奏任

鑑定官補 奏任

港吏 專任二百四十一人 判任

港務醫官補 奏任

技手 奏任

監吏 奏任

第四條 稅關長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ稅關ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第五條 事務官ハ稅關長ノ命ヲ承ケ稅關ノ事務ヲ掌ル

第六條 監視官ハ上官ノ命ヲ承ケ警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 鑑定官ハ上官ノ命ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 港務官ハ上官ノ命ヲ承ケ港則ノ執行及開港検査ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十條 港務醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ醫務ヲ掌ル

第十一條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條 監視ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ從事ス

港吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ港則ノ執行及開港検査ニ從事ス

港務醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス

技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十二條 稅關ノ管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

朝鮮總督ハ稅關ノ管轄區域内ニ於テ必要ト認ムル地ニ稅關支署又ハ稅關監視署ヲ置クコトヲ得

稅關支署又ハ稅關監視署ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十三條 稅關支署ニ支署長ヲ置ク事務官又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

稅關支署長ハ稅關長ノ命ヲ承ケ共ノ管轄區域内ニ於ケル稅關事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第十四條 稅關監視署ニ署長ヲ置ク監視又ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ

稅關監視署長ハ稅關長又ハ稅關支署長ノ指揮ヲ承ケ警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十五條 朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ稅關出張所ヲ置キ稅關事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十三條ノ規定ハ稅關出張所ニ之ヲ準用ス

第十六條 移出牛檢疫ノ事務ヲ掌ラシムル爲釜山稅關ニ移出牛檢疫所ヲ附置ス

移出牛檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

檢疫官 專任一人 奏任

書記 專任三人 判任

檢疫官補

第十七條 所長ハ稅關長ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監

督ス

檢疫官ハ所長ノ命ヲ承ケ檢疫ヲ掌ル

書記及檢疫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及檢疫ニ從事ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府專賣局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百六十三號(官報 九月三十日)

朝鮮總督府專賣局官制

第一條 朝鮮總督府專賣局ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル

一 紅蔘ノ專賣ニ關スル事項

二 鹽ノ製造、販賣、輸出入、移出入、試驗、鑑定及取締ニ關スル事項

第二條 專賣局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 奏任

事務官 專任一人 奏任

技師 專任三人 奏任

書記 專任四十一人 判任

技手

第三條 局長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第四條 事務官ハ局長ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第五條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第六條 書記及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ從事ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府印刷局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百六十四號 (官報 九月三十日)

朝鮮總督府印刷局官制

第一條 朝鮮總督府印刷局ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル

一 印刷ニ關スル事項

二 印紙類及諸證券類ノ製造並抄紙ニ關スル事項

第二條 印刷局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

事務官 專任二人 奏任

技師 專任四人 奏任

書記 專任二十三人 判任

技手

第三條 局長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四條 事務官ハ局長ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第五條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第六條 書記及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ從事ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府裁判所職員定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百六十五號 (官報 九月三十日)

朝鮮總督府裁判所職員定員令

朝鮮總督府裁判所及檢事局職員ノ定員ハ各裁判所及檢事局ヲ通シテ左ノ如シ

判事 二百六十一人

檢事 六十三人

書記長 四人

通譯官 四人

書記 四百二十九人

通譯生

前項職員ノ各裁判所及檢事局ニ於ケル定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ統監府判事、檢事、裁判所書記長、裁判所通譯官、裁判所書記及裁判所通譯生ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用井ス朝鮮總督府判事、檢事、裁判所書記長、裁判所通譯官、裁判所書記及裁判所通譯生ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

朕統監府監獄官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百六十六號(官報 九月三十日)

統監府監獄官制中左ノ通改正ス

「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ改ム

第三條 監獄ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

典獄 專任八人 奏任

看守長 專任六十一人 判任

通譯生

第四條第二項ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ統監府典獄、看守長及通譯生ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用井ス朝鮮總督府典獄、看守長及通譯生ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

〔參照〕

勅令第二百四十三號統監府監獄官制(明治四十二年十月十八日官報)抄條

第三條 各監獄ヲ通シ左ノ職員ヲ置ク

典獄 九人 奏任

看守長 七十五人 判任

通譯生 九人 判任

第四條第二項 典獄ハ判任官待遇職員ノ進退ヲ專行ス

朕朝鮮總督府營林廠官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百六十七號(官報 九月三十日)

朝鮮總督府營林廠官制

第一條 朝鮮總督府營林廠ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル森林經營ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 營林廠ニ左ノ職員ヲ置ク
廠長 勅任又ハ奏任

事務官 專任二人 奏任

技師 專任二人 奏任

書記
技手
通譯生
專任十七人 判任

第三條 廠長ハ朝鮮總督ノ命ヲ承ケ廠中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
第四條 事務官ハ廠長ノ命ヲ承ケ廠務ヲ掌ル
第五條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
第六條 書記技手及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、技術及通譯ニ従事ス
第七條 朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ營林支廠ヲ置クコトヲ得
支廠長ハ事務官技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ統監府營林廠長、事務官、技師、屬、技手及通譯生ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用弗ス
朝鮮總督府營林廠長、事務官、技師、書記、技手及通譯生ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

朕朝鮮總督府醫院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

勅令第三百六十八號(官報九月三十日)

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

朝鮮總督府醫院官制

第一條 朝鮮總督府醫院ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ疾病ノ診療ニ關スル事ヲ掌ル

第二條 醫院ニ附屬醫學講習所ヲ置キ醫師產婆及看護婦ノ養成ニ關スル事ヲ掌ル
第三條 醫院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長	勅任
醫官	專任九人 奏任 內二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
教官	專任一人 奏任
事務官	專任一人 奏任
藥劑官	專任一人 奏任
醫員	專任十人 奏任又ハ判任
書記	
教員	
關劑手	專任二十四人 判任
助手	
通譯生	

第四條 院長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス
第五條 醫官ハ院長ノ命ヲ承ケ診療ニ關スル事項ヲ掌ル
第六條 教官ハ院長ノ命ヲ承ケ醫師、產婆及看護婦ノ養成ニ關スル事項ヲ掌ル
第七條 事務官ハ院長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル
第八條 藥劑官ハ院長ノ命ヲ承ケ藥品、醫療器械及治療材料ニ關スル事項ヲ掌ル
第九條 醫員ハ上官ノ命ヲ承ケ診療ニ従事ス
第十條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十一條 教員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫師、産婆及看護婦ノ養成ニ従事ス
 第十二條 調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ藥品、醫療器械及治療材料ニ關スル事項ニ従事ス
 第十三條 助手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ診療及調劑ノ事務ヲ助ケ
 第十四條 通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ従事ス
 附則
 本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府平壤鑛業所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百六十九號(官報 九月三十日)

朝鮮總督府平壤鑛業所官制

第一條 朝鮮總督府平壤鑛業所ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ石炭ノ採掘、煉炭ノ製造及其ノ販賣ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 平壤鑛業所ニ左ノ職員ヲ置ケ

所長 勅任又ハ奏任

事務官 專任一人 奏任

技師 專任二人 奏任

書記 專任八人 判任

技手

第三條 所長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四條 事務官ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第六條 書記及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ従事ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府勸業模範場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百七十號(官報 九月三十日)

朝鮮總督府勸業模範場官制

第一條 朝鮮總督府勸業模範場ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル

一 産業ノ發達改良ニ資スル調査及試験

二 物産ノ調査並産業上必要ナル物料ノ分析及鑑定

三 種子、種苗、蠶種、種禽及種畜ノ配付

四 産業上ノ指導講習及通信

第二條 勸業模範場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長

技師 專任十人

委任 内一人ヲ勅任ト
爲スコトヲ得

書記

專任三十五人

判任

技手

第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ場中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第四條 技師ハ場長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條 書記及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ従事ス

第六條 朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ勸業模範場ノ支場又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

第七條 勸業模範場ニ農林學校ヲ附置ス

農林學校ハ農林業ニ須要ナル實務ヲ教習スル所トス

第八條 農林學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教諭

專任四人

委任

助教諭

書記

專任五人

判任

第九條 校長ハ勸業模範場長ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第十條 教諭及助教諭ハ校長ノ命ヲ承ケ教習ヲ掌ル

第十一條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府工業傳習所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百七十一號 (官報 九月三十日)

朝鮮總督府工業傳習所官制

第一條 朝鮮總督府工業傳習所ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ工業ニ關スル技術ヲ傳習スル所トス

第二條 工業傳習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

委任

技師

專任二人

委任

書記

專任二十人

判任

技手

第三條 所長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第四條 技師ハ所長ノ命ヲ承ケ傳習ヲ掌ル

第五條 書記及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ従事ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕統監府中學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百七十二號 (官報 九月三十日)

統監府中學校官制中「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ統監府中學校長、教諭及書記ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用非ス朝鮮總督府中學校長、教諭及書記ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

朕建築及土木事務ヲ掌理セシムル爲朝鮮總督府ニ臨時職員ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百七十三號 (官報 九月三十日)

臨時建築及土木ノ事務ヲ掌理セシムル爲朝鮮總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

技師 專任七人 奏任

屬 專任九十人 判任

技手 專任九十人 判任

前項職員ノ俸給ハ臨時建築及土木費ヨリ之ヲ支出ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮人タル奏任官及判任官ノ増置ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百七十四號 (官報 九月三十日)

朝鮮總督ハ必要ト認ムルトキハ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ各俸給豫算定額内ニ於テ朝鮮人タル

奏任官又ハ判任官ヲ増置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ朝鮮總督ハ奏任官ニ付テハ豫メ其ノ官名及人員ヲ具シ勅裁ヲ請フヘシ

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府土木會議官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百七十五號(官報九月三十日)

朝鮮總督府土木會議官制

- 第一條 朝鮮總督府土木會議ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬シ河川、道路、港灣、航路標識、鐵道、輕便鐵道、軌道、電氣事業及上下水道ニ關スル制度、計畫、設備共ノ他土木ニ關スル重要ナル事項ヲ調査審議ス
- 第二條 土木會議ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 會長ハ朝鮮總督府政務總監、委員ハ朝鮮總督府各部長官、警務總長、鐵道局長官、通信局長官及朝鮮駐節軍參謀長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ他ノ委員ハ朝鮮總督府高等官ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス
- 第四條 會長ハ會務ヲ總理ス
- 會長事故アルトキハ朝鮮總督ノ指定シタル委員共ノ事務ヲ代理ス
- 第五條 土木會議ニ幹事二人ヲ置キ朝鮮總督府高等官ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス
- 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承テ庶務ヲ掌理ス

第六條 土木會議ニ書記ヲ置キ朝鮮總督府判任官ノ中ヨリ會長之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府警務總長等ノ發スル命令ノ罰則ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百七十六號(官報九月三十日)

朝鮮總督府警務總長及道長官ハ其ノ發スル命令ニ三月以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留、百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

朝鮮總督府警務部長ハ其ノ發スル命令ニ拘留又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第二百九十七號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治四十三年十月三日勅令第三百九十七號ハ統監府警務總長及統監府警務部長ノ發スル命令ニ關スル件ナリ

朕高等官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第二百七十七號(官報九月三十日)
高等官等俸給令中左ノ通改正ス

- 第七條中「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ、「副統監」ヲ「朝鮮總督府政務總監」ニ改ム
- 第八條中「統監府總務長官」「統監府司法廳長官」ヲ「朝鮮總督府鐵道局技監」ニ、「統監府參事官」「統監府判事」及「統監府檢事」ヲ「朝鮮總督府各部局長官」「朝鮮總督府取調局長官」「朝鮮總督府通信局長官」「朝鮮總督府臨時土地調查局副總裁」「朝鮮總督府判事」及「朝鮮總督府檢事」ニ改ム
- 「府縣知事」ノ次ニ「朝鮮總督府道長官」ヲ、「行政裁判所評定官」ル者、ノ次ニ「朝鮮總督府醫院長」ヲ加ヘ、「統監府通信管理局長」「統監府司法廳參事官」「統監府警務官」「統監府營林廠長」及「理事廳理事官」ヲ「朝鮮總督府各局長」「朝鮮總督府參事官」「朝鮮總督府警務官」「朝鮮總督府營林廠長」「朝鮮總督府平壤鐵業所長」及「朝鮮總督府醫院醫官」ニ改ム
- 第十條中「理事廳理事官」及「又ハ理事廳理事官」ヲ削ル
- 第十四條中「統監府書記官」「統監府特許局事務官」「統監府通信管理局事務官」「統監府司法廳參事官」「統監府司法廳書記官」「統監府警務官」及「理事廳理事官」ヲ「朝鮮總督府參事官」「朝鮮總督府書記官」「朝鮮總督府取調局書記官」「朝鮮總督府警務官」「朝鮮總督府專賣事務官」ニ改ム

- 局長「朝鮮總督府工業傳習所長」「朝鮮總督府鐵道局參事」「朝鮮總督府通信局書記官」「朝鮮總督府臨時土地調查局書記官」「朝鮮總督府稅關長」「朝鮮總督府道事務官」及「朝鮮總督府府尹」ニ改ム
- 第十五條中「統監府判事」及「統監府檢事」ヲ「朝鮮總督府判事」及「朝鮮總督府檢事」ニ改ム
- 第十六條中「統監府司法廳監獄事務官」「統監府通信事務官」及「統監府營林廠事務官」ヲ「朝鮮總督府事務官」「朝鮮總督府取調局事務官」「朝鮮總督府鐵道局副參事」「朝鮮總督府通信事務官」「朝鮮總督府營林廠事務官」及「朝鮮總督府平壤鐵業所事務官」ニ改ム
- 第十七條中「統監府通譯官」及「統監府特許局審查官」ヲ「朝鮮總督府通譯官」ニ改ム
- 第十八條中「理事廳副理事官」ヲ削ル
- 第十九條中「統監府典獄」及「統監府警視」ヲ「朝鮮總督府警視」「朝鮮總督府專賣局事務官」「朝鮮總督府印刷局事務官」「朝鮮總督府臨時土地調查局事務官」「朝鮮總督府醫院教官」「朝鮮總督府稅關事務官」「朝鮮總督府稅關監定官」「朝鮮總督府港務官」「朝鮮總督府移出牛檢疫所檢疫官」「朝鮮總督府典獄」「朝鮮總督府道慈惠醫院醫員」「朝鮮總督府府事務官」及「朝鮮總督府郡守」ニ改ム
- 第二十條中「統監府通信事務官補」ヲ「朝鮮總督府鐵道局參事補」「朝鮮總督府通信事務官補」及「朝鮮總督府醫院事務官」ニ改ム
- 第二十一條中「統監府通譯官」ル者、ヲ「統監府警察醫」「統監府裁判所書記長」及「統監府裁判所通譯官」ヲ「朝鮮總督府通譯官」ル者、ヲ「朝鮮總督府警察醫」「朝鮮總督府鐵道局通譯官」「朝鮮總督府臨時土地調查局監査官」「朝鮮總督府醫院藥劑官」「朝鮮總督府醫院醫員」「朝鮮總督府港務醫官」「朝鮮總督府道通譯官」「朝鮮總督府府通譯官」「朝鮮總督府裁判所書記長」及「朝鮮總督府裁判所通譯官」ニ改ム
- 第二十二條中「統監府通信技師」ヲ「朝鮮總督府通信技師」及「朝鮮總督府醫院醫官」ニ改ム
- 第二十七條中「及統監府營林廠長」ヲ「朝鮮總督府各局長」「朝鮮總督府營林廠長」「朝鮮總督府平壤鐵業

所長及朝鮮總督府道長官ニ改ム
第一表中統監府ノ部ヲ左ノ如ク改ム

朝鮮		朝鮮		朝鮮		朝鮮		朝鮮		朝鮮		朝鮮		朝鮮		朝鮮		朝鮮		朝鮮	
朝鮮總督	總務部長	政務總監	內務部長	度支部長	農商工部	司法部長	取調局長	人事局長	外事局長	會計局長	地方局長	學務局長	司稅局長	殖產局長	商工局長	參事官					
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同						

第五表中統監府中學校長ヲ朝鮮總督府中學校長ニ、統監府中學校教諭ノ項ヲ左ノ如ク改ム

府		府		府		府		府		府		府		府		府		府		府	
中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院	中樞院
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕判任官俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百七十八號 (官報 九月三十日)

判任官俸給令中左ノ通改正ス

第七條中「及專賣局書記」ヲ「專賣局書記及朝鮮總督府航路標識看守」ニ改ム

第八條中「稅關監吏」ノ下ニ「朝鮮總督府稅關監吏」ヲ加フ

第十一條中「統監府通信手」ヲ「朝鮮總督府通信書記補」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百三十五號判任官俸給令(明治四十三年三月二十八日官報)抄錄

第七條 警視廳 北海道廳 府廳 及監獄判任官 稅務監督局 稅務署 關及專賣局書記ニハ別表最低額以下八圓迄ノ月俸ヲ給スルコトヲ得但シ港吏 港務監督官 港務監督官補 港務調劑手及府縣通譯ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 稅關監吏 臺灣總督府稅關監吏 及臺灣總督府稅務吏ノ月俸ハ十二圓以上四十圓以下トス

朕文武判任官等級令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百七十九號 (官報 九月三十日)

文武判任官等級令中左ノ通改正ス

別表中「統監府郵便所長」ヲ「朝鮮總督府郵便所長」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治四十三年勅令第三百十九號第五項ノ職員ヲ任用スル場合ニ於ケル官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百八十號 (官報 九月三十日)

明治四十三年勅令第三百十九號第五項ノ職員ヲ本令施行ノ際朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ高等官ニ任用スル場合ニ於テハ高等官官等俸給令第四條ノ規定ニ依テサルコトヲ得但シ明治三十七年勅令第三百九十五號ノ適用ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府所屬官署職員ニ任セラレタル陸海軍現役將校同相當官ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
陸軍大臣 子爵寺內正毅
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第三百八十一號 (官報 九月三十日)

陸海軍現役將校又ハ同相當官ニシテ朝鮮總督府臨時土地調査局通信官署、醫院、營林廠、平壤鑛業所又ハ道憲憲醫院ノ職員ニ任セラレタル者ハ陸海軍ニ於テ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ定員外ト爲リタル者ニ對シテハ陸海軍ニ在リテハ在職陸海軍現役武官ニ關スル規定ヲ適用ス但シ給與ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス
陸海軍現役將校又ハ同相當官ヨリ第一項ノ職員ニ任用セラレタル者ノ官等ニ付テハ高等文官轉任ノ例ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

勅令第三百八十二號 (官報 九月三十日)

統監府判事及統監府檢察官等給與令中「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮人タル朝鮮總督府道長官參與官及郡守ノ任用及官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

勅令第三百八十三號 (官報 九月三十日)

朝鮮人タル朝鮮總督府道長官、道參與官及郡守ハ文官任用令及高等官官等俸給令第四條ノ規定ニ拘ラス學識經驗アル者ノ中ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕臺灣滿韓及樺太在勤文官加俸令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百八十四號(官報九月三十日)

臺灣滿韓及樺太在勤文官加俸令中「臺灣滿韓」ヲ「朝鮮臺灣滿洲」ニ統監ヲ「朝鮮總督」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府職員ノ交際手當ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百八十五號(官報九月三十日)

朝鮮總督ニハ年額一萬五千圓、政務總監ニハ七千圓、外事局長ニハ二千圓以内ノ交際手當ヲ給ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府附武官及副官ノ給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

陸軍大臣 子爵寺內正毅

海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第三百八十六號(官報九月三十日)

朝鮮總督府附武官及專屬副官ニハ在勤俸ヲ給ス其ノ年額ハ將官二千五百圓以内、佐官二千圓以内、尉官一千圓以内トス

前項ノ職員ニ對スル在勤俸及陸海軍ノ規定ニ依ル給與ハ朝鮮總督府ニ於テ之ヲ支給ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ職員ニシテ通譯ノ事ヲ兼掌スル者ノ特別手當ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百八十七號 (官報 九月三十日)

朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官、巡查、看守及女監取締ニシテ朝鮮語通譯ノ事ヲ兼掌スル者ニハ別表ニ依リ特別月手當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ハ朝鮮人ニシテ判任文官、巡查、看守及女監取締ト爲リ國語通譯ノ事ヲ兼掌スル者ニモ之ヲ適用ス

手當ノ支給ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

判任文官	十	圓	八	圓	六	圓	四	圓
巡查、看守、女監取締	七	圓	五	圓	三	圓	二	圓
	一級	二級	三級	四級				

朕交通至難ノ場所ニ在勤スル朝鮮總督府通信官署職員ノ手當ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百八十八號 (官報 九月三十日)

交通至難ノ場所ニ在勤スル朝鮮總督府通信技手及航路標識看守ニハ月額金十圓以内ノ手當ヲ給與スルコトヲ得其ノ場所及給與細則ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕明治四十三年勅令第六十六號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百八十九號 (官報 九月三十日)

明治四十三年勅令第六十六號中「統監ヲ朝鮮總督」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治四十三年八月二十勅令第六十六號ハ統監府郵便所長ノ給與ニ關スル件ナリ

朕委任及判任待遇統監府監獄職員給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百九十號 (官報 九月三十日)

奏任及判任待遇統監府監獄職員給與令中左ノ通改正ス

「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ改ム

第二條中「滿韓在勤文官加俸令」ヲ「朝鮮臺灣滿洲及樺太在勤文官加俸令」ニ改ム

第四條中「韓國人」ヲ「朝鮮人」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕内國旅費規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百九十一號 (官報 九月三十日)

内國旅費規則第二十條及第二十一條中「臺灣」ヲ「朝鮮、臺灣」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府及所屬官署職員ノ宿舍料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百九十二號 (官報 九月三十日)

朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ職員ニハ宿舍料ヲ給ス但シ官舎ニ居住セシムル者ハ此ノ限ニ在ラス

宿舍料ノ額及支給方法ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令ハ朝鮮人タル職員ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府所屬光濟號乘組員ニ給スル食卓料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百九十三號 (官報 九月三十日)

朝鮮總督府所屬光濟號乘組ノ船長、機關長、運轉士、機關士及事務長ニハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ

航海中日額七十五錢以內ノ食卓料ヲ支給ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
外務大臣 伯爵小村壽太郎

勅令第三百九十四號(官報九月三十日)

朝鮮總督府及所屬官署職員特別任用令

第一條 本令施行ノ際現ニ統監府參事官ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第二條 本令施行ノ際現ニ朝鮮ニ於テ委任文官又ハ委任官待遇ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ委任文官ニ任用スルコトヲ得

第三條 本令施行ノ際現ニ朝鮮ニ於テ判任文官又ハ判任官待遇ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第四條 朝鮮總督府外事局ニ勤務スル職員カ外交官、領事官、貿易事務官又ハ外務省高等官ニ轉任スル場合ニ於テハ朝鮮總督府ノ在職ヲ以テ在外公館ノ在職ト看做ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百九十五號(官報九月三十日)

朝鮮總督府鐵道局職員特別任用令

朝鮮總督府鐵道局職員ノ任用ニ關シテハ鐵道院職員特別任用令ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百九十六號(官報九月三十日)

第一條 朝鮮人ニシテ本令施行ノ際現ニ高等官ノ待遇ヲ受クル者ハ特ニ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ文官ニ任用スルコトヲ得

第二條 朝鮮人ニシテ舊韓國政府ノ高等文官ノ職ニ在リタル者又ハ舊韓國政府ノ高等文官タル資

格ヲ有シタル者ハ當分ノ内文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ文官ニ任用スルコトヲ得

第三條 朝鮮人ニシテ本令施行ノ際現ニ判任官ノ待遇ヲ受ケル者ハ特ニ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第四條 朝鮮人ニシテ舊韓國政府ノ判任官ノ職ニ在リタル者又ハ舊韓國政府ノ判任官タル資格ヲ有シタル者ハ當分ノ内文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第五條 朝鮮人ニシテ朝鮮總督府ノ定メタル試験ニ合格シタル者ハ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百九十七號 (官報 九月三十日)

朝鮮總督府通信官署職員特別任用令

朝鮮總督府通信官署職員ノ任用ニ關シテハ明治四十三年勅令第三百七十號ヲ準用ス

郵便所長ノ特別任用ニ關スル規程ハ朝鮮總督府之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百九十八號 (官報 九月三十日)

朝鮮總督府稅關監吏ノ特別任用ニ關スル規程ハ朝鮮總督府之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府裁判所書記長及裁判所書記特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第三百九十九號(官報九月三十日)

朝鮮總督府裁判所書記長及裁判所書記特別任用令

第一條 朝鮮總督府裁判所書記長ハ現ニ裁判所書記長ノ職ニ在ル者又ハ五年以上裁判所書記、統監府裁判所書記若ハ朝鮮總督府裁判所書記ノ職ニ在リ現ニ判任官ニ級俸以上ノ俸給ヲ受クル者ノ中ヨリ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

前項ノ在職年數ハ裁判所、統監府裁判所及朝鮮總督府裁判所ニ在職シタル期間ヲ通算ス

第二條 朝鮮總督府裁判所書記ハ現ニ裁判所書記ノ職ニ在ル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府典獄及看守長特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百號(官報九月三十日)

朝鮮總督府典獄及看守長特別任用令

第一條 朝鮮總督府典獄ハ現ニ典獄又ハ監獄事務官ノ職ニ在ル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第二條 朝鮮總督府看守長ハ現ニ看守長ノ職ニ在ル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

三年以上看守ノ職務ニ從事シ精勵證書ヲ有シ現ニ其ノ職ニ在ル者ハ實務ノ成績ヲ考查シ及學術ヲ試験シ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ朝鮮總督府看守長ニ任用スルコトヲ得
前項ノ考查及試験ハ朝鮮總督府典獄之ヲ行フ其ノ方法及科目ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府平壤鐵業所職員ノ特別任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百一號(官報九月三十日)

朝鮮總督府平壤鐵業所長及事務官ハ本令施行ノ際ニ限リ海軍將校又ハ同相當官ニシテ職務ニ從事スル者ヨリ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治四十三年勅令第四百七十九號等中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

勅令第四百二號(官報九月三十日)

明治四十三年勅令第七十九號同年勅令第三百號及同年勅令第三百二號中「統監ヲ朝鮮總督ニ
韓國ヲ朝鮮ニ憲兵將校ヲ憲兵ノ長タル將官憲兵將校ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治四十三年八月廿二勅令第七十九號ハ統監府中學校長ノ任用ニ關スル件同年六月三十日勅令第三百號ハ統監府警務
官警務員ノ官等等級ニ關スル件同勅令第三百二號ハ統監府警務總長警務部長警視警部ノ任用及分限ニ關スル件ナリ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮人タル文官ノ分限及給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百三號(官報九月三十日)

第一條 朝鮮人タル文官ニ關シテハ文官分限令及朝鮮臺灣滿洲及樺太在勤文官加俸令ヲ適用セス
第二條 朝鮮人タル文官ノ俸給ハ別表ニ依ル

第三條 朝鮮人タル文官ノ旅費ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム
附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
(別表)

高等文官年俸表

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
21500	18000	16000	14500	13000	11500	10000	9000	8000	7000	6000	5000

道長官ニハ年俸三千圓ヲ給スルコトヲ得

判任文官月俸表

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
5000	4500	4000	3500	3000	2500	2000	1500	1200	1000

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官懲戒令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百四號(官報九月三十日)
文官懲戒令中左ノ通改正ス

第二十二條中「統監府ヲ朝鮮總督府ニ改ム」

第二十三條中「統監府ニ在リテハ總務長官ヲ朝鮮總督府ニ在リテハ政務總監ニ改ム」

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府及所屬官署職員ノ服制ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百五號(官報九月三十日)

統監府及所屬官署並朝鮮鐵道管理局職員ノ服制ハ當分ノ内朝鮮總督府及其ノ所屬官署職員ノ服制トシテ之ヲ襲用ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條及第七十條ニ依リ朝鮮總督府特別會計ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

- 内閣總理大臣兼 侯爵桂 太郎
- 大藏大臣 子爵寺内正毅
- 陸軍大臣 伯爵小村壽太郎
- 外務大臣 伯爵齋藤 實
- 海軍大臣 伯爵齋藤 實
- 內務大臣 法華博士 田東助
- 農商務大臣 男爵大浦兼武
- 逓信大臣 男爵後藤新平
- 文部大臣 小松原英太郎
- 司法大臣 子爵岡部長職

勅令第四百六號(官報九月三十日)

第一條 朝鮮總督府ノ會計ハ特別トシ其ノ歲入及一般會計ノ補充金ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 前條ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 政府ハ毎年朝鮮總督府特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ編製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國總會計ニ提出スヘシ

附則

第四條 本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 鐵道森林、平壤鑛業所及公債金ノ特別會計並通信ノ會計ニ付テハ明治四十三年度分限リ仍從前ノ例ニ依ル

第六條 舊韓國政府ニ屬シタル債權及債務ニシテ本令施行ノ際現存スルモノハ本會計ニ移屬ス

第七條 明治四十三年勅令第三百二十六號ニ依ル豫算ニ關スル會計年度ハ明治四十三年九月三十日ヲ以テ終結ス

前項ノ豫算ニ計上シタル一時借入金ハ本會計ノ負擔ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第八條 前條ノ歳入歳出並統監府及其ノ所屬官署ニ係ル歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ明治四十三年十二月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第九條 第七條ノ經費並統監府及其ノ所屬官署ノ經費ノ支辨ニ屬スル工事又ハ製造ニシテ明治四十三年九月三十日迄ニ經費ノ支出ヲ終ラサルモノハ其ノ支出未済ノ豫算額ヲ本會計ニ移シ之ヲ使用スルコトヲ得

第十條 前條ノ經費支辨ノ諸費ニシテ既ニ契約ヲ爲シ又ハ仕拂義務ヲ生シ明治四十三年九月三十日迄ニ支出ヲ終ラサルモノハ其ノ支出未済ノ豫算額ヲ本會計ニ移シ使用スルモノトス

第十一條 第七條ノ會計ノ過不足ハ之ヲ本會計ニ移シ整理ス

朕朝鮮總督府特別會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百七號(官報 九月三十日)

朝鮮總督府特別會計規則

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ關製シ前年度八月三十一日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 所管大臣ハ朝鮮總督ヲ以テ仕拂命令官トシ朝鮮總督府特別會計ニ屬スル仕拂命令ヲ發セシム

朝鮮總督ハ部下ノ官吏ニ分任シテ朝鮮總督府特別會計ニ屬スル仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第三條 朝鮮總督ハ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂計算書ヲ關製シ金庫ニ送付スヘシ仕拂計算書ヲ更定シタルトキ亦同シ

第四條 朝鮮總督ハ年度内一時收入金額ニ不足ヲ生スルトキハ其ノ不足金額ヲ豫定シ所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ仕拂元金ノ繰替ヲ請求スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ請求ナキトキハ仕拂元金ニ超過シタル仕拂命令ノ仕拂ヲ停止スルコトアルヘシ

第五條 朝鮮總督ハ會計規則第十八條ノ規定ニ基キ發シタル勅令ニ依リ第一豫備金ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 大藏大臣第一豫備金支出ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第七條 朝鮮總督ハ土地ノ情況ニ依リ會計規則第六十九條第七十三條及第七十九條ノ期限ヲ短縮シ又ハ第六十九條ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八條 歳入歳出ノ決定計算書ハ豫定計算書ト同一ノ區分ニ據リ所管大臣之ヲ關製シ翌年度十一

月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ各條項ヲ適用ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮總督府通信官署ノ取扱ニ係ル歳入金歳出金及歳入歳出外現金ノ交互振替及繰替ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百八號 (官報 九月三十日)

朝鮮總督府通信官署ノ出納官吏ハ其ノ取扱ニ係ル歳入金歳出金及歳入歳出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲スコトヲ得其ノ取扱ニ關スル規定ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

朕朝鮮總督ノ指定スル官署ノ經費渡切ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百九號 (官報 九月三十日)

第一條 朝鮮總督ハ其ノ特ニ指定シタル通信官署區裁判所警察官署稅關監視署郡及面ニ限リ經費ノ一部ヲ渡切ヲ以テ當該吏員ニ交付スルコトヲ得

前項歳出科目ノ區分ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 渡切經費ハ年額ニ依リ月割額ヲ定メ毎月之ヲ交付ス但シ特殊ノ事由又ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ一時ニ數月分ヲ交付スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百十號 (官報 九月三十日)

明治三十二年勅令第三百二十三號及同四十一年勅令第二百一十六號中「臺灣總督府ヲ朝鮮總督府又ハ臺灣總督府ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十三年七月五日勅令第三百二十三號ハ臺灣總督府ニ於テ鐵道事業ニ要スル鐵道用品ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件、同四十一年五月廿九日勅令第二百二十六號ハ臺灣總督府ニ於テ鐵道事業ニ必要ナル物件ノ購入ニ關スル隨意契約ノ件ナリ

朕明治三十四年勅令第二百二十號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
大藏大臣

勅令第四百十一號(官報 九月三十日)

明治三十四年勅令第二百二十號中「臺灣」ヲ「朝鮮又ハ臺灣」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十四年五月二十日勅令第二百二十號ハ臺灣ニ於ケル政府ノ工事及物件ノ買入借入ニ關スル隨意契約ノ件ナリ

朕朝鮮ニ施行スル法律ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
大藏大臣

勅令第四百十二號(官報 九月三十日)

左ニ掲ケル法律ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

- 一 會計法
- 一 郵便法
- 一 郵便爲替法
- 一 鐵道船舶郵便法
- 一 明治二十三年法律第二十一號
- 一 電信法
- 一 郵便貯金法
- 一 逃亡犯罪人引渡條例
- 一 外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕明治三十九年勅令第八十四號等中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百十三號(官報九月三十日)

明治三十九年勅令第八十四號、同四十年勅令第五百十號、同四十一年勅令第二百三十號、同四十二年勅令第二百五號及同四十三年勅令第六十五號中「統監ヲ朝鮮總督ニ韓國ヲ朝鮮ニ改ム」

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十九年七月十一勅令第八十四號ハ統監府及所屬官署ノ民事訴訟ニ關シ國ヲ代表スル件、同四十年三月二十勅令第五百十號ハ統監府及所屬官署職員ノ俸給、手當及宿舍料前金渡ノ件、同四十一年九月二十勅令第二百三十號ハ明治四十二年勅令第二百五號ヲ韓國、臺灣、關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スル地域ニ於ケル特赦及減刑ニ適用スル件、同四十二年七月三十勅令第二百五號ハ統監府管轄木材及製品賣拂代金延納ニ關スル件、同四十三年八月二十勅令第六十五號ハ統監府中學校ノ教職又ハ講師ノ俸給支給等ニ關スル件ナリ

朕朝鮮總督府鐵道局現業員ノ共濟組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百十四號(官報九月三十日)

第一條 朝鮮總督府鐵道局所屬ノ雇員以下ノ現業員ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ相互共濟ヲ目的

トスル組合ヲ組織ス

第二條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス

第三條 朝鮮總督ハ朝鮮總督府鐵道局職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第四條 朝鮮總督府鐵道局ニ勤務スル職員ハ第一條ニ定ムル現業員ニ非サルモ組合ニ加入スルコトヲ得但シ其ノ俸給ハ第二條ノ給料總額ニ之ヲ算入セス

第五條 官役職工人夫扶助令及各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規ハ雇員以下ノ現業員ニシテ組合員タル者ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕明治三十三年法律第五十號ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百十五號(官報十月一日)

明治三十三年法律第五十號ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

明治三十三年三月廿二日法律第五十號ハ官設鐵道、郵便電信、郵便爲替及郵便貯金ニ關スル現金出納ニ關スル件ナリ

朕明治三十三年勅令第四百八號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月二十日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
逓信大臣 男爵後藤新平

勅令第四百十六號(官報十月一日)

明治三十三年勅令第四百八號中左ノ通改正ス

第六條中「職權ハ」下ニ「朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第四百八號(官報十月五日) 勅令第四百八號(官報十月五日) 勅令第四百八號(官報十月五日) 勅令第四百八號(官報十月五日)

第六條 本令中所管大臣ニ屬スル職權ハ臺灣ニ在リテハ臺灣總督之ヲ行フ

朕明治四十二年勅令第四百七十三號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月三十日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
農商務大臣 男爵大浦兼武
遞信大臣 男爵後藤新平

勅令第四百十七號(官報十月一日)

明治四十二年勅令第四百七十三號中左ノ通改正ス

第一條第三號中「汽船又ハ」ヲ削ル

第二條 削除

第三條中「トロール漁業及」ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前汽船トロール漁業ニ付漁船獎勵金ノ下付ヲ出願シタル者ハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前汽船トロール漁業ニ付漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間内亦前項ニ

同シ

〔參照〕

勅令第四百七十三號(明治四十二年六月二十八日官報抄録)

第一條 遼洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得(キ漁獲業ノ種類左ノ如シ)

三 汽船又ハ帆船トロール漁業

第二條 汽船トロール漁業ハ東經百三十度以西又ハ北緯四十四度以北ノ場所ニ於テ漁獲ヲ爲スモノニ限り獎勵金ヲ下付スルコトヲ得

第三條 遼洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得(キ汽船トロール漁業ニ在リテハ總噸數二百噸以下、帆船ニ在リテハ總噸數五百噸以下ノモノニ限り但シ汽船トロール漁業ニ用ウル帆船ハ總噸數四百噸、木釣漁業ニ用ウル帆船ハ總噸數二百五十噸、トロール漁業及漁獲物處理運搬業ニ用ウル汽船ハ總噸數三百五十噸迄獎勵金ヲ下付スルコトヲ得)

朕明治二十九年勅令第三百五號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十月四日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

勅令第四百十八號(官報十月五日)

臺灣總督府國語學校同附屬學校及臺灣總督府醫學校生徒ニハ其ノ種類ニ依リ學資及旅費ヲ支給スルコトヲ得其ノ支給細則ハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百五號(明治二十九年九月十五日官報)
臺灣總督府國語學校附屬學校師範學校及國語傳習所ノ生徒ニハ其ノ種類ニ依リ學資金及旅費日當ヲ臺灣總督府醫學校生徒ニハ學資金ヲ支給スルコトヲ得其ノ支給細則ハ臺灣總督之ヲ定ム

朕明治二十九年勅令第二百四十七號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十二年十月四日

內閣總理大臣 侯爵桂 太郎
大藏大臣 伯爵小村壽太郎
外務大臣

勅令第四百十九號(官報十月五日)

明治二十九年勅令第二百四十七號中左ノ通改正ス

第一條中「外務大臣」ヲ「內閣總理大臣、外務大臣」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百四十七號(明治二十九年九月十五日官報)抄錄
第一條 橫濱正金銀行ノ關東州及清國ニ於ケル銀行券ノ發行ハ外務大臣及大藏大臣ノ監督ニ關ス

朕明治三十年勅令第四百四十六號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十月四日

內閣總理大臣 侯爵桂 太郎
內務大臣 法學博士 平田東助

勅令第四百二十號(官報十月五日)

明治三十年勅令第四百四十六號中左ノ通改正ス

第三條 削除

〔參照〕

勅令第四百四十六號(明治三十年十二月十五日官報)抄錄
第三條 國寶監守ハ身元保證金ヲ納ムヘシ
前項ノ身元保證金ニ關シテハ明治二十二年勅令第六十號會計規則及明治二十三年勅令第四號ヲ準用ス

朕造神宮使廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十月十四日

內閣總理大臣 侯爵桂 太郎
內務大臣 法學博士 平田東助

勅令第四百二十一號(官報十月十五日)
造神宮使廳官制第五條中「内務省神祇局長ヲ以テ之ニ充ツ」ヲ「勅任トス」内務省高等官ヲシテ之ヲ兼
ネシムニ改ム

〔參照〕

勅令第四百二十三號造神宮使廳官制(明治三十一年六月十七日官報)抄錄
第五條 副使ハ一人内務省神祇局長ヲ以テ之ニ充ツ使ノ事務ヲ佐ケ使事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

朕高等官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十月十四日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百二十二號(官報十月十五日)
高等官等俸給令中左ノ通改正ス

別表第一表文武高等官等表中内務省ノ部ニ等ノ欄内務省參事官ノ次ニ「造神宮副使」ヲ加フ

朕臨時治水調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十月十五日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
内務大臣 法部卿平田東助

勅令第四百二十三號(官報十月十八日)

臨時治水調査會官制

第一條 臨時治水調査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ臨時治水ニ關スル重要ノ事項ヲ調査審議ス

第二條 臨時治水調査會ハ治水ニ關スル事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 臨時治水調査會ハ會長一人及委員四十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第四條 會長ハ内務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官、貴族院議員、衆議院議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ内務大臣ノ指名シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第六條 臨時治水調査會ニ幹事三人ヲ置ク内務大臣ノ奏請ニ依リ内務省高等官ノ中ヨリ内閣ニ於

テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條 臨時治水調査會ニ書記ヲ置キ内務省判任官ノ中ヨリ内務大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 委員及臨時委員ニシテ官吏ニ非サル者ニハ鐵道會議議長議員及臨時議員旅費支給規則ノ例ニ依リ旅費ヲ給ス但シ會議ノ爲特ニ上京シタル者ハ開會中五圓以内ノ日當ヲ給ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ高等女學校令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十月二十五日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
文部大臣 小松原英太郎

勅令第四百二十四號(官報十月二十六日)

高等女學校令中左ノ通改正ス

第三條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第十一條 高等女學校ニ於テハ主トシテ家政ニ關スル學科目ヲ修メムトスル者ノ爲ニ實科ヲ置キ又ハ實科ノミヲ置クコトヲ得

實科ノミヲ置ク高等女學校ノ名稱ニハ實科ノ文字ヲ冠スヘシ

高等女學校ニ於テハ其ノ卒業者ニシテ某學科目ヲ專攻セムトスル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得但シ實科ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第十一條ノ二 實科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齡十二年以上ニシテ尋常小學校卒業程度以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十一條ノ三 實科ノ修業年限ハ左ノ例ニ依ルヘシ但シ第三號ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ延長スルコトヲ得

一 尋常小學校卒業程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ四箇年

二 高等小學校第一學年修了程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ三箇年

三 修業年限二箇年ノ高等小學校卒業程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ於テハ二箇年

第十一條ノ四 修業年限二箇年ノ實科高等女學校ノ設置ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十七條ノ二 第二條ノ規定ハ實科高等女學校ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ技藝專修科ニ在學スル者ノ卒業ニ至ル迄ハ技藝專修科ヲ存置スルコトヲ得

〔參照〕

勅令第三十一號高等女學校令(明治三十二年二月八日官報)抄録

第三條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第十一條 高等女學校ニ於テハ女子ニ必要ナル技藝ヲ專修セントスル者ノ爲ニ技藝專修科ヲ置クコトヲ得
高等女學校ニ於テハ其ノ卒業生ニシテ某學科ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得

朕農商務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十月 勅令 第四百二十五號

明治四十三年十月二十八日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
農商務大臣 男爵大浦兼武

勅令第四百二十五號(官報十月二十九日)
農商務省官制中左ノ通改正ス
第七條ニ左ノ二項ヲ加フ

山林局ニ林業試驗場ヲ置キ林産ノ増殖及改良ニ關スル調査及試驗事項ヲ掌ラシム
農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ林業試驗場ノ支場ヲ置キ林業試驗場ノ事務ヲ分掌セシムルコト
ヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十三年十一月四日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
陸軍大臣 子爵寺内正毅
海軍大臣 男爵齋藤 實

朕臺灣樺太並在外陸海軍雇員備人死傷手當金給與規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
勅令第四百二十六號(官報十一月五日)
臺灣樺太並在外陸海軍雇員備人死傷手當金給與規則中「臺灣」ヲ「朝鮮臺灣滿洲」ニ改ム
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十三年十一月八日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
内務大臣 法學博士男爵平田東助

朕警察官吏職務應援ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
勅令第四百二十七號(官報十一月九日)
第一條 廳府縣長官ハ災害警防又ハ取締上必要アル場合ニ於テ應援ノ爲他ノ廳府縣長官ニ協議シ

テ警察官吏ノ派遣ヲ求ムルコトヲ得

内務大臣ハ警防又ハ取締上緊急ノ必要アル場合ニ於テ廳府縣長官ニ對シ他ノ廳府縣ノ警察事務ノ應援ノ爲所屬警察官吏ノ派遣ヲ命スルコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依リ派遣セラレタル警察官吏ハ其ノ地ノ警察官吏トシテ職務ニ從事スルモノトス

第三條 廳府縣長官ハ警察上特ニ保護又ハ注意ヲ要スル者ニ對シ同行ヲ必要トスル場合ニ於テ所屬警察官吏ヲシテ他ノ廳府縣ノ區域ニ互リ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條 第一條ノ規定ニ依リ派遣ヲ命セラレタル警察官吏ノ旅費其ノ他臨時必要ナル費用ハ應援ヲ受ケタル廳府縣ニ於テ警察費ヨリ之ヲ支辨スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕漁業法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十一月十一日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
内務大臣 法學博士 田東助
農商務大臣 男爵大浦兼武

勅令第四百二十八號 (官報 十一月十二日)

漁業法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ漁業組合令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十一月十一日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
農商務大臣 男爵大浦兼武
司法大臣 子爵岡部長職

勅令第四百二十九號 (官報 十一月十二日)

漁業組合令

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ組合ト稱スルハ漁業法第四十二條ノ規定ニ依リ設立スル漁業組合ヲ謂ヒ聯合會ト稱スルハ同法第四十四條ノ規定ニ依リ設立スル漁業組合聯合會ヲ謂フ

第二條 組合ハ其ノ名稱中ニ漁業組合ナル文字ヲ用ウヘシ

聯合會ハ其ノ名稱中ニ漁業組合聯合會ナル文字ヲ用ウヘシ

組合又ハ聯合會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ漁業組合ナル文字ヲ用ウルコトヲ得ス

明治四十三年十一月 勅令 第四百二十九號 漁業組合令

第四條 本令ニ依リ地方長官ニ屬スル職權ハ郡長、島司、市長、北海道廳支廳長又ハ北海道若ハ沖繩縣ノ區長ニ之ヲ委任スルコトヲ得但シ組合又ハ聯合會設立ノ許可、第二十條第一項第六號、第九號及第十二號ノ事項ニ關スル認可並第五十條ノ裁決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 本令ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可又ハ認可ヲ要スルモノハ其ノ許可書又ハ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第二章 設立

第六條 組合ノ設立ニハ組合ノ地區タルヘキ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者五人以上ノ發起人アルコトヲ要ス

第七條 發起人ハ左ノ事項ヲ組合ノ地區タルヘキ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ニ通知シ組合設立ノ同意ヲ求ムヘシ

- 一 地區タルヘキ區域
- 二 目的及事業ノ概要
- 三 同意表示ノ方法及期間

第八條 組合ノ地區ハ重複スルコトヲ得ス

第九條 發起人ハ組合ノ地區タルヘキ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得タルトキハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スヘシ但シ組合ノ地區タルヘキ區域カ二部落以上ニ亙ルトキハ各部落毎ニ其ノ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
特別ノ事由ニ因リ前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ創立總會ヲ招集スルコトヲ得

第十條 發起人ハ規約、初年度ニ於ケル經費ノ收支豫算及分賦收入方法ノ簡案ヲ作り之ヲ創立總會ニ提出スヘシ

組合ノ設立費用及其ノ償却ノ方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第十一條 發起人創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ五日前ニ會議ノ目的、日時及場所並規約案備附ノ場所及閱覽ノ時間ヲ組合ノ地區タルヘキ區域内ニ住所ヲ有スル各漁業者ニ通知スヘシ

第十二條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 地區
- 四 事務所
- 五 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 六 役員ニ關スル規定
- 七 會議ニ關スル規定
- 八 會計及財産ノ管理ニ關スル規定
- 九 組合ノ取得シ又ハ貸付ヲ受ケタル專用漁業權又ハ入漁權ノ行使ニ關スル規定
- 十 前號ノ權利ノ行使ニ關シ特別ノ利益ヲ受クル組合員ヨリ料金を納ムルトキハ之ニ關スル規定
- 十一 共同施設事業ノ執行ニ關スル規定
- 十二 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十三條 創立總會ノ決議ハ組合ノ地區タルヘキ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 組合ノ地區タルヘキ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ創立總會ニ出席スル他ノ漁業者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ漁業者ハ之ヲ出席者ト看做ス

第十五條 創立總會終了シタルトキハ發起人ハ組合設立ノ許可申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ前項ノ申請書ニハ規約、初年度ニ於ケル經費ノ收支豫算及分賦收入方法、第九條ノ同意ヲ證スル書面竝創立總會ノ決議録ヲ添附スヘシ尙漁業法第四十二條第二項但書ニ該當スル場合ニ在リテハ其ノ理由書ヲ添附スヘシ

第十六條 組合設立ノ登記ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ登記スヘキ事項左ノ如シ

- 一 第十二條第一號乃至第四號及第十二號ニ掲ケタル事項
- 二 設立許可ノ年月日
- 三 理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十七條 組合設立ノ後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ事務所ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ登記ヲ爲シ他ノ事務所ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ新ニ事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スヘシ

組合カ其ノ事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地

ニ於テハ同期間内ニ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ登記ヲ爲スヘシ

第十八條 行政區劃、大字又ハ字ノ名稱ニ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區劃、大字又ハ字ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

行政區劃、大字又ハ字ノ變更アリタルトキ亦前項ニ同シ但シ組合ノ地區ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 前條ノ規定ハ地區及事務所所在地ニ關スル規約ノ規定ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ組合ハ規約ノ記載ヲ訂正シ且遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第三章 會議

第二十條 本令中別ニ規定アルモノノ外左ニ掲ケル事項ハ組合員總會ノ決議ヲ經ヘシ但シ第八號

ニ掲ケル事項ニ付テハ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

- 一 經費ノ收支豫算
- 二 經費ノ分賦收入方法
- 三 漁業權又ハ不動産ニ關スル物權ノ得喪變更
- 四 基金ノ支出又ハ其ノ利用方法
- 五 豫算外ノ支出
- 六 負債ヲ起スコト
- 七 組合員ノ除名
- 八 組合員ニ非サル者ニ對スル漁業權ノ貸付又ハ入漁權ノ設定、得喪若ハ變更

九 規約ノ變更

十 訴訟訴訟又ハ和解

十一 聯合會ニ加入シ又ハ之ヨリ脱退スルコト

十二 組合ノ解散合併又ハ分割

前項第三號第六號第七號第九號乃至第十二號ニ掲ケタル事項及第三十條第三項但書ノ決議ハ
總組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス但シ規約ニ別段ノ規定ア
ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 組合ノ地區ヲ擴張又ハ縮小スル爲規約ヲ變更セムトスルトキハ其ノ擴張又ハ縮小セ
ムトスル區域内ニ住所ヲ有スル漁業者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第九條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 第二十條第一項第二號、第六號、第九號及第十二號ニ掲ケタル事項ノ決議ハ地方長官
ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生ゼス

前項ノ認可ノ申請書ニハ總會ノ決議録及左ノ書類ヲ添付スルニ
一 地區ノ擴張又ハ縮小ニ關スル規約ノ變更ニ付テハ前條ノ同意ヲ證スル書面

二 合併又ハ分割ニ付テハ合併若ハ分割後存続スル組合又ハ合併若ハ分割ニ因リテ設立スル組
合ノ規約及第五十一條第二項第五十二條ノ規定ニ依リ手續ヲ爲シタルコトヲ證スル書面

第二十三條 第二十條第一項第四號、第五號、第八號及第十號ニ掲ケタル事項ニ關シ臨時急施ヲ要
シ總會ヲ招集スルノ限ナキトキハ理事ハ專決處分シ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムルニ
第二十四條 總會ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外理事之ヲ招集ス

第三十五條 通常總會ハ毎年少クトモ一回之ヲ開クヘシ

理事ハ經費ノ收支決算書、剩餘金ノ處分書、財産目録及事業報告書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承
認ヲ求ムルニ

監事ハ豫メ前項ノ書類ニ付之ヲ調査シ其ノ意見ヲ通常總會ニ報告スルニ

第三項ノ承認ヲ得タルトキハ組合ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十六條 臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ招集ス

一 理事カ必要アリト認ムルトキ

二 總組合員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ
請求シタルトキ

三 第三十六條第三項ノ規定ニ依リ監事カ報告ヲ爲スノ必要アルトキ

前項第二號ノ場合ニハ組合ハ其ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ招集スヘシ

第二十七條 總會ヲ招集スルニハ少クトモ三日日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ各組
ニ通知スヘシ

總會ニ於テハ前項ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノ決議ヲ爲スコトヲ得但シ
規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 組合員ハ各一個ノ議決權ヲ有ス

第二十九條 總會ノ決議ハ本令又ハ規約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議
決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

組合員ハ他ノ組合員ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ組合員ハ之ヲ出席者ト看做ス

前項ノ受任者ハ委任狀ヲ組合ニ差出スヘシ

第三十條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ總會ニ代ルヘキ總會ヲ設クルコトヲ得總會ニ關スル規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第二十條第一項第三號第六號第七號第九號及第十二號ニ掲ケタル事項又ハ第七十二條第二項ノ決議ハ總會ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ起債又ハ規約ノ變更ニ付總會ノ委任アリタル事項ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 總會ヲ組織スル總會ノ員數、選任、任期及解任ニ關スル規定ハ之ヲ規約中ニ設クヘシ

組合員ニ非サル者ハ總會ト爲ルコトヲ得ス

第四章 組合ノ管理

第三十二條 組合ニハ理事及監事ヲ置ク

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ組合員タルヘキ者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ理事又ハ監事ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 理事ノ任期ハ三年トシ監事ノ任期ハ一年トス但シ規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 理事及監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第三十五條 民法第五十二條第二項、第五十三條及第五十四條ノ規定ハ組合ノ理事ニ之ヲ準用ス

第三十六條 監事ハ組合ノ財産及事務執行ノ狀況ヲ監査ス
監事組合財産ノ狀況又ハ事務ノ執行ニ付不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會及地方長官ニ報告スヘシ

監事ハ前項ノ報告ヲ爲スノ必要アルトキハ總會ヲ招集スルコトヲ得

第三十七條 監事ハ理事又ハ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三十八條 組合ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス
理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十九條 組合ハ理事其ノ他ノ代理人カ共ノ職務ヲ行フニ付他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第四十條 組合ハ規約及總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備置キ且組合員名簿、經費ノ收支豫算書、經費ノ收支決算書、財産目録及事業報告書ヲ主タル事務所ニ備置クヘシ

組合ハ組合員又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類ノ閱覽ヲ求めタルトキハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十一條 組合ハ理事又ハ監事ニ關スル登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記シタル事項及其ノ登記ノ年月日ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第五章 組合ノ會計

第四十二條 組合ノ事業年度ハ一年トシ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ曆年ニ依ラサルコトヲ得

第四十三條 組合ハ經費ノ收支豫算ヲ議決シタルトキハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第四十四條 組合ハ毎事業年度ノ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ基金トシテ積立ツヘシ

基金ハ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合又ハ著シク組合員共同ノ利益ヲ増進スル爲必
要ナル場合ヲ除クノ外之ヲ支出スルコトヲ得ス

第六章 組合員ノ加入及脱退

第四十五條 組合ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者組合ニ加入セムトスルトキハ組合ハ正當ノ理由
ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十六條 組合ハ漁業ニ關シ功勞學識又ハ經驗アル者ヲ名譽組合員ト爲スコトヲ得

名譽組合員ハ議決權ヲ有セス

第四十七條 組合員ノ死亡ニ因リ家督相續開始シタルトキハ家督相續人ハ相續ノ日ヨリ被相續人
ニ代リ組合員ト爲ル但シ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日ヨリ三月内ニ之ニ異リタル意思
ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

第四十九條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

- 一 組合員タル資格ノ喪失
- 二 死亡

三 除名

第五十條 正當ノ理由ナクシテ組合ノ加入ニ困難ナル條件ヲ附セラレ若ハ加入ヲ拒マレタル漁
業者又ハ不當ニ除名セラレタル者ハ六十日內ニ地方長官ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第七章 組合ノ分合

第五十一條 組合カ合併又ハ分割ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録
及貸借對照表ヲ作ルヘシ分割ヲ爲ス場合ニ於テハ尙分割後設立スル組合カ承繼スヘキ權利義務
ノ限度ヲ記載シタル書面ヲ作ルヘシ

組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘ
シ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ス

第五十二條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ合併又ハ分割ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ
承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ合併
又ハ分割ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 組合カ合併又ハ分割ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ合併又ハ
分割後存続スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ合併又ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テ
ハ解散ノ登記ヲ爲シ合併又ハ分割ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第五十四條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組
合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ設立シタル組合ハ第五十一條ノ規定ニ依リテ定メタル限度ニ於テ從前ノ組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第八章 組合ノ解散及清算

第五十五條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 規約ニ定メタル事由ノ發生
- 二 組合員カ五人未滿ニ減シタルトキ
- 三 總會ノ決議
- 四 組合ノ合併
- 五 組合ノ分割
- 六 組合ノ破産
- 七 行政官廳ノ處分

第五十六條 組合カ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ組合若ハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ組合ハ直ニ破産宣告ノ請求ヲ爲スヘシ

第五十七條 組合ノ清算ハ組合ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲シ又ハ特ニ選任シタル者ヲシテ監督ニ必要ナル検査ヲ爲シタルコトヲ得

第五十八條 組合ハ合併、分割及破産ノ場合ヲ除クノ外解散後二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ清算人ノ氏名、住所及解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ且合併及分割ノ場合ヲ除クノ外之ヲ地

方長官ニ届出ツヘシ但シ行政官廳ノ處分ニ因リテ解散シタルトキハ解散ノ原因及其ノ年月日ノ届出並登記ノ申請ヲ爲スルコトヲ要ス

清算中ニ就職シタル清算人アルトキハ組合ハ就職後二週間内ニ清算人ノ氏名、住所ノ登記ヲ爲シ且之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前二項ノ規定ニ依リ登記シタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ組合ハ二週間内ニ其ノ登記ヲ爲シ且之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第五十九條 組合ノ解散ヲ命シタルトキハ行政官廳ハ解散ヲ命シタルコト及其ノ年月日ノ登記ヲ囑託スヘシ

登記所ハ前項ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十條 組合カ解散シタルトキハ合併、分割及破産ノ場合ヲ除クノ外理事共ノ清算人ト爲ル但シ規約ニ別段ノ規定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條 清算人ハ就職後遅滞ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及貸借對照表ヲ作り殘餘財産ノ處分方法ヲ定メ之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第六十二條 清算中ノ組合ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ殘餘財産ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第六十三條 清算中ノ組合ハ清算人就職ノ日ヨリ二月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ請求ヲ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間内ニ申出ヲ爲ササルトキハ其ノ債權ハ清算ヨリ除斥セラレハキ旨ヲ附記スヘシ但シ組合ハ知レタル債權者ヲ除斥スルコトヲ得ス

組合ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其ノ申出ヲ催告スヘシ

第六十四條 清算中ノ組合ノ財産カ其ノ債務ヲ完済スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ組合ハ直ニ破産宣告ノ請求ヲ爲シ且其ノ旨ヲ公告スヘシ

清算人ハ破産管財人ニ其ノ事務ヲ引渡シタルトキハ其ノ任ヲ終リタルモノトス

本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得

第六十五條 前二條ノ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六十六條 民法第七十三條、第七十五條、第七十六條、第七十八條、第八十條、第八十三條、民法施行法第二條及非訟事件手續法第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ハ組合ノ解散又ハ清算ニ之ヲ準用ス

第九章 聯合會

第六十七條 聯合會ヲ設立セムトスルトキハ各組合ハ創立委員二名ヲ選任スヘシ但シ其ノ一名ハ理事タルコトヲ要ス

第六十八條 創立委員會ニ於テハ規約、初年度ニ於ケル經費ノ收支豫算及分賦收入方法其ノ他創立ニ關シ必要ナル事項ヲ議決スヘシ

第六十九條 創立委員會終了シタルトキハ聯合會ヲ組織スル組合ハ聯合會設立ノ許可申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ規約、初年度ニ於ケル經費ノ收支豫算書及分賦收入方法其ノ他創立委員會ニ於テ議決シタル事項並其ノ決議録ヲ添附スヘシ

第七十條 聯合會ノ總會ハ加入各組合ニ於テ其ノ組合員中ヨリ選任シタル委員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ各組合ノ委員中一名ハ理事タルコトヲ要ス

委員ノ員數及任期ニ關スル規定ハ聯合會ノ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七十一條 聯合會ニハ理事及監事ヲ置ク

聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ加入組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ設立當時ノ理事及監事ハ創立委員會ニ於テ之ヲ選任スヘシ

第七十二條 聯合會カ負債ヲ起サムトスルトキハ加入各組合ノ負擔ヲ定メ其ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ同意ハ加入各組合共ノ總會ノ決議ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第二十條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第七十三條 加入各組合ハ聯合會ノ債務ニ付前條ノ負擔ヲ限度トシテ保證ノ責ニ任ス

組合ハ脱退ニ因リテ前項ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第七十四條 聯合會ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 規約ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議
- 三 聯合會ノ破産
- 四 行政官廳ノ處分

第七十五條 第十二條、第十六條乃至第二十條、第二十二條乃至第二十八條、第二十九條第一項、第三十三條乃至第四十四條及第五十六條乃至第六十六條ノ規定ハ、聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第十條及第十六條ノ地區ハ加入各組合ノ名稱、第二十條第一項第八號ノ組合員ハ加入各組合及其ノ組合員、第二十條第二項及第二十六條乃至第二十九條ノ組合員ハ委員トス

第十章 登記手續

第七十六條 組合又ハ聯合會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第七十七條 各登記所ニ漁業組合登記簿及漁業組合聯合會登記簿ヲ備フ

第七十八條 組合又ハ聯合會設立ノ登記ハ、理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ規約、創立總會、總會又ハ創立委員會ノ決議録、設立許可書又ハ合併若ハ分割ノ認可書並理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

設立許可書又ハ合併若ハ分割ノ認可書ハ、地方長官ノ認證アル股本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第七十九條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ、理事、其ノ職務ヲ行フ監事若ハ假理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但シ組合ノ合併又ハ分割ニ因ル變更ノ登記ハ、理事及監事ノ全員ヨリ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且地方長官ノ認可ヲ要スルモノニ付テハ認可書又ハ其ノ認證アル股本ヲ添附スヘシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第八十條 合併又ハ分割ニ因ル解散ノ登記ハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ總會ノ決議録、第五十一條第二項及第五十二條ノ手續ヲ爲シタルコトヲ證スル書面並合併若ハ分割ノ認可書又ハ地方長官ノ認證アル股本ヲ添附スヘシ

第八十一條 本令ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滞ナク之ヲ公告スヘシ

第八十二條 非訟事件手續法第二百二十二條、第二百四十一條乃至第二百五十一條、第二百五十四條乃至第二百五十七條及第七十五條乃至第七十七條ノ規定ハ組合又ハ聯合會ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十一章 罰則

第八十三條 組合又ハ聯合會ノ行爲ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ其ノ理事、監事、假理事又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 本令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
- 二 官廳ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 三 官廳ノ徴スル報告ヲ差出サス又ハ其ノ検査ヲ拒ミタルトキ
- 四 本令ニ依ル届出又ハ報告ヲ怠リタルトキ
- 五 本令ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ
- 六 本令ニ依リ事務所ニ備置クヘキ書類ヲ備ヘサルトキ、其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閲覧ヲ拒ミタルトキ
- 七 本令ニ依ル基金ノ積立ヲ爲サス又ハ之ヲ不當ニ支出シタルトキ
- 八 本令ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セサルトキ

九 本令ニ違反シテ殘餘財産ヲ處分シタルトキ
 十 第六十三條ノ場合ニ於テ一部ノ債權者ヲ利スルノ目的ヲ以テ期間内ニ辨濟ヲ爲シタルトキ
 十一 本令ニ依ル催告若ハ公告ヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

附則

第八十四條 本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第八十五條 舊漁業法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本令ニ依リ設立シタルモノト看做ス
 第八十六條 前條ノ漁業組合ハ本令施行後一年内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ第十六條第二項ニ掲ケタル事項ヲ登記スヘシ
 前項ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 申請書ニハ規約、設置認可書、並理事及監事ノ選任認可書ヲ添附スヘシ但シ地方長官ノ證明書又ハ認證アル膠木ヲ以テ認可書ニ代フルコトヲ得
 選任認可書ニ依リ理事及監事ノ氏名ヲ明ニスルコト能ハサルトキハ官廳ノ證明書ヲ以テ其ノ氏名ヲ證スヘシ
 第八十七條 舊漁業法ニ依リ設ケタル漁業組合ニシテ清算中ノモノニ付テハ其ノ清算ノ結了ニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依ル

朕漁業登錄令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十一月十一日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
 農商務大臣 男爵大浦兼武
 司法大臣 子爵岡部長職

勅令第四百三十號(官報十一月十二日)
 漁業登錄令

第一章 總則

第一條 免許漁業ニ關スル登録ハ左ニ掲ケタル事項ニ付免許ヲ爲シタル行政官廳ニ於テ免許漁業原簿ニ之ヲ爲ス
 一 漁業權及之ヲ目的トスル抵當權、先取特權、質借權並入漁權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅又ハ處分ノ制限
 二 漁業法第二十四條ノ制限若ハ停止又ハ其ノ變更若ハ解除
 第二條 假登録ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス
 一 登録ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ
 二 前條第一號ニ掲ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セムトスルトキ、其ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其ノ他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同
 第三條 豫寄登録ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一 登録原因ノ無効又ハ取消ニ依ル登録ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタルトキ但シ登録原因ノ取消ニ依ル訴ニ付テハ其ノ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

二 漁業免許又ハ期間更新ノ免許ニ對シ訴願又ハ行政訴訟ノ提起アリタルトキ

第四條 左ニ掲ケタル事項ノ登録ハ附記ニ依リテ之ヲ爲ス

一 登録名義人ノ表示ノ變更

二 入漁權抵當權及先取特權ノ移轉

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル登録ヲ申請スル場合ニ於テ登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ勝本ヲ添附シタルトキニ限り附記ニ依リテ其ノ登録ヲ爲ス

一 漁業權ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ變更

二 登録ノ更正

三 一部抹消登録ノ回復

第六條 同一漁業權ニ關シテ登録シタル權利ノ順位ハ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外登録ノ前後ニ依ル

登録ノ前後ハ登録用紙中同區ニ爲シタル登録ニ付テハ順位番號ニ依リ別區ニ爲シタル登録ニ付テハ受付番號ニ依ル

第七條 附記登録ノ順位ハ主登録ノ順位ニ依リ附記登録間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル

第八條 假登録ヲ爲シタルモノニ付本登録ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ順位ハ假登録ノ順位ニ依ル

第九條 詐欺又ハ脅迫ニ依リテ登録ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登録ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第十條 他人ノ爲登録ヲ申請スル義務アル者ハ其ノ登録ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス但シ其ノ登録ノ原因カ自己ノ登録ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 漁場圖、共同漁業權者名簿、共同入漁權者名簿及入漁登録簿ハ免許漁業原簿ノ一部ト看做ス

第十二條 免許漁業原簿其ノ他登録ニ付必要ナル帳簿ノ種類、様式及記入ニ關スル手續ハ主務大臣之ヲ定ム

第十三條 何人ト雖手数料ヲ納付シテ免許漁業原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又ハ免許漁業原簿若ハ其ノ附屬書類ノ閲覧ヲ請求スルコトヲ得

手数料ノ外郵便料ヲ納付シテ免許漁業原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 免許漁業原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ回復ニ關スル手續ハ主務大臣之ヲ定ム

第二章 登録手續

第十五條 登録ハ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外申請又ハ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ依ル登録ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外申請ニ依ル登録ニ關スル規定ヲ準用ス

第十六條 左ノ各號ノ一ニ關スル事項ハ行政官廳職權ヲ以テ之ヲ登録スヘシ

一 漁業權ノ設定又ハ變更

二 漁業免許ノ取消又ハ期間満了ニ依ル漁業權ノ消滅

三 第一條第二號ニ掲ケタル事項

四 國又ハ公共團體ノ起業ニシテ登錄官廳ノ主管ニ屬スル場合ニ於テ土地收用法ニ依リ收用シタル漁業權之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ移轉

五 登錄官廳ノ爲シタル登錄ニ關スル異議ノ決定又ハ訴願ノ裁決ニ依リ登錄スヘキ事項

第十七條 登錄ノ申請ハ登錄權利者及登錄義務者ヨリ之ヲ爲スヘシ

第十八條 相續判決又ハ漁業法第五十六條ノ規定ニ依ル裁決若ハ判決ニ基ク登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得合併又ハ分割ニ因リテ消滅シタル法人ノ權利承繼ノ登錄ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ職權又ハ囑託ニ依リ登錄ヲ爲ス場合ヲ除クノ外土地收用法ニ依リ收用シタル漁業權之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ移轉ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第十九條 登錄名義人ノ表示ノ變更ノ登錄申請ハ登錄名義人ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十條 假登錄ハ假登錄義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書ヲ添附シテ假登錄權利者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十一條 假登錄ハ前條ノ場合ヲ除クノ外假登錄權利者ノ申請ニ依リ漁業法第九條ノ市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滞ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登錄官廳ニ囑託スヘシ

前項ノ假處分命令ハ假登錄權利者カ假登錄原因ヲ説明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スヘシ申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 左ノ各號ニ關スル登錄ニ付テハ官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登錄官廳ニ囑託スヘシ

一 處分ノ制限

二 公賣處分ニ依ル權利移轉

三 國又ハ公共團體ノ起業ニシテ登錄官廳ノ主管ニ屬セサル場合ニ於テ土地收用法ニ依リ收用シタル漁業權之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ移轉

第二十三條 第三條ノ場合ニ於テ訴訟ヲ受理シタル司法裁判所又ハ行政裁判所ハ職權ヲ以テ遲滞ナク囑託書ニ添付ノ添付又ハ抄本ヲ添附シテ其ノ豫告登錄ヲ登錄官廳ニ囑託スヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外第三條第二號ノ場合ニ於テハ登錄官廳ハ職權ヲ以テ豫告登錄ヲ爲スヘシ

第二十四條 登錄ノ申請書ニハ本令中別ニ定メタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

一 免許番號

二 入漁登錄番號アルトキハ入漁登錄番號

三 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所

四 代理人ニ依リテ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ氏名又ハ名稱及住所

五 登錄原因及其ノ日附

六 登錄ノ目的

七 年月日

八 登録官廳ノ表示

入漁權保存ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ登録原因カ慣行ニシテ日附不明ナルトキハ前項第五號ノ日附ノ記載ヲ要セス

第二十五條 債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登録ヲ申請スルニハ申請書ニ前條ニ記載シタル事項ノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代位原因ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第二十六條 登録原因ニ買戻ノ特約其ノ他登録ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十七條 登録權利者カ多數ナル場合ニ於テ登録原因ニ持分ノ定アルトキハ申請書ニ其ノ持分ヲ記載スヘシ漁業權之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ一部移轉ノ登録ヲ申請スル場合亦同シ前項ノ場合ニ於テ民法第二百五十六條第一項但書ノ規定ニ依リ定アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

第二十八條 登録ノ申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

- 一 登録原因ヲ證スル書面但レ登録官廳ノ許可書又ハ認可書ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 登録原因ニ付第三者ノ許可同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面
- 三 代理人ニ依リテ登録ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面但シ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ届出ヲ爲シ又ハ指定セラレタル代表者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 四 登録義務者ノ權利ニ關スル登録濟證

第二十九條 第二十五條ノ規定ニ依リ登録ヲ申請スルトキハ前條ノ書面ノ外尙其ノ代位原因ヲ證

九 書面ヲ添附スヘシ

第三十條 第二十八條第二號ノ書面ニ依リ證明スヘキ事項カ既ニ登録ヲ受ケタルモノナルトキハ其ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十一條 登録原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ第二十八條第二號及第四號ニ掲ケタル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十二條 同一登録官廳ニ數箇ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テ添附スヘキ書面カ一箇ナルトキハ其ノ一ノ申請書ニ之ヲ添附シ他ノ申請書ニハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スル戸籍ノ謄本若ハ抄本又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

- 一 登録原因カ相續ナルトキ
 - 二 申請人カ登録權利者又ハ登録義務者ノ相續人ナルトキ
 - 三 登録名義人ノ表示ノ變更ノ登録ヲ申請スルトキ
- 第三十四條 第二十八條第二號ノ書面ハ其ノ第三者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシメ之ニ代フルコトヲ得

第二十八條第四號ノ書面カ滅失シタルトキハ其ノ登録名義人又ハ登録義務者ノ本人タルコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

- 一 事件カ其ノ登録官廳ノ管轄ニ屬セサルトキ
- 二 事件カ登録スヘキモノニ非サルトキ

- 三 申請書カ方式ニ適合セサルトキ
- 四 申請書ニ掲ケタル漁業權之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ表示カ免許漁業原簿ト牴觸スルトキ
- 五 第三十三條第二號ノ場合ヲ除クノ外申請書ニ掲ケタル登錄義務者ノ表示カ免許漁業原簿ト符合セサルトキ
- 六 申請人カ登錄名義人タル場合ニ於テ其ノ表示カ免許漁業原簿ト符合セサルトキ
- 七 申請書ニ掲ケタル事項カ登錄原因ヲ證スル書面ト牴觸スルトキ
- 八 申請書ニ必要ナル書面ヲ添附セサルトキ
- 九 登錄稅ヲ納付セサルトキ
- 第三十六條 行政區劃、大字、字又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキハ免許漁業原簿ニ記載シタル行政區劃、大字、字又ハ其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス
- 第三十七條 登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ登錄官廳ハ過滞ナク其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者ニ通知スヘシ
- 前項ノ通知ハ第二十五條ノ場合ニ於テハ債權者ニ對シテモ之ヲ爲スヘシ
- 前二項ノ場合ニ於テ登錄權利者、登錄義務者又ハ債權者カ二人以上アルトキハ代表者ニ、代表者ナキトキハ其ノ一人ニ通知スルヲ以テ足ル
- 第三十八條 抹消シタル登錄ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ
- 第三十九條 入漁權ノ設定又ハ保存ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 入漁スヘキ區域
 - 二 入漁スヘキ漁業ノ種類、漁獲物ノ種類及漁業時期
 - 三 存續期間ノ定アルトキハ其ノ期間
 - 四 入漁料ノ定アルトキハ其ノ事項
 - 五 漁業ノ方法ニ付定アルトキハ其ノ事項
 - 六 漁船、漁具又ハ漁業者ノ數ニ付定アルトキハ其ノ事項
 - 七 入漁者ノ資格ニ付定アルトキハ其ノ事項
 - 八 其ノ他權利義務ノ定アルトキハ其ノ事項
- 前項ノ申請書ニハ漁場圖ニ通テ添附スヘシ但シ入漁スヘキ區域カ專用漁業權ニ屬スル漁場ノ全部ナルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第四十條 漁業法第十四條但書ニ依ル入漁權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ慣行ヲ證スル書面ヲ添附シテ第二十八條第二號ノ書面ニ代フルコトヲ得
 - 第四十一條 先取特權ノ保存ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權額ヲ記載シ若シ登錄原因ニ辨濟期ノ定アルトキハ之ヲ記載スヘシ
 - 第四十二條 抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ若シ登錄原因ニ辨濟期ノ定アルトキ、利息ニ關スル定アルトキ、其ノ發生期若ハ支拂時期ノ定アルトキ、債權ニ條件ヲ附シタルトキ又ハ民法第三百七十條但書ノ定アルトキハ之ヲ記載スヘシ
 - 第四十三條 抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ノ表示ヲ爲スヘシ

抵當權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヲ記載ス

第四十四條 一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル先取特權又ハ抵當權ノ保存又ハ設定ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ價格ヲ記載スヘシ

第四十五條 債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ依ル先取特權若ハ抵當權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スヘシ

第四十六條 同一登録官廳ノ管轄ニ屬スル數箇ノ漁業權ニ關シ先取特權又ハ抵當權ノ保存、設定又ハ移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ登録原因及登録ノ目的カ同一ナルトキニ限り同一ノ申請書ヲ以テ登録ヲ申請スルコトヲ得

第四十七條 質借權ノ設定又ハ質借シタル漁業權ノ轉貸ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ借賃ヲ記載シ登録原因ニ存續期間若ハ借賃ノ支拂時期ノ定アルトキ又ハ轉貸若ハ質借權ノ移轉ヲ許シタルトキハ之ヲ記載シ質借借ヲ爲ス者カ處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者ナルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十八條 漁業權ノ之ヲ目的トスル權利又ハ入漁權ノ拋棄ニ依ル登録ノ抹消ハ登録名義人ノミニテ申請スルコトヲ得

第四十九條 先取特權及抵當權ノ登録アル漁業權ノ取消アリタルトキハ抹消ノ登録ヲ爲シ漁業法第二十四條第二項及第二十五條ノ場合ノ外競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スル旨及競落ノ決定確定シタルトキハ取消ハ其ノ效力ヲ生セザリシモノト看做ス旨ヲ同時ニ記載スヘシ
先取特權者又ハ抵當權者競賣ノ請求ヲ爲ササルトキ又ハ競賣申立ノ登録アリタル場合ニ於テ共

ノ登録抹消ノ囑託アリタルトキハ其ノ旨ヲ登録シタル後前項ノ規定ニ依ル記載ヲ抹消スヘシ
第五十條 登録シタル權利カ或人ノ死亡ニ依リテ消滅シタル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ死亡ヲ證明スル戸籍ノ謄本、抄本共ノ他之ニ相當スル書面ヲ添附スルトキハ登録權利者ノミニテ登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十一條 登録權利者カ登録義務者ノ行方ノ知レサルニ依リ之ト共ニ登録ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本ヲ添附シ登録權利者ノミニテ登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十二條 前條第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書或債權金額及最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登録權利者ノミニテ先取特權又ハ抵當權ニ關スル登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十三條 登録ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ抹消ニ付登録上利害關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ
第五十四條 假登録ノ抹消ハ假登録名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得
申請書ニ假登録名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判又ハ判決ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登録上利害關係ヲ有スル者ヨリ假登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十五條 第三條第一號ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シ敗訴ヲ言渡シタル裁判カ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滞ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若ハ抄本又ハ訴ノ取

下、請求ノ拋棄若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登録ノ抹消ヲ登録官廳ニ囑託スヘシ

第五十六條 第三條第二號ニ掲ケタル訴願若ハ行政訴訟ノ却下若ハ取下アリタルトキ又ハ請求否認ノ裁決若ハ判決アリタルトキハ登録官廳ハ職權ヲ以テ豫告登録ヲ抹消シ行政裁判所ハ其ノ抹消ヲ登録官廳ニ囑託スヘシ

第三章 異議及訴願

第五十七條 登録ニ關スル處分ヲ不當トスル者ハ處分ノ了リタル日ヨリ二十日以内ニ登録官廳ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第五十八條 異議ノ決定ハ理由ヲ附シテ之ヲ爲スヘシ

地方長官ノ爲シタル決定ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得

附則

第五十九條 本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十條 本令施行前ニ受理シタル申請又ハ届出ニ付テハ舊漁業法施行規則ニ依リ舊免許漁業原簿ニ之ヲ登録ス但シ登録メヘキ事項ハ漁業法又ハ本令ニ依リ登録スルコトヲ得ヘキモノニ限ル

第六十一條 本令施行前ニ登録シタル入漁權及本令施行前ニ受理シタル入漁登録申請又ハ舊漁業法施行前ノ契約若ハ慣行ニ依リテ入漁スル權利ヲ有スル者ノ專用漁業免許後一年以内ニ爲シタル入漁登録申請ニ基キ登録シタル入漁權相互ノ間ニ於テハ第六條ノ規定ヲ適用セス
前項ノ入漁權ハ他ノ入漁權ニ對シテ先順位ニ在ルモノト看做ス

第六十二條 舊免許漁業原簿ハ之ヲ免許漁業原簿ト看做ス

舊漁業法施行規則ニ依リ登録セラレタル事項中契約書ヲ援用シタルモノニ付テハ該契約書ハ舊免許漁業原簿ノ一部ト看做ス舊漁業法施行規則ニ依リ入漁場圖亦同シ

第六十三條 舊漁業法施行規則ニ基キ下付シタル漁業免許狀又ハ入漁登録證ハ登録濟證ト看做ス

第六十四條 舊漁業法施行規則ニ依リ登録セラレタル權利ニ關シ登録ノ申請アリタル場合ニ於テハ抹消ヲ除クノ外新免許漁業原簿ニ舊免許漁業原簿中抹消ニ係ラサル登録ヲ移シ舊免許漁業原簿中新免許漁業原簿ニ移シタル登録ヲ抹消スヘシ

朕明治二十五年勅令第六十號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十一月十一日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
農商務大臣 男爵大浦兼武

勅令第四百三十一號(官報十一月十二日)

第一條 漁業ニ關シ左ニ掲ケタル出願又ハ申請ヲ爲ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ

一 漁業法第四條又ハ第六條ニ依ル漁業ノ免許願 每一件 金三圓

二 漁業法第五條ニ依ル漁業ノ免許願 每一件 金五圓

三 漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ノ許可願 每一件 金二圓

四 地先水面專用ノ漁業權ノ處分ノ認可申請 每一件 金二圓

- 五 漁業權存續期間ノ更新申請 每一件 金三圓
- 六 免許漁業ノ休業ノ認可申請 每一件 金一圓
- 七 漁業法第五十六條ニ依ル裁決ノ申請 每一件 金五圓
- 八 免許漁業原簿ノ閲覧ノ申請 每一件 金十錢
- 九 免許漁業原簿ノ謄本又ハ抄本下附ノ申請

- 免許漁業原簿ノ謄本 每一件 金一圓
- 漁場圖ヲ除キタル免許漁業原簿ノ全部ノ抄本 每一件 金五十錢
- 漁場圖ヲ除キタル免許漁業原簿ノ一部ノ抄本 每一件 金三十錢
- 漁場圖ノ謄本 每一件 金五十錢

第二條 手数料ハ收入印紙ヲ願書又ハ申請書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

附則

第三條 本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 本令施行前ノ出願又ハ申請ノ手数料ニ關シテハ仍從前ノ金額ニ依ル

朕在外公館費用條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十一月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
外務大臣 伯爵小村壽太郎

勅令第四百三十二號(官報十一月三十日)

在外公館費用條例中左ノ通改正ス

第二十四條第一項中「亞細亞諸國」ヲ「其他」ニ、第二項中「本邦内」ヲ「内地」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕外國在勤警部巡查任用及支給規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十一月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
外務大臣 伯爵小村壽太郎

勅令第四百二十三號(官報十一月三十日)

外國在勤警部巡查任用及支給規則中左ノ通改正ス

第十一條第五號及第六號中「本邦内」ヲ「内地」ニ、第六號中「外國」ヲ「内地以外」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第十四號外國在勤警部巡查任用及支給規則(明治二十五年二月三日官報)抄錄
第十一條 外國在勤警部巡查ノ旅費ハ支度料、入馬料、車料及日當トシ左ノ各項ニ依リ赴任公用歸朝、賜暇歸朝其他公務ヲ帶
ヒ旅行スル場合ニ於テ之ヲ支給ス

- 五 八馬船車料定額及日當定額ヲ給スル場合ノ外本邦内ニ旅行又ハ滞留スルトキハ八馬船車料日當ハ内國旅費規則ニ依リ之ヲ給ス但巡查ハ雇員ノ例ニ依ル
- 六 日當定額ヲ給スル場合ニ於テ特別ノ命令ニ依リ又ハ已ムヲ得サル事故ノ爲メ中途ニ滞留シ豫定日數ヲ超過シタルトキハ其超過ノ日數ニ對シ本邦内ニ在テハ内國旅費規則外國ニ在テハ本令ニ依リ日當ヲ給スルコトヲ得但巡查ニ關シ本邦内ニ於テハ前號ノ例ニ依ル

朕明治四十三年法律第六十四號中一部ニ關スル施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十一月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

大藏大臣 侯爵寺內正毅

勅令第四百三十四號(官報十一月三十日)

明治四十三年法律第六十四號中登録稅法第六條中改正ニ關スル規定及第十五條ノ二ノ規定ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍軍醫學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十一月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第四百三十五號(官報十一月三十日)

陸軍軍醫學校條例中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

陸軍軍醫學校ニ於テハ前項學術ノ練習及軍陣醫學ノ研究ニ資スル爲一般患者ノ診療ヲ行フコトヲ得

第九條中「三等」ヲ削ル

第十條第二項中「四月」ヲ「六月」ニ改メ第三項中「概四月トス」ヲ「陸軍大臣之ヲ定ム」ニ改ム

第十二條中「二十日」ヲ「五日」ニ改ム

第十八條 第一條第二項ノ診療ニ要スル費用ハ患者ヲシテ自辨セシム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三十一號陸軍軍醫學校條例(明治四十一年三月四日官報)抄錄

第九條第五項

上長官學生ハ三等軍醫正ヲ以テ之ニ充ツ

第十條第二項及第三項

專攻學生ノ練習期間ハ概四月トス但シ前條第三項但書ノ者ニ在リテハ概一年トス

上長官學生ノ練習期間ハ概四月トス

第十二條 前條ノ告送アリタルトキハ師團長ハ軍醫部長ヲシテ學生タルヘキ者ヲ選定シ入校期日二十日前ニ其ノ官等氏名ヲ校長ニ通報セシム(ハシ)

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十一月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
陸軍大臣 子爵寺内正毅

勅令第四百三十六號 (官報十一月三十日)

陸軍給與令中左ノ通改正ス

第二十三條中「詰切ヲ命セラレ且交通ヲ遮斷セラレタルトキ」ヲ「詰切ヲ命セラレタルトキ又ハ營外居住ノ下士兵卒及判任以下ノ軍屬居殘勤務ヲ命セラレ食事ヲ要スルトキ」ニ改ム

第九表中「賄料ノ欄」ヲ削リ備考ニ左ノ一項ヲ加フ

居殘勤務ヲ命セラレタル者ノ食料ハ一人一食金十錢トス

第十一表中「賄料ノ欄」ヲ削ル

第二十一表備考三ヲ左ノ如ク改ム

三 大麥ニ燕麥ヲ秣ニ牧草ヲ同一定量ヲ以テ換ヘ給スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕臺灣官有森林原野及產物特別處分令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十一月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百三十七號 (官報十一月三十日)

臺灣官有森林原野及產物特別處分令中左ノ通改正ス

第一條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡ストキ

但森林原野ヲ賣渡スニハ其ノ買受豫約人ニ於テ豫定ノ事業ヲ成功シタル後ニ限ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

勅令第三百十一號臺灣官有森林原野及產物特別處分令(明治二十九年九月二十三日官報)抄録

第一條 臺灣總督ハ左ノ場合ニ限リ官有森林原野及其ノ產物ヲ統等ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡シ又ハ賣渡スコトヲ得

四 植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ

朕警察官吏及消防官吏ノ功勞記章ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月十三日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
内務大臣 法學博士 男爵平田東助

勅令第四百三十八號 (官報十二月十四日)

第一條 警察賞與規則ニ依リ賞與ヲ受ケタル警察官吏又ハ消防官吏ニシテ功勞拔群一般ノ範疇ト爲ルヘキ者ニ對シテハ記章ヲ付與シテ之ヲ制服ニ佩用セシム

記章ノ制式及形狀ハ附圖ニ依ル

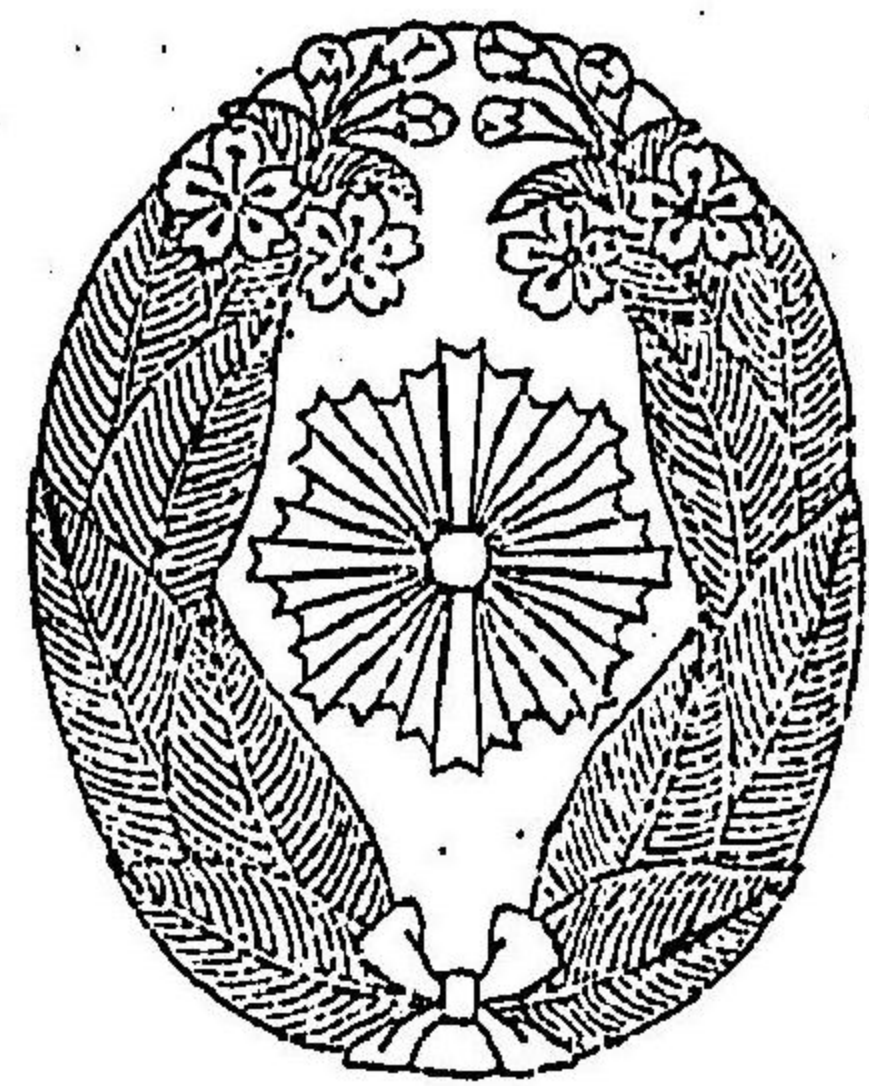
第二條 記章ハ所屬廳府縣長官ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ付與ス

第三條 記章ハ制服ノ上衣右胸部乳下ニ之ヲ佩用スルモノトス

第四條 記章ヲ有スル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ懲戒處分ニ依リ其ノ官職ヲ免セラレタルトキハ記章ノ返納ヲ命スヘシ其ノ他ノ懲戒處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ返納ヲ命スルコトヲ得

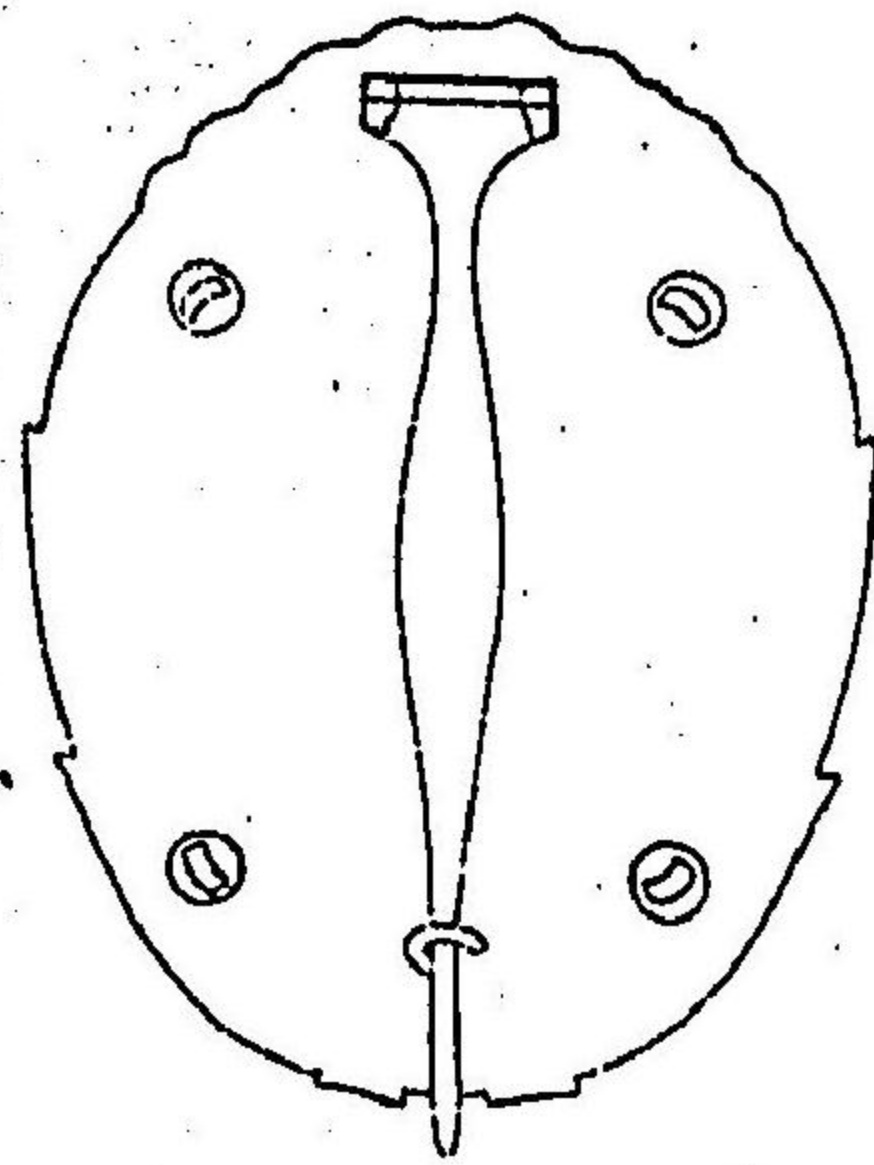
附圖

面正



縦一寸六分
横一寸三分
地及櫻葉、櫻花、結紐銀色
日章金色

面裏



朕明治三十九年勅令第二百六十五號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月十三日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
大藏大臣

勅令第四百三十九號(官報十二月十四日)

明治三十九年勅令第二百六十五號中左ノ通改正ス

第一條第一項第二種中第一號ノ前ニ左ノ一號ヲ加ヘ第一號ヲ第二號トシ以下順次繰下ク

一 大豆油 大豆 同 金十三錢

同條第二項中輸入原料品ノ數量ハノ下ニ大豆ニ付テハ大豆油ノ製造ニ使用シタル數量其ノ他ノモノニ付テハヲ加フ

第一條ノ二 輸入原料大豆ニ對シ輸入税ノ拂戻ヲ受クヘキ大豆油ノ製造ニハ内國產大豆ヲ混淆使用スルコトヲ得ス

第三條及第四條第二項中製造品ヲ構成スル輸入原料品ヲ大豆油ニ付テハ其ノ製造ニ使用シタル輸入原料大豆ノ數量其ノ他ノモノニ付テハ製造品ヲ構成スル輸入原料品ニ改ム

第六條中第五號ヲ第六號ニ第六號ヲ第七號ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ輸入税ノ拂戻ヲ受クヘキ大豆油ノ原料品ニシテ本令施行前ニ輸入シタルモノニ付テハ

輸入税ノ拂戻ヲ爲サス

〔参照〕

- 勅令第二百六十五號(明治三十九年九月二十九日官報)抄録
- 第一條 關稅定率法第九條第一項ニ依ル製造品、輸入原料品及之ニ對スル拂戻金定率左ノ如シ
前項拂戻金ノ率カ從價ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テハ輸入原料品ノ數量ハ其ノ製造品ヲ構成スル現數量ニ依リ從價ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テハ輸入原料品ノ價格ハ其ノ製造品ヲ構成スル現數量ノ輸入ノ際ニ於ケル課稅價格ニ依ル
- 第三條 第二種ノ製造品ノ製造ヲ終リタルトキハ其ノ數量及製造品ヲ構成スル輸入原料品ノ數量ヲ配シ當該官廳ニ申告シ検査ヲ受ケ製造ノ承認ヲ受ケヘシ
- 第四條第二項
製造品則書又ハ製造承認書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 製造品ヲ構成スル輸入原料品ノ名稱及現數量

朕臺灣總督府稅關官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月十四日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百四十號(官報十二月十五日)

臺灣總督府稅關官制中左ノ通改正ス

- 第一條第一號中「出港稅」ヲ削リ第四號中「臺灣輸出稅及出港稅規則、臺灣噸稅規則」ヲ「臺灣噸稅規則及稅關ニ於テ發見シタル臺灣間接國稅」ニ改メ左ノ二號ヲ加フ
- 八 砂糖、糖蜜、糖水又ハ酒類ノ内地、朝鮮及樺太移出ニ關スル事項

九 酒類、造石稅、織物消費稅及石油消費稅下戻ニ關スル事項

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

- 勅令第四十九號臺灣總督府稅關官制(明治三十四年四月十一日官報)抄録
- 第一條 臺灣總督府稅關ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
一 關稅、出港稅、噸稅及稅關附收入ニ關スル事項
二 臺灣關稅規則、臺灣噸稅規則及出港稅規則、臺灣噸稅規則犯則者ノ處分ニ關スル事項

朕警視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月十六日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎
內務大臣 法部卿 平田東助

勅令第四百四十一號(官報十二月十七日)

警視廳官制中左ノ通改正ス

- 第三條中「二十六人」ヲ「四十七人」ニ改ム
- 第四條中「二百二十四人」ヲ「百九十三人」ニ改ム
- 第十九條中「巡視官二人」ヲ「方面監察八人」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

方面監察區域ハ警視總監之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ
 第二十六條中「二十四警察署」ヲ「八十三警察署」ニシテ警察署ノ下ニ「ヲ」郡部警察署ノ下ニニ改ム
 第三十二條中「巡視官」ヲ「第一部長」ニ改ム
 第三十三條 警視總監必要アリト認ムルトキハ便宜ノ地ニ方面監察派出所ヲ置クコトヲ得
 附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

勅令第七十九號警視監官制(明治三十九年四月十八日官報)抄録
 第三條 警視ハ二十六人警察署長ハ一人兼任トス
 第四條 第一項
 警部警視監消防士警察署及消防機關士ノ定員ハ通シテ二百二十四人トシ其ノ各官及警部補ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ警視總監之ヲ定ム
 第十九條 第一項ニ巡視官二人ヲ附キ警視ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ヲ分掌シ警察事務ノ實況ヲ監察ス
 第二十六條 東京府下ニ二十四警察署ヲ置ク其ノ管轄區域ハ内務大臣之ヲ定ム
 警視總監必要アリト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得
 第三十二條 警察消防監督所長ハ巡視官タル警視ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

朕高等官等條給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月十六日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百四十二號(官報 十二月十七日)

高等官等條給令中左ノ通改正ス

第十七條中警視廳警視ノ下巡視官タル者ヲ「方面監察タル者」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

勅令第三百三十四號高等官等條給令(明治四十三年三月二十八日官報)抄録
 第十七條 別表第二表第二號ニ依リ其ノ俸給官等ニ相當セサル諸官左ノ如シ
 警視廳警視 消防官タル者

朕警察官及消防官服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月十六日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
内務大臣 法學博士 平田東助

勅令第四百四十三號(官報 十二月十七日)

警察官及消防官服制中左ノ通改正ス

警察官及消防官服制圖例及圖中「巡視官タル警視ヲ」方面監察タル警視ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕地租條例施行規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十日

内閣總理大臣兼
大藏大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百四十四號(官報十二月二十一日)

地租條例施行規則

- 第一條 土地ニハ番號ヲ附シ每筆其ノ地價ヲ定ム
- 第二條 一筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割ス
 - 一 別地目ト爲ルトキ
 - 二 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲ルトキ
 - 三 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ
 - 四 所有者ヲ異ニスルトキ
 - 五 質權ノ目的ト爲ルトキ
 - 六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ
 - 七 行政區劃ヲ異ニスルトキ
- 第三條 開墾著手後十年以内又ハ開墾銀下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ之ヲ廢止シタルモノトス
- 第四條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ

歸セン土地ニシテ開墾著手後十年以内若ハ銀下年期中地租ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價據置年期中地租ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス

第五條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セン土地ニシテ開墾著手後十年以内若ハ銀下年期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價據置年期中變換前ノ地目ト異ナル地目ニ變換シタルトキハ地價ハ之ヲ修正セス

前項ノ場合ニ於テ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セン土地ニ付銀下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム

第七條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換地類變換又ハ開墾ト看做サス

第八條 地租條例第十六條第二項ノ場合ニ於テ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ成功セサル部分ノ土地ニ付テハ其ノ後成功シタル部分アル毎ニ其ノ地價ヲ修正ス

第九條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル年期ハ消滅ス

第十條 地目變換、地類變換又ハ開墾ニシテ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ出願

ヲ以テ地租條例ニ依ル届出ト看做ス

第十一條 地租條例第十六條第三項、第六項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ、繰下年期地價据置年期又ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ、稅務署長ニ申請スヘシ

官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付、繰下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ、民有ニ歸セシ後六十日內ニ、稅務署長ニ申請スヘシ

第十二條 地租條例第二十一條、第二十三條若ハ第二十四條ノ規定又ハ明治三十四年法律第三十號ニ依リ、低價年期、荒地免租繼年期又ハ年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ、年期滿了後六十日內ニ、稅務署長ニ申請スヘシ

第十三條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日內ニ、稅務署長ニ届出ツヘシ

一 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキ

二 開墾ニ著手シタルトキ、開墾成功シタルトキ、開墾ヲ廢止シタルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ

三 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

四 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

五 地租ヲ課スル土地ヲ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公用若ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ又ハ一年內ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セザルトキ

前項ノ場合ニ於テ地價ヲ定メ又ハ修正スヘキトキハ實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ

第十四條 一筆ノ土地ヲ分割シ又ハ數筆ノ土地ヲ合併セムトスルトキハ土地ノ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ

第十五條 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期若ハ免租繼年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ若ハ他ノ地目ニ變シタルトキハ年期滿了ノ後六十日內ニ土地所有者又ハ納稅義務者ヨリ稅務署長ニ届出ツヘシ

第十六條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ其ノ市區町村長又ハ戸長ニ届出ツヘシ

前項ノ町村ト稱スルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戸長ノ職務ヲ行フ區域トス

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕實業稅法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第四百四十五號(官報十二月二十一日)
實業稅法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十三年十二月 勅令 第四百四十五號

第五條中「賣藥稅」ヲ「賣藥印紙稅」ニ改ム
第六條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ賣藥ヲ廢棄スルトキハ印紙ノ貼用ヲ要セス

第六條ノ二 第五條ノ藏置又ハ運搬中賣藥ノ裝置ノ變更ヲ要スルニ至リタルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ製造場へ戻入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第五條第三項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ賣藥ヲ輸出セムトスルトキハ更ニ第五條ノ承認ヲ受クヘシ

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第五百五十五號賣藥稅法施行規則(明治三十八年五月六日官報)抄錄

第五條第一項

賣藥ヲ外國ニ輸出シ賣藥稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ賣藥ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

第六條第二項

前條第一項ノ承認カ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ賣藥營業者又ハ輸出者ニ於テ其ノ賣藥ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

朕家畜市場法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
陸軍大臣 子爵寺內正毅
農商務大臣 男爵大浦兼武

勅令第四百四十六號(官報 十二月二十一日)
家畜市場法ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕東北帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十一日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
文部大臣 小松原英太郎

勅令第四百四十七號(官報 十二月二十二日)

東北帝國大學官制

第一條 東北帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長

事務官

學生監

書記

第二條 總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ東北帝國大學一般ノ

事務ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス
總長ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ農科大學長ニ委任スルコトヲ得

第三條 事務官ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條 學生監ハ二人教授又ハ助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

學生監ハ總長ノ命ヲ承ケ學生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第五條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

東北帝國大學及分科大學書記ハ通計專任十三人ヲ以テ定員トス

第六條 分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

教授

助教授

助手

書記

第七條 教授ハ專任二十四人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ

其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ分科大學長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

第八條 助教授ハ專任十一人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外ニ置クモノトス但シ講座ヲ分擔スル助教授ハ此ノ限ニ在
ラス

第九條 助手ハ專任二十一人判任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス

第十條 第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事ヲ掌ル

第十一條 農科大學附屬植物園ニ植物園長、農場ニ農場長、演習林ニ演習林長ヲ置キ教授又ハ助教
授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

植物園長、農場長及演習林長ハ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ事務ヲ掌理ス

第十二條 農科大學ニ大學豫科、土木工學科及水産學科ヲ附屬セシメ教授專任二十七人助教專
任十二人ヲ置ク

教授ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

東北帝國大學農科大學官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ東北帝國大學農科大學又ハ附屬大學豫科、土木工學科、水産學科ノ教授、助教、助
手又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各東北帝國大學農科大學又ハ附屬大
學豫科、土木工學科、水産學科ノ教授、助教、助手又ハ書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

前項ノ規定ニ依リ東北帝國大學農科大學附屬大學豫科、土木工學科、水産學科教授ニ任セラレタル
者ニ關シテハ高等官等俸給令第十條第四項ノ適用ニ付前官ノ在職年數ヲ通算ス

朕九州帝國大學ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十一日

明治四十三年十二月 勅令 第四百四十八號

勅令第四百四十八號(官報十二月二十二日)

- 第一條 福岡ニ帝國大學ヲ置キ九州帝國大學ト稱ス
- 第二條 九州帝國大學ノ分科大学及分科大学中ノ各學科開設ノ期日ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第三條 九州帝國大學總長ノ職務ハ當分ノ内九州帝國大學工科大学長ヲレテ之ヲ行ハシム
- 第四條 帝國大學令第六條乃至第八條ノ規定ハ當分ノ内九州帝國大學ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕九州帝國大學工科大学官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十一日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
文部大臣 小松原英太郎

勅令第四百四十九號(官報十二月二十二日)

九州帝國大學工科大学官制

- 第一條 九州帝國大學工科大学ニ職員ヲ置ク左ノ如シ
- 學長
- 教授

書記

- 第二條 學長ハ教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス
- 學長ハ文部大臣ノ監督ヲ承ケ工科大学ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス
- 第三條 教授ハ專任六人奏任又ハ勅任トス講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス
- 教授ニシテ學長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルハシ
- 第四條 書記ハ專任二人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕内地臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ通航スル船舶ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十六日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
陸軍大臣 子爵寺內正毅
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第四百五十號(官報十二月二十七日)

内地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ通航スル船舶ハ税關ノ特許ヲ受ケ慶尙南道馬山浦及行巖灣ニ出入スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕營業稅法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十六日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
大藏大臣

勅令第四百五十一號(官報十二月二十七日)

營業稅法施行規則中左ノ通改正ス

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項但書ノ規定ニ依リ共通ノ課稅標準ヲ計算シタル營業ヲ廢シタルトキハ其ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ前項但書ノ規定ニ準シ其ノ課稅標準ヲ他ノ營業ニ計算スヘシ

第五條中「保險責任準備金」ヲ「保險責任準備金及保險支拂備金」ニ改ム

第六條ノ一及第七條ノ一中「出資金額」ヲ「出資金額」ニ「資本金額」ヲ「資本金額及借入金アルトキハ其ノ出資金額ヲ超過スル金額」ニ改ム

第八條ノ二 會社タルト個人タルトヲ問ハス金錢貸付業又ハ物品貸付業ノ課稅標準ト爲スヘキ運轉資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル貸付及貸付クヘキ金額又ハ貸付及貸付クヘキ物品ノ見積價格トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第十八條中「稅務署長」ヲ經由シテ「稅務監督局長」ヲ「稅務署長」ニ改ム

第十九條及第二十一條中「稅務監督局長」ヲ「稅務署長」ニ改ム

第二十條 削除

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百六十九號營業稅法施行規則(明治二十九年七月二十一日官報抄録)

第二條第一項

同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舖其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類並ニ各店舖其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ但シ課稅標準トナルヘキモノヲ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ稅率ノ最重キ營業稅率ヲシテ其ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第五條 株式會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル株式會社及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資本金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス但シ保險會社ニ於ケル保險責任準備金ハ之ヲ除算ス

第六條ノ一 會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資本金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條ノ一 合名會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資本金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第十八條 前條ノ算定ニ對シ異議アル者審査ヲ求メントストキハ其ノ理由ヲ附記シ營業稅法第二十七條ノ期限内ニ稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ申出ヘシ

第二十條 審査委員ノ定數ハ五人トス

朕明治三十六年勅令第五號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十六日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第四百五十二號(官報十二月二十七日)

明治三十六年勅令第五號中左ノ通改正ス

明治四十三年十二月 勅令 第四百五十二號

第一條中「四海軍區」ヲ「五海軍區」ニ改メ、第三海軍區ノ項中「對馬」ヲ削リ、第四海軍區ノ項ノ次ニ左ノ

一項ヲ加フ

第五海軍區 對馬及朝鮮ノ海岸海面

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

第五海軍區軍港

朝鮮慶尙南道昌原郡鎮海

第五條 當分ノ内鎮海軍港ニ鎮守府ヲ置カス佐世保鎮守府ヲシテ第五海軍區ヲ管セシム

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十六年二月二十日勅令第五號ハ海軍區ノ件ナリ

朕鎮海軍港境域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十六日

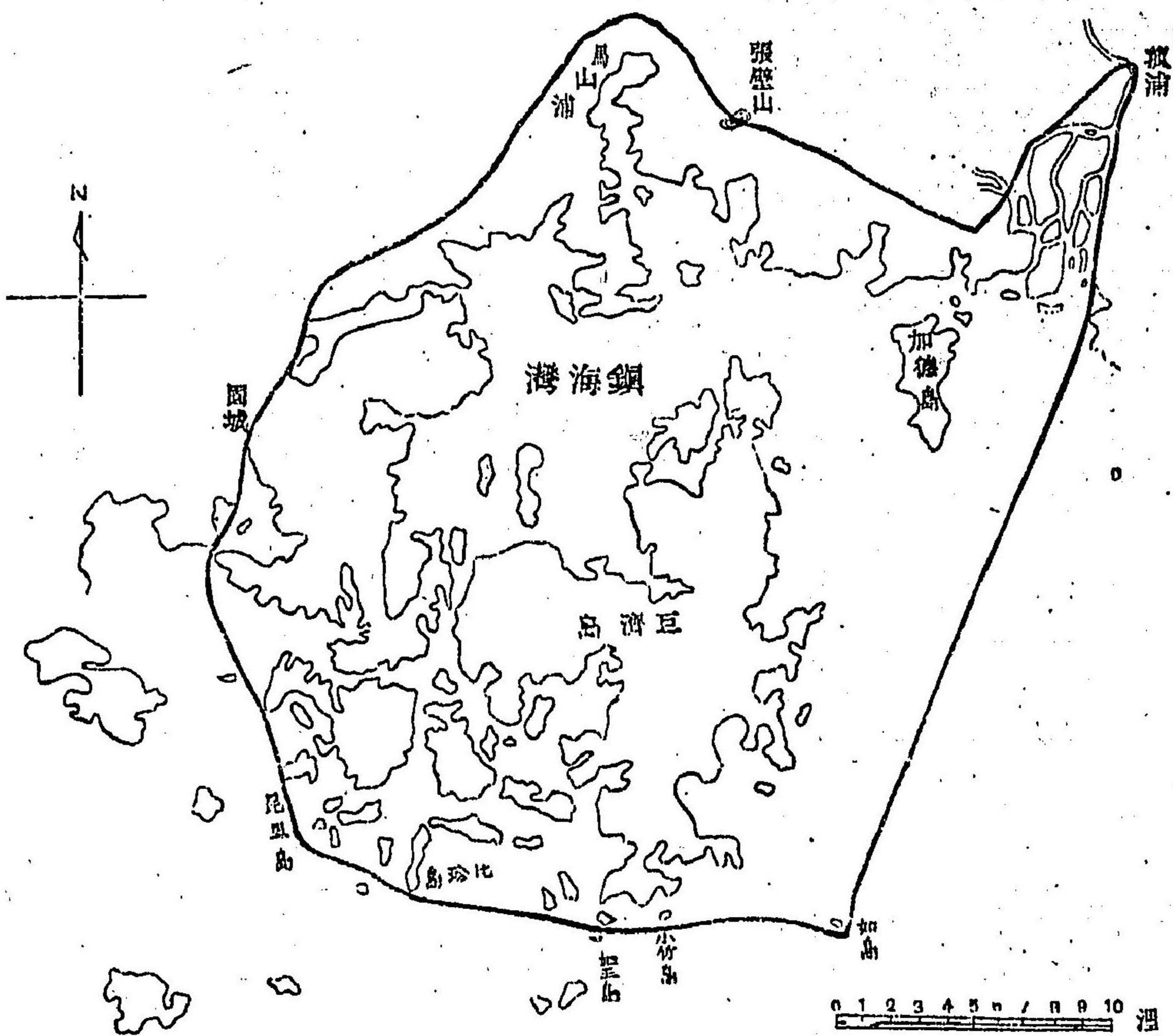
内閣總理大臣 侯爵桂太郎
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第四百五十三號(官報十二月二十七日)

鎮海軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以内ト定ム

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス



朕朝鮮咸鏡南道永興ヲ要港ト爲シ其ノ境域ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十六日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

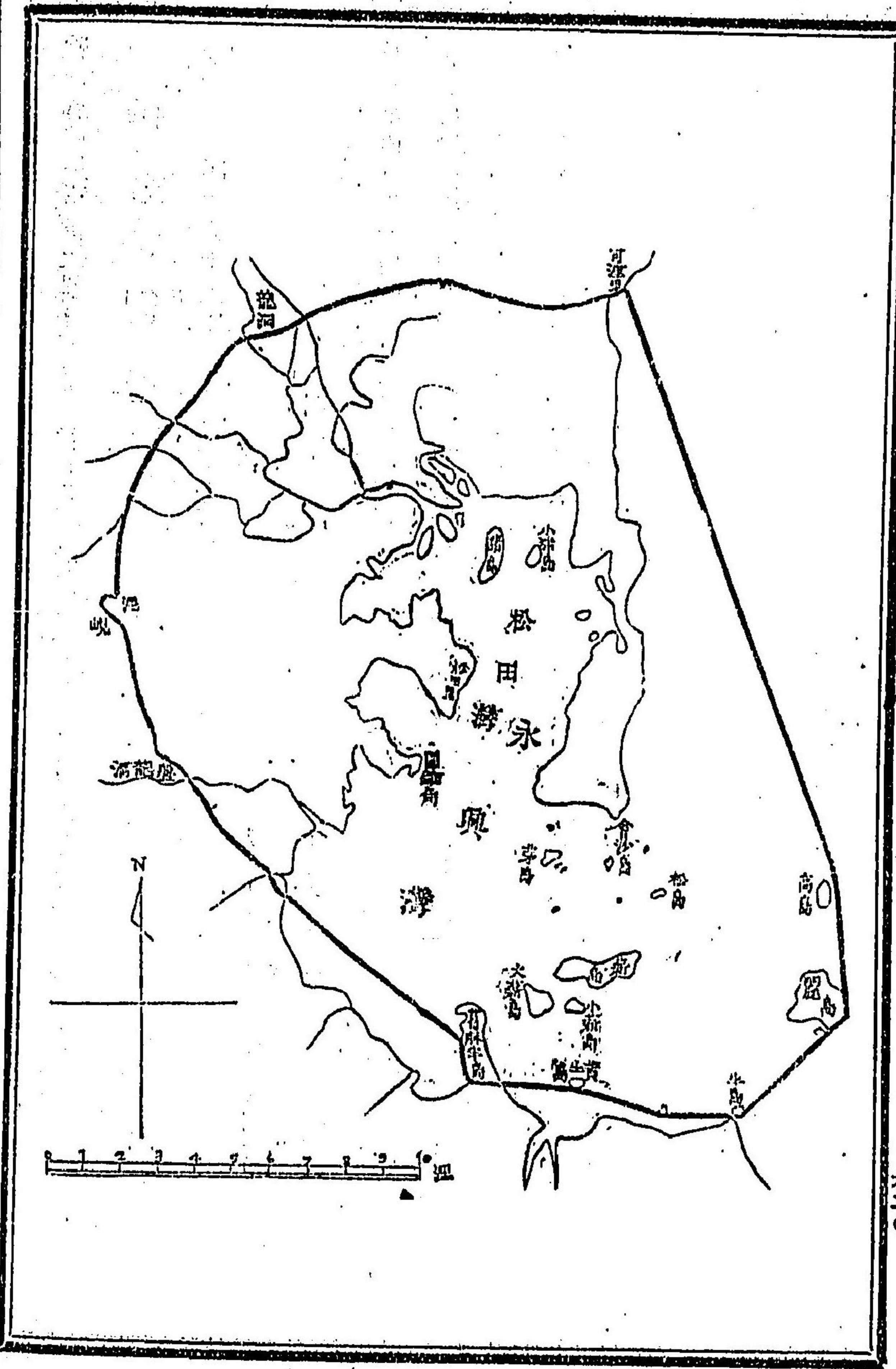
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第四百五十四號(官報十二月二十七日)

朝鮮咸鏡南道永興ヲ要港トス其ノ境域ハ左圖ニ記スル黒線以內ト定ム

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス



朕明治二十三年法律第二號及同年法律第八十三號ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

御名 御璽

明治四十三年十二月二十六日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第四百五十五號(官報十二月二十七日)

明治二十三年法律第二號及同年法律第八十三號ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治二十三年一月十六日 法律第二號ハ軍港要港ニ關スル件、同年九月十三日 法律第八十三號ハ軍港要港規則違犯者處分ノ件ナリ

朕臨時海軍建築部官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十六日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第四百五十六號(官報十二月二十七日)

臨時海軍建築部官制中左ノ通改正ス

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

臨時海軍建築部支部ハ前項ノ事務ヲ分掌スル外官有財産ニ關スルコトヲ掌ル

第九條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ官有財産ニ關スルコトニ付テハ海軍大臣ノ命ヲ承ク

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第五十五號臨時海軍建築部官制(明治四十三年三月二十八日官報)抄録

第九條 支部長ハ部長ノ命ヲ承ク支部ノ事務及工事ヲ管理ス

朕明治三十二年勅令第二百一號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年十二月二十六日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
文部大臣 小松原英太郎

勅令第四百五十七號(官報十二月二十七日)

明治三十二年勅令第二百一號中第二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 教育事務從事ノ北海道廳府縣郡區島廳朝鮮總督府朝鮮總督府道府郡、臺灣總督府臺灣總督府廳關東都督府樺太廳統監府官吏

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百一號(明治三十二年五月十七日官報)抄録

第二條 明治三十九年法律第十三號ニ於テ通算スルコトヲ得ヘキ文官ノ種類左ノ如シ

三 教育事務ニ從事スル北海道府縣郡區島廳臺灣總督府廳統監府樺太廳官吏

法令全書

條約

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ日本帝國遞信省及墨西哥合衆國遞信工部省間ニ締結セル小包郵便物交換條約ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年六月十七日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
遞信大臣 男爵後藤新平

條約第一號(官報六月十八日)

日本帝國遞信省及墨西哥合衆國遞信工部省間ニ締結セル小包郵便物交換條約

日本帝國遞信省及墨西哥合衆國遞信工部省ハ日本帝國及墨西哥合衆國間ニ小包郵便物ノ直接交換業務ヲ施設セムカ爲左ノ條約ヲ締結ス

第一條

重量五「キログラム」迄ノ非價格表記小包ハ小包郵便物ナル名稱ノ下ニ日本帝國ヨリ墨西哥合衆國へ及墨西哥合衆國ヨリ日本帝國へ之ヲ發送スルコトヲ得

第二條

兩郵政廳ハ兩廳カ保持スル遞送方法ニ依ル兩國間ノ小包ノ遞送ヲ保障スヘシ

第三條

一 差出國郵政廳ハ名宛國郵政廳ニ對シ小包一箇毎ニ墨西哥貨二十「センタヴオ」又ハ日本貨二十錢ノ陸路料及場合ニ依リ第五條第二項ニ定ムル十「センタヴオ」又ハ十錢ノ増料金ヲ支拂フヘキモノトス

二 又名宛國郵政廳カ兩締約國間ノ海運ヲ爲ストキハ差出國郵政廳ハ名宛國ニ左ノ海路料ヲモ支拂フヘキモノトス

一「キログラム」ヲ超過セサル小包各箇ニ付……………四十「センタヴオ」又ハ四十錢
一「キログラム」ヲ超過シ五「キログラム」ヲ超過セサル小包各箇ニ付……………六十「センタヴオ」又ハ六十錢

第四條

小包郵便物ノ料金ハ前納ニ限ル

第五條

一 兩締約國間ニ交換スル小包郵便物ノ料金ハ小包一箇毎ニ差出國及名宛國ニ對スル各二十「センタヴオ」又ハ二十錢ノ陸路料及第三條第二項ニ定ムル海路料ヨリ成ル必要ナルトキハ本條第二項ニ記載スル増料金ヲ加算ス

二 各郵政廳ハ其ノ郵便局ヨリ發シ又ハ之ニ宛ツル小包郵便物ニ對シ小包一箇毎ニ十「センタヴオ」又ハ十錢ノ増料金ヲ適用スルノ權能ヲ有ス

第六條

小包郵便物ノ差出人ハ最高限十「センタヴオ」又ハ十錢ノ一定料金ヲ前納シ該郵便物ノ到達證ヲ受

クルコトヲ得同料金ハ差出人カ未タ到達證ヲ受クル爲特別ノ料金ヲ支拂ハサリントキハ差出後ニ爲ス小包ノ踪跡取調ノ請求ニモ之ヲ適用スルコトヲ得此ノ料金ハ全部差出國郵政廳ニ歸屬スルモノトス

第七條

名宛國ハ配達及税關ニ於ケル手續執行ニ對シ小包一箇毎ニ總額十「センタヴオ」又ハ十錢ヲ超過セサル料金ヲ徵收スルコトヲ得此ノ料金ハ小包交付ノ際之ヲ名宛人ヨリ徵收スルモノトス

第八條

名宛人ノ居所變更ニ因リテ爲ス兩國ノ一方ヨリ他方ヘノ小包郵便物ノ轉送又ハ不能配達ト爲リタル小包郵便物ノ返送ニ付テハ第五條ニ定ムル料金ヲ場合ニ依リ名宛人又ハ差出人ヨリ追徵ス

第九條

本條約ヲ適用スル小包ニ付テハ該條約ノ諸條ニ規定スルモノノ外何等ノ郵便料金ヲ徵收スルコトヲ得ス

第十條

一 左記ノ物ヲ包有スル小包ハ郵便ニ依リ發送スルコトヲ禁ス

(甲) 爆發性 發火性又ハ危險性ノ物品 生活スル動物

(乙) 書狀又ハ通信文ノ性質ヲ有スル書類

(丙) 税關其ノ他ニ關スル法令ニ依リ郵送ヲ許ササル物品

二 此等ノ禁制ノ一ニ觸ルル小包カ一郵政廳ヨリ他ノ郵政廳ニ交付セラレタル場合ニ於テハ同廳ハ其ノ内國法制ニ依リ之ヲ處分ス

第十一條

兩締約國郵政廳ハ小包郵便物ノ亡失又ハ毀損ニ對シ何等ノ責ニ任セサルモノトス然レトモ各郵政廳ハ自應ノ業務ニ於テ亡失又ハ毀損シタル小包郵便物ノ差出人ニ對シ賠償ヲ爲スノ自由ヲ有ス

第十二條

各郵政廳ハ小包郵便物ノ業務ヲ停止スルヲ至當ナリトスル非常ノ場合ニ於テハ一時其ノ全部又ハ一部ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ旨ヲ直ニ關係郵政廳ニ通知スルモノトス必要ナルトキハ電信ニ依ル

第十三條

本條約中ノ條款ニ規定セサル總テノ事項ニ付テハ各締約國ノ内國法制ヲ適用スヘキモノトス

第十四條

一 兩締約國郵政廳ハ小包郵便物ノ國際交換ニ與ラシムル郵便局又ハ地方ヲ指定ス

二 兩郵政廳ハ此ノ小包ノ遞送方法ヲ規定シ其ノ他總テ本條約ノ實施ヲ確實ニスル爲必要ナル細目手續ヲ定ム

第十五條

兩締約國郵政廳ハ兩廳ノ一方ノ媒介ニ依リテ他方ト小包ノ交換ヲ爲スヘキ第三國ヨリ發シ又ハ之ニ宛ツル小包郵便物ヲ各自ノ交換局間ニ交換スルニ必要ナル條件ヲ小包郵便物交換ニ關スル聯合條約ノ規定ニ基キ協議ヲ以テ決定スヘシ

第十六條

本條約ハ兩締約國郵政廳ニ於テ協議ヲ以テ決定スヘキ日ヨリ之ヲ施行シ兩締約國ノ一方ヨリ少ク

トモ一年前ニ是カ廢止ノ意思ヲ他方ニ通告スルトキハ其ノ效力ヲ失フ
明治四十三年四月二十五日東京ニ於テ及千九百十年五月二十四日「メキシコ」ニ於テ二通ヲ作成シ之ニ署名ス

日本帝國 遞信大臣 男爵後 藤 新 平
墨西哥合衆國遞信工部大臣 レアンドロ・フェルナナンデス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ日本帝國遞信省及墨西哥合衆國遞信工部省間ニ締結セル郵便爲替業務條約ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年六月十七日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
遞信大臣 男爵後藤新平

條約第二號(官報 六月十八日)

日本帝國遞信省及墨西哥合衆國遞信工部省間ニ締結セル郵便爲替業務條約

日本帝國及墨西哥合衆國間ニ郵便爲替ノ直接交換ヲ開設スルノ目的ヲ以テ下ニ署名スル者ハ是カ爲各相當ノ權限ヲ與ヘラレ左ノ諸條款ヲ協定ス

第一條

日本帝國ト墨西哥合衆國トノ間ニ郵便爲替ノ常時交換アルヘシ

第二條

締約國間ノ郵便爲替交換業務ハ總テ各郵政廳ノ指定スル交換局ヲ經テ之ヲ取扱フヘシ
各郵政廳ハ其ノ指定シタル交換局ヲ他方ニ通知スヘシ

第三條

一方ノ交換局ヨリ他方ノ交換局ニ通知スル各郵便爲替ノ金額ハ拂渡ヲ爲スヘキ國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

第四條

各郵政廳ハ其ノ振出す郵便爲替ニ適用スヘキ換算割合ヲ隨時定ムルノ權能ヲ有ス此ノ換算割合ハ各郵政廳ニ於テ之ヲ他方ニ通知スルコトヲ要ス

第五條

日本ニ於テ振出す郵便爲替一口ノ最高額ハ墨西哥貨幣二百「ペソ」ト定メ墨西哥ニ於テ振出す爲替一口ノ最高額ハ日本貨幣二百圓ト定ム此ノ最高額ハ兩郵政廳ノ協議ヲ以テ之ヲ増昂スルコトヲ得各郵便爲替ノ金額ニハ「センメツオ」又ハ「一錢未滿ノ端數ヲ附スヘカラス

第六條

日本帝國遞信省及墨西哥合衆國郵政廳ハ各其ノ振出す郵便爲替ニ對シ徵收スヘキ爲替料ノ割合ヲ隨時定ムルノ權能ヲ有ス各郵政廳ハ其ノ定メタル爲替料ノ割合ヲ他方ニ通知スヘシ
爲替料ハ振出郵政廳ニ歸屬スヘキモノトス然レトモ日本遞信省ハ日本ニ於テ振出し墨西哥ニ於テ拂渡スヘキ郵便爲替金額ノ四百分ノ一ヲ墨西哥郵政廳ニ支拂フヘク又墨西哥郵政廳ハ墨西哥ニ於テ振出し日本ニ於テ拂渡スヘキ郵便爲替ニ對シ日本遞信省ニ同様ノ支拂ヲ爲スヘシ

停券ニ宛テ又ハ停券ヨリ差出す郵便爲替ハ爲替料及拂渡國ニ爲ス支拂ヲ免除セラルヘシ

郵便爲替ノ差出人ハ書留郵便物ノ到達證ニ對シ差出國ニ於テ徵收スル料金ト同額ナル一定ノ料金ヲ納付シテ其ノ爲替ノ拂渡通知書ヲ受クルコトヲ得此ノ料金ハ專ラ差出國郵政廳ニ歸屬ス
爲替拂渡通知書ノ請求ハ爲替ノ通常有効期間満了ノ日ヨリ一年ノ期間内ニ限リ之ヲ受理ス

第七條

郵便爲替ノ振出ヲ請求スル者ハ差出人及名宛人ノ氏名(名ハ少クトモ其ノ一ノ頭字)又ハ差出人若ハ名宛人タル會社、組合其ノ他ノ團體ノ名稱並差出人及名宛人ノ居所ヲ羅列字ニテ詳示スルコトヲ要ス權利者ノ何人タルヤヲ明ニ決定スルニ足ルヘキ身分、稱號又ハ職業ヲ記載シタル場合ヲ除クノ外日本人ノ氏名ハ略字ヲ以テ記載スヘカラス又墨西哥ヨリ日本ニ振宛ツル郵便爲替ノ差出人及名宛人カ共ニ日本人、清國人又ハ韓國人ナルトキハ差出人ハ自己及名宛人ノ居所氏名ヲ場合ニ應シ日本字又ハ漢字ヲ以テ詳記スル紙片ヲ差出すコトヲ要ス此ノ紙片ハ爲替報知目録ニ添附シテ墨西哥交換局ヨリ日本交換局ニ送付スヘシ但シ名若ハ其ノ頭字ヲ示スコト能ハサルトキ又ハ前記ノ紙片ヲ差出すコト能ハサルトキト雖差出人ノ危險ニ於テ爲替ヲ振出すコトヲ得

第八條

各交換局ハ他方ノ國ニ於テ拂渡ス爲自國ニ於テ受取リタル金額ヲ每便關係交換局ニ通知スヘシ是カ爲附録甲號及乙號離形ニ適合スル目録ヲ用フヘシ
停券ニ宛テ又ハ停券ヨリ差出す郵便爲替ノ細項ハ「免料爲替」ナル表題ヲ有スル別箇ノ目録ニ之ヲ記入スヘシ
目録原本亡失ノ場合ニ於ケル不便ヲ防止セムカ爲各局ハ每便前便ニ送付シタル目録ノ複本ヲ發送スヘシ

第九條

目錄ニ記入スル各郵便爲替ニハ國際番號ト稱スル番號ヲ附シ毎年一月一日第一號ヨリ始ムヘシ
各目錄ニモ亦逐次番號ヲ附シ毎年一月一日第一號ヨリ始ムヘシ

第十條

各目錄ノ領收ハ雙方トモ其ノ後始メテ他方ニ發送スル目錄ヲ以テ之ヲ承認スヘシ不達ノ各目錄ハ
之ヲ受取ルヘキ交換局ヨリ直ニ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ差立交換局ハ證明ヲ附シタル目錄複
本ヲ遲滞ナク受取交換局ニ送付スヘシ

第十一條

目錄ハ其ノ受取交換局ニ於テ慎重ニ之ヲ査閲シ明白ナル誤謬アルトキハ之ヲ訂正スヘシ其ノ訂正
ハ訂正セシ目錄ノ受領書ニ記載シテ之ヲ差立交換局ニ通知スヘシ
目錄中ニ受取交換局ニ於テ訂正シ能ハサル違例アルトキハ受取交換局ハ差立交換局ニ説明ヲ求ム
ヘシ差立交換局ハ成ルヘク速ニ是カ説明ヲ爲スコトヲ要ス其ノ間目錄中違例ト認メラルル記事ニ
關スル內國郵便爲替券ノ發行ハ之ヲ停止スルモノトス

第十二條

目錄カ名宛交換局ニ到達スルトキハ該局ハ直ニ拂渡國ノ貨幣ニテ目錄ニ記載セラレタル金額ニ對
シ受取人ノ爲ニ內國郵便爲替券ヲ發行シ拂渡國ノ現行規則ニ從ヒ直ニ之ヲ受取人又ハ拂渡局ニ送付ス

第十三條

名宛人ノ氏名ノ誤謬ヲ訂正シ又ハ郵便爲替ノ金額ヲ差出人ニ拂戻スコトヲ希望スルトキハ差出人
ハ爲替振出國ノ郵政廳ニ之ヲ請求スヘシ

第十四條

郵便爲替ノ拂戻ハ如何ナル場合ニ於テモ拂渡國郵政廳カ其ノ爲替ノ未拂ナルコトヲ證明シ且其ノ
拂戻ヲ承認シタル後ニ非サレハ之ヲ爲ササルヘシ

第十五條

差出人カ拂渡通知書ヲ受クルコトヲ請求シタル郵便爲替ハ爲替目錄ニ於テ此等爲替ノ記事ニ對シ
備考欄ニ「P」ナル記號ヲ附シテ之ヲ指示スルモノトス

拂渡通知書ノ發行ハ拂渡國ノ內國規則ニ依リ之ヲ爲スモノトス拂渡通知書ノ送達ハ交換局ヲ經由
シテ之ヲ爲ス交換局ハ此等通知書ヲ爲替目錄ノ末尾ニ集記シ目錄ト共ニ之ヲ關係交換局ニ送付ス
拂渡通知書ハ萬國郵便聯合ノ現行郵便爲替交換約定施行規則附錄離形ニ適合又ハ類似スル式紙ヲ
以テ作成シ之ニ關係爲替ノ國際番號ヲ常ニ記載スルモノトス

第十六條

爲替振出ノ後差出人其ノ爲替ノ拂渡通知書ヲ請求スルトキハ該通知書ハ差出國交換局ニ於テ之ヲ
作成スルモノトス該局ハ目錄及爲替ノ番號ヲ通知書式紙ニ記載シテ之ヲ名宛國交換局ニ送付ス

第十七條

郵便爲替ハ之ヲ振出シタル月ノ滿了後十二月間ニ各國ニ於テ拂渡サルヘキモノトス此ノ期間内ニ
拂渡サレザリシ總テノ郵便爲替金額ハ振出國郵政廳ニ復歸シ該廳ノ處分ニ任スヘシ

第十八條

第二郵便爲替券ハ拂渡國ニ於テ制定シ又ハ制定スヘキ規則ニ從ヒ同國郵政廳ニ於テノミ之ヲ發行
スヘシ

一國ヨリ他國ニ送ル郵便爲替ハ振出ニ關シテハ差出國ノ現行規則ニ又拂渡ニ關シテハ名宛國ノ現行規則ニ依ルヘシ

第十九條

日本遞信省ハ墨西哥郵政廳ト郵便爲替ノ交換ヲ保持スル諸國ノ孰レカニ宛テ墨西哥郵政廳ノ媒介ニ依リ郵便爲替ヲ振出サムト欲スルトキハ左ノ條件ニ依リ之ヲ振出スコトヲ得

甲 日本交換局ハ墨西哥交換局ニ此等郵便爲替ノ金額ヲ通知スヘシ墨西哥交換局ハ更ニ拂渡ヲ爲スヘキ國ノ交換局ニ之ヲ通知スヘシ

乙 此等郵便爲替ハ墨西哥振出ノ郵便爲替ニ付名宛國ニ於テ定メタル最高額ヲ超過スルコトヲ得ス此等郵便爲替ノ細項ハ墨西哥交換局ニ送付スヘキ通常ノ報知目錄ノ末尾又ハ別葉ニ媒介爲替ナル表題ノ下ニ記載シ該爲替ノ總金額ハ孰レノ場合ニ於テモ之ヲ通常ノ目錄ノ總計中ニ算入スヘキモノトス

丙 名宛人ノ居所氏名ハ拂渡國名及市邑名トモ成ルヘク完全ニ之ヲ記載スヘシ

丁 日本遞信省ハ媒介爲替ニ對シ墨西哥ニ於テ拂渡スヘキ爲替ニ對スルト同一割合ノ歩合金(第六條參看)ヲ墨西哥郵政廳ニ支拂フヘシ墨西哥郵政廳ハ媒介爲替ニ對シ墨西哥振出ノ爲替ニ對スルト同一割合ノ歩合金ヲ拂渡國郵政廳ニ支拂フヘク又其ノ媒介業務ニ對シ墨西哥郵政廳所定ノ特別手数料ヲ各媒介爲替ノ金額ヨリ控除スヘシ

己 媒介爲替ノ金額ヲ差出人ニ拂戻ストキト雖媒介業務ニ對シ引去リタル手数料ハ之ヲ返還セサルヘシ

墨西哥郵政廳ハ日本遞信省ト郵便爲替ノ交換ヲ保持スル諸國ノ孰レカニ宛テ日本遞信省ノ媒介ニ依リ郵便爲替ヲ振出サムト欲スルトキハ前項ニ定メタルモノト同様ノ條件ノ下ニ之ヲ振出スコトヲ得又各郵政廳ハ自願ト郵便爲替ノ交換ヲ保持スル諸國ノ孰レカヨリ發シ他國又ハ他國ト郵便爲替ヲ交換スル他諸國ノ孰レカニ宛テ郵便爲替ヲ自願ト媒介ニ依リ本條第一項ニ掲グルモノト同一ノ條件ヲ以テ振出スコトヲ得

各郵政廳ハ自願ト郵便爲替ヲ交換スル國名、各國ニ對シ採用セル最高額及媒介業務ニ對シ引去ル手数料ノ割合ヲ他方ニ通知スヘシ

第二十條

各交換局ハ毎月末附録丙號離形ニ從ヒ他國ニ於テ振出シタル郵便爲替ニシテ振出ノ月ノ滿了後十二月間ニ拂渡サレサリシ爲其ノ效力ヲ失ヒタルモノノ細項ヲ示ス目錄ヲ作成シテ之ヲ關係交換局ニ送付スヘシ

第二十一條

日本遞信省ハ每三月ノ滿了後左ノ事項ヲ包含スル郵便爲替計算書ニ通テ墨西哥郵政廳ニ送致スヘシ

甲 日本ノ貸方ニハ計算書ノ關係スル二月中墨西哥交換局ヨリ發送セル目錄ニ依リ通知セラレタル爲替ノ總金額、爲替(俾房)ニ宛テ又ハ俾房ヨリ差出スモノヲ除ク)ニ對シ支拂ハルヘキ歩合金(第六條)、同三月中拂戻ヲ承認セラレタル日本振出爲替ノ總金額、同三月中效力ヲ失ヒタル日本振出爲替ノ總金額及場合ニ依リ同三月中日本遞信省ヨリ内拂金トシテ支拂ヒタル金額(第二十四條)

乙 墨西哥ノ貸方ニハ同三月中日本交換局ヨリ發送セル目錄ニ依リ通知セラレタル爲替ノ總金額、爲替(俾房)ニ宛テ又ハ俾房ヨリ差出スモノヲ除ク)ニ對シ支拂ハルヘキ歩合金、同三月中

額、爲替(俾房)ニ宛テ又ハ俾房ヨリ差出スモノヲ除ク)ニ對シ支拂ハルヘキ歩合金、同三月中

拂戻ヲ承認セラレタル墨西哥振出爲替ノ總金額同三月中效力ヲ失ヒタル墨西哥振出爲替ノ總金額及場合ニ依リ同三月中墨西哥郵政廳ヨリ内拂金トシテ支拂ヒタル金額(第二十四條)郵便爲替計算書ハ附録丁號雛形ト同様ノ式紙ヲ以テ作成シ之ニ同三月中交換シタル目錄並拂戻及失効爲替ノ明細書(附録戊)已及庚號雛形參看)ヲ添附スヘシ計算書ノ一通ハ承認ノ上之ヲ日本遞信省ニ返還スヘシ

第二十二條

計算書ノ作成及計算書ノ差額決定ノ爲日本貨幣一圓ハ墨西哥貨幣一「ペソ」ニ均シク從テ墨西哥貨幣一「ペソ」ハ日本貨幣一圓ニ均シキモノト看做ス

第二十三條

日本遞信省カ墨西哥郵政廳ニ計算書ノ差額ヲ支拂フヘキトキハ計算書ヲ送付スルト同時ニ之ヲ爲スヘク又墨西哥郵政廳カ差額ヲ支拂フヘキトキハ承認シタル計算書ノ複本ヲ日本遞信省ニ返還スルト同時ニ之ヲ爲スヘシ
差額カ墨西哥郵政廳ノ貸ナルトキハ「メキシコ」宛一覽拂爲替手形ヲ以テ墨西哥貨幣ニテ之ヲ支拂フヘク又差額カ日本遞信省ノ貸ナルトキハ東京又ハ横濱宛一覽拂爲替手形ヲ以テ日本貨幣ニテ之ヲ支拂フヘシ

第二十四條

何時ト雖兩郵政廳ノ一方カ他方ニ對シ郵便爲替ノ計算上一萬「ペソ」又ハ一萬圓ヲ超過スル差額ヲ借越ストキハ借越郵政廳ハ第二十一條ノ每三月決算ノ内拂トシテ差額ノ最近額ヲ速ニ貸越郵政廳ニ送付スヘシ

第二十五條

郵便爲替業務ニ關スル官用文書ニシテ兩郵政廳間者ハ兩郵政廳ニ屬スル交換局間ニ交換スルモノ又ハ兩郵政廳カ其ノ相互ノ關係ニ於テ使用スル計算書其ノ他ノ式紙ハ總テ佛蘭西語ニテ之ヲ記載スルコトヲ要ス但シ各自國語ニ於ケル對譯ヲ附スルコトヲ妨ケス

第二十六條

各郵政廳ハ郵便爲替業務ヲ停止スルヲ至當ナリトスル非常ノ場合ニ於テハ一時其ノ全部又ハ一部ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ旨ヲ直ニ他ノ關係郵政廳ニ通知スルモノトス必要ナルトキハ電信ニ依リ

第二十七條

一方ニ於テ日本帝國遞信大臣及他方ニ於テ墨西哥合衆國郵政長官ハ本條約ノ規定ニ牴觸セサル限詐欺ニ對スル保障ヲ一層大ナラシムル爲又ハ一般ニ此ノ制度ノ施行ヲ一層良好ナラシムル爲協儀ニ依リ又ハ依ラスシテ附加規定ヲ設クルノ權能ヲ有ス

第二十八條

本條約ハ兩郵政廳ニ於テ協議ヲ以テ決定スヘキ日ヨリ實施シ孰レカ一方カ通告シタル日ヨリ六月ノ後其ノ效力ヲ失フ
明治四十三年四月十一日東京ニ於テ及千九百十年二月二十八日「メキシコ」ニ於テ一通ヲ作成シ之ニ署名ス

日本帝國遞信大臣 男爵後 藤 新 平
墨西哥合衆國遞信工部大臣 レアンドロ、フェルナナンデス

甲 號 日本交換局印

日本又ハ其ノ他ノ國ニ於テ振出シ墨西哥又ハ其ノ他ノ國ニ於テ拂渡スヘキ郵便爲替ノ目錄

目錄第.....號
第.....葉

此等ノ欄ハ日本交換局ニ於テ記入スヘキモノトス										此等ノ欄ハ墨西哥交換局ニ於テ記入スヘキモノトス		
爲替ノ國	際番號	原爲替ノ番號	原爲替ノ日附	振出シタ郵便局	差出人ノ氏名	受取人ノ氏名	受取人ノ居所	日本貨幣ノ金額	墨西哥貨幣ノ金額	内國爲替ノ番號	拂渡局	備考
												<p style="text-align: center;">甲 號(裏面)</p> <p>目錄第.....號</p> <p>總額.....圓.....錢ナレ千九百.....年.....月.....日附第.....號目錄領收致候</p> <p>左ノ事項ヲ除クノ外該目錄ノ正確ナルコトヲ認メ候</p> <p>當方ヨリハ總額.....「ペソ」.....「センタ」 「グナ」ナル第.....號國際郵便爲替目錄ヲ及 送付候</p> <p>本目錄領收ノ旨及本目錄調査ノ結果通知有 之度候敬具</p> <p>千九百.....年.....月.....日</p> <p style="text-align: center;">郵便爲替交換局長</p> <p>.....ニ於テ</p> <p style="text-align: center;">郵便爲替交換局長殿</p>

乙 號 墨西哥交換局印

墨西哥又ハ其ノ他ノ國ニ於テ振出シ日本又ハ其ノ他ノ國ニ於テ拂渡スヘキ郵便爲替ノ目錄

目錄第.....號
第.....葉

此等ノ欄ハ墨西哥交換局ニ於テ記入スヘキモノトス										此等ノ欄ハ日本交換局ニ於テ記入スヘキモノトス		
爲替ノ國	際番號	原爲替ノ番號	原爲替ノ日附	振出シタ郵便局	差出人ノ氏名	受取人ノ氏名	受取人ノ居所	墨西哥貨幣ノ金額	日本貨幣ノ金額	内國爲替ノ番號	拂渡局	備考
												<p style="text-align: center;">乙 號(裏面)</p> <p>目錄第.....號</p> <p>總額.....「ペソ」.....「センタ」 「グナ」ナル千九百.....年.....月.....日附第.....號目錄領收致候</p> <p>左ノ事項ヲ除クノ外該目錄ノ正確ナルコトヲ認メ候</p> <p>當方ヨリハ總額.....圓.....錢ナル第.....號國際郵便爲替目錄ヲ及 送付候</p> <p>本目錄領收ノ旨及本目錄調査ノ結果通知有 之度候敬具</p> <p>千九百.....年.....月.....日</p> <p style="text-align: center;">郵便爲替交換局長</p> <p>.....ニ於テ</p> <p style="text-align: center;">郵便爲替交換局長殿</p>

丙 號

千九百...年...月

日本ニ於テ振出シ墨西哥ニ於テ拂渡スヘキ郵便爲替ニシテ振出ノ月ノ満了後十二
月間ニ拂渡サレサリシ爲效力ヲ失ヒタルモノノ目録

爲ノ際號 替國番	原替番 爲ノ號	振出日 附	振出局	金 額		備 考
				ペソ	センタヴ	

墨西哥ニ於テ振出シ日本ニ於テ拂渡スヘキ郵便爲替ニシテ振出ノ月ノ満了後十二
月間ニ拂渡サレサリシ爲效力ヲ失ヒタルモノノ目録

爲ノ際號 替國番	原替番 爲ノ號	振出日 附	振出局	金 額		備 考
				円	銭	

丁 號

千九百...年第...期

日本及墨西哥間郵便爲替交換ノ結果ヲ示ス總計算書

日 本 ノ 貸 高				墨 西 哥 ノ 貸 高			
墨西哥ニ於テ振出シ日本ニ於テ拂渡スヘキ 爲替 明細書ノ通	円	銭		日本ニ於テ振出シ墨西哥ニ於テ拂渡スヘキ 爲替 明細書ノ通	ペソ	センタヴ	
四百分ノ一ノ歩合金				四百分ノ一ノ歩合金			
拂戻サレタル日本振出爲替				拂戻サレタル墨西哥振出爲替			
ペソ センタヴ				圓			
效力ヲ失ヒタル日本振出爲替				效力ヲ失ヒタル墨西哥振出爲替			
ペソ センタヴ				圓			
日本逓信省ヨリ支拂ヒタル内拂金				墨西哥郵政廳ヨリ支拂ヒタル内拂金			
千九百...年...月...日	ペソ	センタヴ		千九百...年...月...日			
千九百...年...月...日				千九百...年...月...日			
千九百...年...月...日				千九百...年...月...日			
計				計			
日本ノ貸高合計				墨西哥ノ貸高合計			
墨西哥ノ貸タル差額				日本ノ貸タル差額			

上記計算書ハ...郵政廳ノ貸タル...
...ノ確定差額ヲ示ス

千九百...年...月...日東京ニ於テ

日本逓信省

検査承認ス

千九百...年...月...日メキシコニ於テ

戊 號						千九百.....年 第.....期			
上記期中交換シタル報知目録ノ明細書									
日本ニ於テ提出シタル爲替				墨西哥ニ於テ提出シタル爲替					
目録ノ 番 號	目録ノ日附		金 額		目録ノ 番 號	目録ノ日附		金 額	
			ペソ	センタヴタ				円	銭

己 號						千九百.....年 第.....期					
上記期中拂戻ヲ承認セラレタル郵便爲替ノ明細書											
日本ニ於テ提出シタル爲替				墨西哥ニ於テ提出シタル爲替							
爲替ノ 國	際 番 號	報 知 目 録		金 額		爲替ノ 國	際 番 號	報 知 目 録		金 額	
		番 號	日 附					番 號	日 附		
				ペソ	センタヴタ					円	銭

庚 號						千九百.....年 第.....期					
上記期中放カラ失ヒタル郵便爲替ノ明細書											
日本ニ於テ提出シタル爲替				墨西哥ニ於テ提出シタル爲替							
爲替ノ 國	際 番 號	報 知 目 録		金 額		爲替ノ 國	際 番 號	報 知 目 録		金 額	
		番 號	日 附					番 號	日 附		
				ペソ	センタヴタ					円	銭

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ伊太利國羅馬ニ於テ帝國外三十九箇國全權委員ノ記名調印シタル萬國農事協會ニ關スル條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年七月十三日

- 内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
- 外務大臣 伯爵小村壽太郎
- 農商務大臣 小松原英太郎

條約第三號 (官報 七月十四日)

條約書

萬國農事協會創設萬國會議ニ出席シタル諸國ノ委員ハ千九百五年五月二十九日ヨリ六月六日ニ瀾リ羅馬ニ於テ數回ノ會議ヲ開キ千九百五年六月七日ノ確定日附ヲ記入シタル條約文ヲ隨定シ該條約文ハ右萬國會議ニ贊同シタル諸國政府ノ承認ヲ經タルニ依リ良好妥當ト認メラレタル全權委任狀ヲ有スル下名等ハ各各其ノ政府ノ名ニ於テ左ノ條項ヲ約定セリ

第一條 萬國常設農事協會ヲ羅馬ニ創設ス

第二條 萬國農事協會ハ國家的一施設體タルヘク加盟國ハ各各其ノ選定ニ係ル委員ニ依リ代表セラルヘシ

該協會ハ總會及常設委員會ヲ以テ組成ス而シテ其ノ組織及職權ハ左ノ諸條ニ於テ之ヲ定ム
第三條 總會ハ加盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組成ス各加盟國ハ其ノ委員數ノ多寡ニ拘ラス總會ニ於

テ本條約第十條ニ掲載スル所ノ各國ノ屬スヘキ等級ニ依テ定メラレタル投票數ヲ有スヘシ

第四條 總會ハ會議ヲ開ク毎ニ會員中ヨリ議長一名副議長二名ヲ互選スヘシ
會議ハ最終ノ總會ニ於テ定メタル期日ニ於テ常設委員會ヨリ提出シ加盟國政府ノ採用シタル日
程ニ依リテ開會スヘキモノトス

第五條 總會ハ萬國農事協會ヲ支配スルモノトス

總會ハ協會ノ組織及内部ノ事務ニ關シ常設委員會ノ起草シタル案ヲ承認シ經費ノ總額ヲ定メ會
計ヲ監督承認ス

協會經費ノ増額若ハ其ノ權限ノ擴張ヲ要スヘキ一切ノ修正ハ諸加盟國政府ノ承認ヲ受クル爲總
會ヨリ之ヲ提出スヘシ總會ハ會議ノ期日ヲ定メ其ノ規則ヲ制定ス

加盟國投票總數三分ノ二ヲ代表スル委員總會ニ出席スルニ非サレハ其ノ議事有效ナラサルモノ
トス

第六條 協會ノ事務執行權ハ之ヲ常設委員會ニ一任シ常設委員會ハ總會ノ指揮監督ノ下ニ其ノ決
議ヲ執行シ總會ニ付スヘキ議案ヲ準備ス

第七條 常設委員會ハ諸加盟國政府ノ指命シタル委員ヲ以テ組成ス各加盟國ハ常設委員會ニ一名
ノ代表者ヲ置クヘシ但シ常設委員ノ實數十五名ヨリ少ナカラサルニ於テハ一加盟國ノ代表ハ他
ノ加盟國ノ代表者ニ委任スルコトヲ得ルモノトス

常設委員會ニ於ケル投票ノ條件ハ第三條ニ於テ總會ノ爲ニ示定シタルモノト同一ナルヘシ

第八條 常設委員會ハ該委員中ヨリ議長一名副議長二名ヲ互選シ其ノ任期ハ三箇年トス但シ再選
ヲ妨ケス常設委員會ハ内部ノ規則ヲ定メ總會カ常設委員會ノ處分ニ委シタル經費金額ノ制限内

ニ於テ協會ノ豫算ヲ議定シ同會事務局役員及職員ヲ任免ス
常設委員會書記長ハ總會書記ノ職務ヲ行フモノトス

第九條 協會ハ其ノ行動ヲ國際的範圍内ニ制限シテ左ノ事務ヲ行フヘシ

(イ)耕作、動植物ノ生産、農産物ノ貿易及各地ノ市場ニ於ケル時價ニ關シ統計上、技術上及經濟上
ノ諸報告ヲ成ルヘク速ニ蒐集、考究及刊行スルコト

(ロ)前項ニ掲ケタル諸報告ヲ成ルヘク速ニ關係者ニ通告スルコト

(ハ)農業者ノ賃銀ヲ指示スルコト
(ニ)世界中何レノ地タルヲ問ハス新ニ植物病發生シタルトキハ發病地域、病毒傳播ノ進行及若
シ出來得ヘクムハ病毒ヲ撲滅スルニ有效ナル方法ヲモ併セテ之ヲ通知スルコト

(ホ)各種ノ農業組合、農業保險、農業銀行ニ關スル問題ヲ考究シ右組合、保險、銀行等ノ組織ニ關シ
諸國ノ爲ニ有益ナルヘキ事項ヲ蒐集刊行スルコト

(ハ)若シ必要アルトキハ農事萬國會議、其ノ他ノ農事會議、農業ニ關スル應用學術會議、農事協
會、學士院、學士團體等ノ表彰シタル希望等ノ如キ必要ナル一切ノ報告材料ヲ豫メ蒐集シタ
ル上農業者共通利益ノ保護及共ノ狀態改良ニ關スル方法ヲ諸加盟國政府ニ提議スルコト
特別ナル事情アル一國ノ經濟上ノ利益、法令及行政ニ關スル一切ノ問題ハ協會ノ權限ニ屬セサ
ルモノトス

第十條 萬國農事協會ニ加盟シタル諸國ハ各共ノ適當ト認ムル所ニ隨ヒ左記五箇ノ等級内ニ列ス
ルモノトス
各加盟國ノ有スヘキ投票ノ數及經費分擔單位ノ數ハ左ノ累進率ヲ以テ之ヲ定ム

國ノ等級

投票數

經費單位數

一 等

五

一六

二 等

四

八

三 等

三

四

四 等

二

二

五 等

一

一

如何ナル場合ニ於テモ經費各單位ノ分擔額ハ二千五百法ヲ超過スヘカラサルモノトス
最初二箇年間ハ經費各單位ニ對スル負擔額ハ千五百法ヲ超過スヘカラサルモノトス
諸殖民地ハ其ノ所屬本國ノ請求ニ依リ獨立國ト同一ナル條件ヲ以テ萬國農事協會ニ加盟スルヲ
得ヘシ

第十一條 本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准書ノ交換ハ成ルヘク速ニ該批准書ヲ伊太利國政府ニ寄託
シテ之ヲ行フヘシ

右證據トシテ諸國ノ全權委員ハ本條約ニ記名調印ス

千九百五年六月七日羅馬ニ於テ本條約書一通ヲ作り之ヲ伊太利國外務省ニ寄託シ其ノ證據本ハ
外交上ノ手續ニ依リ諸加盟國ニ交付ス

- 伊 太 利 國 チットーニ印
- モンテネグロ國 シエネラル、ミタル、マルチノウヰヰチ印
- 露 西 亞 國 クルーベンスキー印
- 亞爾然丁共和國 バルドメロ、エム、フオンセア印

- 羅馬尼亞國 ニコラス、フレヴァア印
- 塞爾比亞國 エム、ミロヴァノウヰヰチ印
- 白 耳 義 國 エル、ウエルハゲ、ド、ネーイエル印
- サルヴァドル國 シー、グスタヴオ、グエレロ印
- 葡 萄 牙 國 エム、デ、カルヴァリヨ、エ、ヴァスココンセロス印
- 墨西哥合衆國 シエー、ア、エステヴァア印
- 盧 森 堡 國 エル、ウエルハゲ、ド、ネーイエル印
- 瑞 西 聯 邦 シー、ペー、ピオダ印
- 波 斯 國 エヌ、マルコルム印
- 日 本 國 大山綱介印
- エグアートル國 シー、デー、メラ印
- 勃爾牙利國 デー、ミンチウヰヰチ印
- 丁 抹 國 伯爵モルトケ印
- 西 班 牙 國 デニエラ、デ、アルコス印
- 佛 蘭 西 國 カミル、パレール印
- 瑞 典 國 ビルト印
- 和 蘭 國 「ヨングヘール」、ファン、デル、ゲース印
- 希 臘 國 クリスチアン、モツツオボウロス印
- ウ ル グ エ ー 國 シヤン、クエスタス印

獨逸國	ア、モンツ印
玖瑪國	カルロス、デ、ペドロツ印
埃地利洪牙利國	埃地利洪牙利國特命全權大使ハ、リニツオウ印
諾威國	カルル、レーウエンスキヨルド印
埃及國	アシツ、イゼツト印
大不列顛愛爾蘭國	エドウ非ン、エツチ、エガートン印
グアテマラ國	トマス、セガリーニ印
エチオピア國	シウゼツベ、クポーニ印
尼加羅瓦國	シヤン、シオルダノ、ヂニツク、デ、オラチノ印
亞米利加合衆國	ヘンリー、ホワイト印
伯刺西爾國	パロス、モレイラ印
コスタリカ國	ラファエル、モンテレーグレ印
智利國	ヅキクトル、グレッツ印
祕露國	アンドレーヌ、ア、カセレス印
清國	黃誥印
巴拉グエー國	エフ、エス、ベヌッチ印
土耳其國	エム、レンソド印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治三十八年六月七日伊太利國羅馬府ニ於テ萬國農事協會創設萬國會議ニ參列シタル帝國ノ委員ト各國ノ委員トノ間ニ協議決定シ同年十二月十九日帝國全權委員ノ記名調印シタル條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕カ意ニ適シ問然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百六十七年明治四十年三月六日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣 子爵林董 印

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル韓國併合ニ關スル條約ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎
外務大臣 伯爵小村壽太郎

條約第四號

日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ハ兩國間ノ特殊ニシテ親密ナル關係ヲ願ヒ相互ノ幸福ヲ増進シ東洋ノ平和ヲ永久ニ確保セムコトヲ欲シ此ノ目的ヲ達セムカ爲ニハ韓國ヲ日本帝國ニ併合スルニ如カサルコトヲ確信シ茲ニ兩國間ニ併合條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲日本國皇帝陛下ハ統監子爵寺內正毅ヲ韓國皇帝陛下ハ内閣總理大臣李完用ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ右全權委員ハ會同協議ノ上左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

韓國皇帝陛下ハ韓國全部ニ關スル一切ノ統治權ヲ完全且永久ニ日本國皇帝陛下ニ讓與ス

第二條

日本國皇帝陛下ハ前條ニ掲ケメル讓與ヲ受諾シ且全然韓國ヲ日本帝國ニ併合スルコトヲ承諾ス

第三條

日本國皇帝陛下ハ韓國皇帝陛下、太皇帝陛下、皇太子殿下並其ノ后妃及後裔ヲシテ各其ノ地位ニ應ジ相當ナル尊稱、威嚴及名譽ヲ享有セシメ且之ヲ保持スルニ十分ナル歳費ヲ供給スヘキコトヲ約ス

第四條

日本國皇帝陛下ハ前條以外ノ韓國皇族及其ノ後裔ニ對シ各相當ノ名譽及待遇ヲ享有セシメ且之ヲ維持スルニ必要ナル資金ヲ供與スルコトヲ約ス

第五條

日本國皇帝陛下ハ勳功アル韓人ニシテ特ニ表彰ヲ爲スヲ適當ナリト認メタル者ニ對シ榮爵ヲ授ケ且恩金ヲ與フヘシ

第六條

日本國政府ハ前記併合ノ結果トシテ全然韓國ノ施政ヲ擔任シ同地ニ施行スル法規ヲ遵守スル韓人ノ身體及財產ニ對シ十分ナル保護ヲ與ヘ且其ノ福利ノ増進ヲ圖ルヘシ

第七條

日本國政府ハ誠意忠實ニ新制度ヲ尊重スル韓人ニシテ相當ノ資格アル者ヲ事情ノ許ス限リ韓國ニ於ケル帝國官吏ニ登用スヘシ

第八條

本條約ハ日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ノ裁可ヲ經テモノニシテ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス右證據トシテ兩全權委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

明治四十三年八月二十二日

隆熙四年八月二十二日

統 監 子爵寺內正毅

內閣總理大臣 李完用

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ獨逸國伯林ニ於テ帝國外十四箇國全權委員ノ記名調印シタル文學的及美術的著作物保護修正ヘルメ條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十三年九月七日

內閣總理大臣 侯爵桂 太郎
外務大臣 伯爵小村壽太郎
內務大臣 法學博士 田東助

條約第五號 (官報 九月八日)

文學的及美術的著作物保護修正ヘルメ條約

獨逸帝國ノ名ヲ以テスル獨逸國皇帝普魯西國皇帝陛下、白耳義國皇帝陛下、丁抹國皇帝陛下、西班牙國皇帝陛下、佛蘭西共和國大統領、大不列顛愛爾蘭聯合王國兼印度國皇帝陛下、伊太利國皇帝陛下、日本國皇帝陛下、「リベリヤ」共和國大統領、盧森堡國大公、「ナツソ」公殿下、「モナコ」國公殿下、諸威國皇帝陛下、瑞典國皇帝陛下、瑞西聯邦政府、突尼斯國王殿下ハ文學的及美術的著作物ニ關シ著作權ノ權利ヲ及フ限リ有效且均等ノ方法ヲ以テ保護セムコトヲ均ク希望シ之カ爲千八百八十六年九月九日附ヘルメ條約、其ノ附屬追加條款及終局議定書並千八百九十六年五月四日附巴里追加規定及解釋宣言書ヲ修正スル條約ヲ締結スルニ決定シ各其ノ全權委員ヲ任命セリ(委員氏名省略) 因テ各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條 締盟國ハ文學的及美術的著作物ニ關シ著作者ノ權利ヲ保護セムカ爲同盟ヲ組織ス

第二條 「文學的及美術的著作物」ナル名稱ハ複製ノ方法若ハ形式ノ如何ヲ問ハス書籍小冊子及其ノ他ノ文書、演劇脚本、樂譜、入演劇脚本、登場カ文書其ノ他ノ方法ヲ以テ定メラレタル舞踏及無言劇、文句入り又ハ文句ナシノ樂譜、圖畫、油畫、建築、彫刻、銅版畫及石版畫ニ關スル著作物、圖解、地圖、地理學、地文學、建築學若ハ科學ニ關スル圖、畫及模型ノ如キ文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル一切ノ製作物ヲ包含ス

翻譯、翻案、變曲其ノ他文學的若ハ美術的著作物ノ變形複製物並異ナリタル著作物ノ編輯物ハ原作物ノ著作者ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ原著作物ト同一ニ保護セラルヘキモノトス

締盟國ハ前二項ニ規定セル著作物ノ保護ヲ爲スヘキ義務ヲ有ス

工業ニ應用シタル美術物ハ各國内國法ノ認ムル場合ニ於テ之ヲ保護スヘキモノトス

第三條 本條約ハ寫眞及之ノ類似ノ方法ヲ以テ作リタル著作物ニ適用ス締盟國ハ之ヲ保護スヘキ義務ヲ有ス

第四條 同盟國ノ一ニ屬スル著作者ハ公ニセサル若ハ同盟國ノ一ニ於テ始メテ公ニシタル著作物ニ關シ著作物ノ本國以外ノ國ニ於テ其ノ國法カ内國人ニ現ニ許與シ若ハ將來許與スヘキ權利並特ニ本條約ニ依リ許與セラレタル權利ヲ享有ス

右權利ノ享有及行使ハ何等方式ノ履行ヲ要セス其ノ享有及行使ハ著作物ノ本國ニ於ケル保護ノ存在ニ係ルコトナシ從テ本條約ニ定メタル規定ノ外保護ノ範圍並權利防衛ノ爲著作者ニ擔保セラレタル救済ノ方法ハ專ラ保護ノ要求セララルル國ノ法律ニ依ルヘキモノトス

公ニセサル著作物ニ關シテハ著作者ノ屬スル國ヲ以テ著作物ノ本國トシ公ニシタル著作物ニ關シテハ第一發行ノ國ヲ以テ本國トシ數箇ノ同盟國ニ於テ同時ニ公ニシタル著作物ニ關シテハ右諸國ノ中ニ付其ノ國法ノ許與スル保護ノ期間最モ短キ國ヲ以テ其ノ本國トス同盟ニ屬セサル國ト同盟國トニ於テ同時ニ公ニシタル著作物ニ關シテハ同盟國ヲ以テ本國ト看做ス

公ニシタル著作物トハ本條約ノ意義ニ於テハ刊行シタル著作物ヲ云フ演劇脚本若ハ樂譜入演劇脚本ノ與行、音樂的著作物ノ演奏、美術的著作物ノ展覽及建築的著作物ノ建設ハ公ニスルノ意味ニアラサルモノトス

第五條 同盟國ニ屬スル著作者ニシテ他ノ同盟國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ公ニシタルトキハ其ノ國ニ於テ内國著作物ト同一ノ權利ヲ有ス

第六條 同盟國ニ屬セサル著作者ニシテ同盟國ノ一ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ公ニシタルトキハ其ノ國ニ於テハ内國著作物ト同一ノ權利ヲ享有シ他ノ同盟國ニ於テハ本條約ノ許與スル權利ヲ享有ス

第七條 本條約ニ依リ許與スル保護ノ期間ハ著作者ノ生存間及其ノ死後五十年トス然レトモ同盟國ノ凡テカ前項ノ期間ヲ採用セサル場合ニ於テハ保護期間ハ保護ノ要求セラレタル國ノ法律ニ依ルヘキモノトス且著作物ノ本國ニ於テ定メタル期間ヲ超過スルコトヲ得ス從テ締盟國ハ自國ニ於ケル期間ニ合致スル範圍内ニアラサレハ前項ノ規定ヲ適用スルヲ要セス

寫眞著作物及寫眞ト類似ノ方法ヲ以テ作リタル著作物、遺著、無名若ハ變名著作物ニ關シテハ保護ノ期間ハ保護ノ要求セラレタル國ノ法律ニ依ルヘキモノトス但シ著作物ノ本國ニ於ケル期間ヲ超過スルコトヲ得ス

第八條 公ニセサル著作物ノ著作者ニシテ同盟國ノ一ニ屬スル者及同盟國ノ一ニ於テ始メテ公ニ